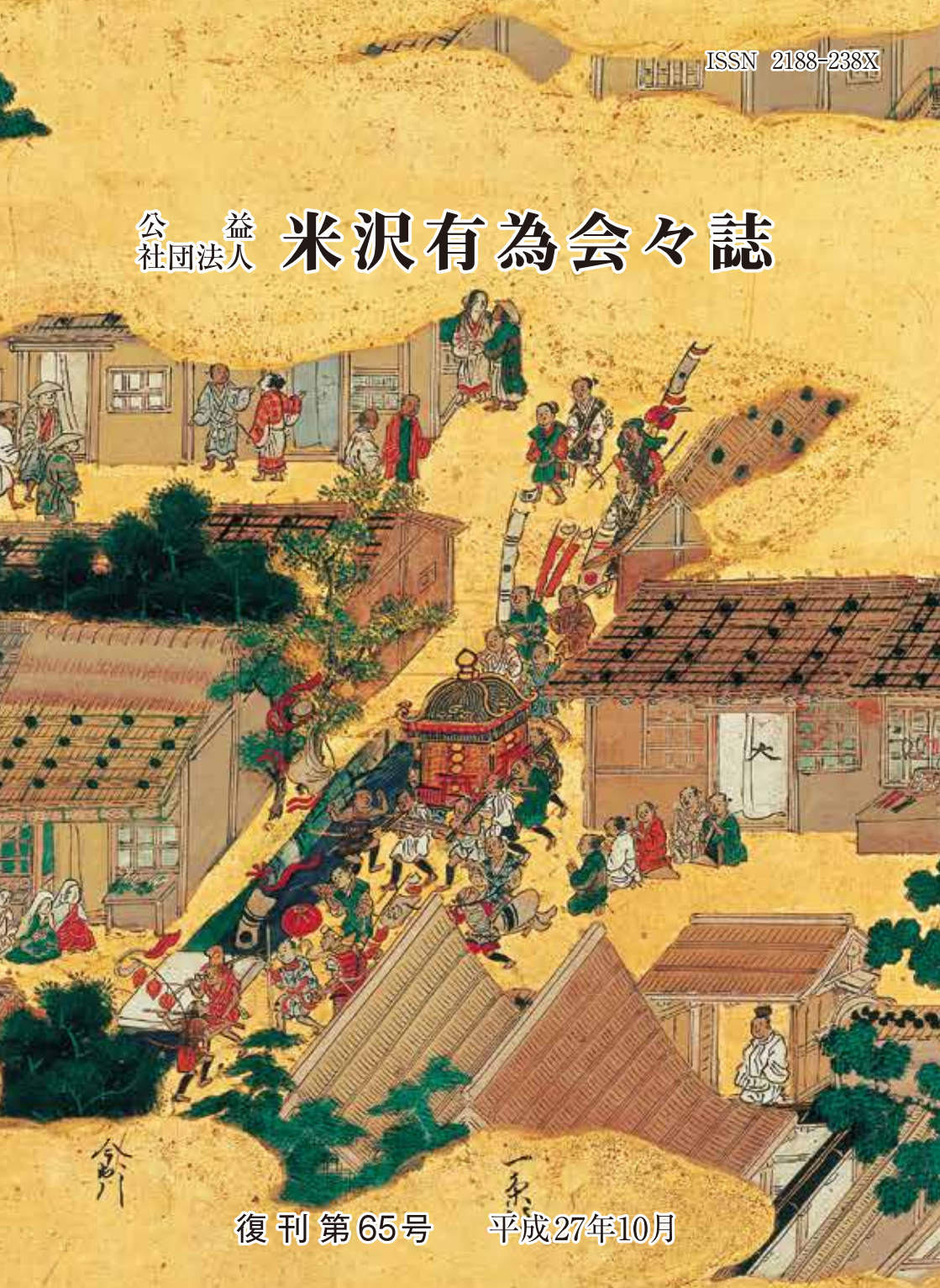
ISSN 2188-238X

公益社団法人

米沢有為会々誌



復刊第65号　　平成27年10月

登録商標第１４５７０８４号

米沢牛販売店

日本橋　　日山

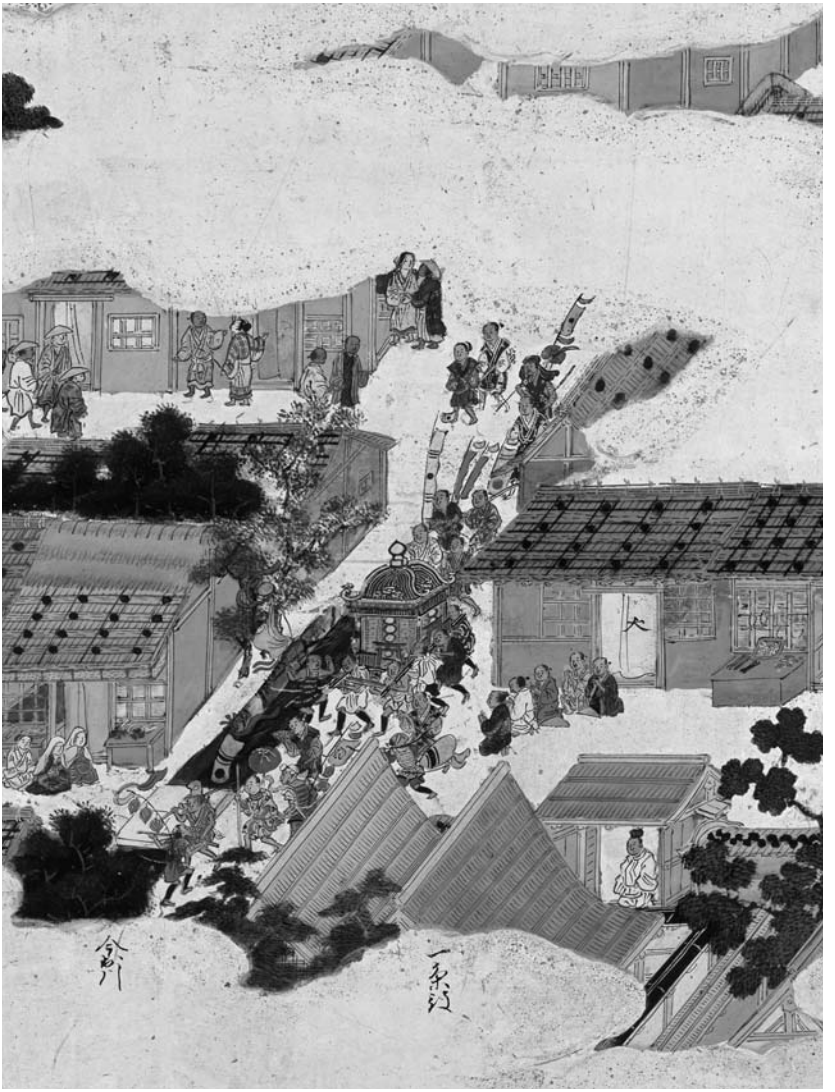
日本橋　日山　本店	中央区日本橋人形町２－５－１	TEL　０３（３６６６）５２５７
ビフテキコーナー日山	中央区日本橋人形町２－５－１	TEL　０３（６６６１）２９０４
すき焼き割烹　日山 （予約が必要です）	中央区日本橋人形町２－５－１	TEL　０３（３６６６）２９０１
日山　亀戸店	江東区亀戸５－１－１　亀戸駅ビルアトレ内Ｂ１	TEL　０３（３６３８）１１２９
日山　池袋店	豊島区南池袋１－29－１　池袋ショッピングパーク内 B1F	TEL　０３（３９８６）０２９０

米沢牛銘柄推進協議会　　米沢牛出荷組合
山形おきたま農業協同組合

公益社団法人

米沢有為会々誌

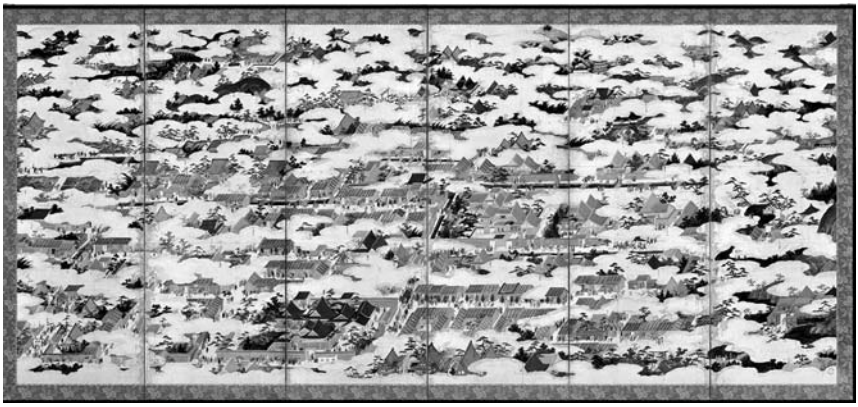
復刊第65号



国宝上杉本洛中洛外図屏風　左隻６扇の今出川付近に神輿行列

〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



↑
表紙は、左隻６扇の今出川付近の神輿行列です。

〈タテ 160.4㎝、ヨコ 365.2㎝〉

国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12年（1574）に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口10万人と言われているので約40人に１人の割合で描かれている。この切り取った絵からは、祇園祭の山鉾の列が見え、祭りに参加している人、見学している人が描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成７年国宝となり、上杉家文書が平成13年国宝となり、米沢に国宝が２点ある。

〈今出川付近の神輿行列〉表紙の場面は、今出川付近の神輿行列の場面です。神輿が通過するところの人々は、土下座して合掌している。橋の反対側では尼さんらしい人も合掌して見送っている。

目　次

ご挨拶……名誉会長　上杉　邦憲……4
新たな期を迎えて……会　長　須貝　英雄……6
本部活動報告……8
第一二八回定時総会報告……8
本部各部門の主要活動報告……13
興譲館寄宿舎アーカイブスのこと
……興譲館寄宿舎OB会……20
私の志 ―二十七年度奨学生の作文―……21
文化講演会……高橋義夫氏……25
支部だより……29
東京支部……29
米沢支部……32
仙台支部……37
北海道支部……41
京都支部……43
我妻榮記念館だより……44
興譲館寮だより……47
東京興譲館……47
仙台興譲館……51
米沢有為会文化大学……53
第十二回　米沢高等工業の戦中戦後　吉本隆明の学生生活と山形大学への参加　山本陽史氏……53
第十三回「俳句」の楽しみ方　鈴木淳一氏……55
第十四回　出版界の草分け『博文館』と大橋音羽の物語　大橋一弘氏……58
第十五回　農との出会い　川井陽一氏……59
置賜市町だより……62
米沢市……62
長井市……66
南陽市……69
高畠町……72
川西町……75
小国町……79
白鷹町……83
飯豊町……88
トピックス……91
[1] なせばなる秋まつり……91
[2] 今に活きる 結城豊太郎先生……92
置賜歴史短信……94
[1] 米沢出身の偉大なる植物学者 小泉源一博士……94
会員の広場……98
「漆の実」俳句会近況……98
短歌同好会「古今小杉短歌会」の近況……101
平成27年度県民芸術祭・米沢巡回展より……102
郷土の本紹介……104
賛助会員名簿……106
公益社団法人米沢有為会役員名簿……108
編集後記……115
本部・各支部事務所等所在地……116

ご挨拶

名誉会長　上杉邦憲

米沢有為会誌六十五号の発刊に寄せて、一言ご挨拶申し上げます。

この一年間、有為会におかれましては、理事・監事の任期満了による新たな体制をスタートして、会の目的である米沢地方（置賜）の奨学育英、産業・文化振興と会員親睦を着実に進められてきたことをお慶び申し上げるとともに、須貝会長はじめ、理事・役員のご苦労・ご努力に感謝し、会員の皆様の御協力に篤く御礼申し上げます。

さて、一年前といえば、キャロライン・ケネディ米国駐日大使が、秋祭りで賑わう伝国の杜にお出でになり、熱狂する三千人余りの人々に迎えられたのが、平成二十六年九月二十七日のことでした。歓迎の人々を前に「父は『一人でも世の中を変えることができる』とよく話していました。しかし上杉鷹山ほどこのことを端的に言い表した人はいません。」と挨拶され、最後に『ＮＡＳＥＢＡ　ＮＡＲＵ！』と日本語で言われたのは感動的でした。

長い年月をかけて、藩の立て直しを図った鷹山公と、人類初の挑戦を行ったＪＦＫ、目的は違っても、その燃える心には共通したものが感じられます。そして鷹山公が「なせばなる・・・」の言葉は、ＪＦＫの大統領就任より百八十五年ほど前のことであり、「伝国の辞」はリンカーンのゲティスバーグでの演説より七十八年前だったことを思うと、国や時代をも超えた鷹山公の精神の偉大さをあらためて感じます。

また、ＪＦＫが大統領就任演説の中で「国が何をしてくれるかではなく、国に対して何が出来るかを考えよう」と呼びかけましたが、この「国」を単に「国」と捉えるだけでなく、私たちの属する「社会」や「家族」そして「人」に置き換えて考えると、実はこれが「愛と義の町」米沢が標榜する「愛」の姿を表していることに気付かされます。有為会も、郷土を愛し二十一世紀の米澤そして日本を支える人材を育てるために何が出来るかを考えて積極的に参加したいと思えるような魅力的な会になれば素晴しいと思います。

今年の夏も、猛暑や局地的豪雨などの異常気象が続きましたが、会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしになられることを、そして米沢有為会がさらなる発展を遂げられますことを祈念してご挨拶といたします。

新たな期を迎えて

米沢有為会会長　須貝英雄

米沢有為会会員の皆様、日ごろから当米沢有為会の活動に多大なご支援・ご協力をいただき、心から厚く御礼申し上げます。

私たち米沢有為会は、一八八九年（明治二十二年）伊東忠太先生をはじめとした六名の有志によって設立され、その後、太平洋戦争等の苦難の歴史を乗り越えながら、先人たちのたゆまざる努力のおかげで連綿として受け継がれ、本年で百二十七年目を迎えることとなりました。このような歴史の重みをかえりみるとき、当会活動の継続性の重要さをひしひしと感じざるを得ません。

さて、一昨年七月一日付けで公益社団法人に認定され二年が経過し、本年六月二十七日開催の総会において新しい理事役員8名を含む十五名の理事が承認され、新体制がスター

トしました。この新たな期を迎えるにあたって、改めて上述の活動の継続性の重要性を念頭に置きながら、当会の目的とする「育英事業その他の学術及び文化の振興等に関する事業を行う」ことに邁進すべく理事役員一同努力してゆく所存です。そのための当面の課題は、財務基盤の充実であり、事務局をはじめとした管理・運営体制の強化であり、広域的な各支部の協力体制であり、会員の拡大等です。当会の継続性を強化するために、会員皆様のご協力・ご支援が必須となります。

公益的・ボランティア的な活動を行っている当有為会にとって、私たちを取り巻く社会環境の変化は決して容易な状況ではありません。特に、若い人たちをどのように惹きつけてゆくのか、会員として活動していただくのか、が最大の課題です。それとともに、上記継続的な活動をさらに促進するような新たな活動を会員の皆様と一緒に考えてゆきたいと思っています。そして、会員皆様のさらなるご協力のもと、新たな期のスタートにしてゆきたいと思います。

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一、第一二八回定時総会の報告

公益社団法人米沢有為会の第一二八回定時総会は、平成二十七年六月二十七日（土）十三時三十分～十五時、伝国の杜大会議室にて開催されました。公益法人移行後米沢で初めて行われる定時総会でもあり、置賜三市五町の首長、各高等学校長等をご招待し、数名の方にご出席いただきました。

議案審議に先立ち、名誉会長上杉邦憲様よりご挨拶をいただき、その後、新定款第一七条の規定により須貝英雄会長が議長となって開会を宣言し、直ちに議事に入りました。多くの議案が審議されました。新定款第三七条により事業計画書と収支予算書は、毎事業年度の開始の日の前日である三月三十一日までに、会長が作成し、理事会の承認を得て公益認定等委員会に提出しなければならないこととされています。また、新定款第三八条により、事業報告は報告事項とされたため、総会の議決により承認を受けなければならない事項は貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）、貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書並びに財産目録となっています。

議事の概要及び審議経過は次の通りです。

第一号議案　平成二十六年度事業・業務報告（報告案件）

配布の米沢有為会会報（以下「議案書」という。）記載の「平成二十六年度事業・業務報告」に沿って平山英三総務部長より報告及び説明がありました。

第二号議案　平成二十六年度決算及び監査報告（議決案件）

議案書記載の「平成二十六年度決算報告」に沿って、鈴木信之財務担当理事より貸借対照表、損益計算書報告及び財産目録の詳細な説明があり、その後、西澤榮一監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で承認されました。

第三号議案　平成二十七年度事業・業務計画（報告案件）

議案書記載の「平成二十七年度事業・業務計画」について平山英三総務部長より説明がありました。

第四号議案　平成二十七年度収支予算（報告案案）

議案書記載の「平成二七年度収支予算」に沿って鈴木信之財務担当理事より説明がありました。

第五号議案　理事及び監事任期満了による改選の件

平山英三総務部長より定款第二六号の規定により理事及び監事は総会終結時をもって任期満了となるため改選が必要であり、役員選考委員会によって理事及び監事の候補者が推薦されたとのせつめいがあり、新役員候補が紹介された後、個別に採決した結果、すべての候補者が承認されました。

第六号議案　平成二十五年度財産目録修正追認の件

鈴木信行財務担当理事より、昨年承認を受けた平成二十五年度決算中の財産目録と損益計算書および貸借対照表の正味財産の金額に齟齬があり、財産目録の金額の一部修正が必要である旨の説明を受け、修正を承認しました。

○感謝状贈呈

米沢有為会の理事として長年にわたり活躍いただきました方々に須貝会長から感謝状の贈呈がありました。

ご苦労様でした。

佐藤　毅様、沼澤研一様、米野宗禎様、手塚　修様

二、功労賞、特別顕彰表彰式

本年度の本部表彰は、教育功労者一名、産業功労者一名と特別顕彰者一名の方に決定し、それぞれ表彰状と記念品が贈られました。表彰式では上杉名誉会長から授与されました。

○教育功労者

小形　義和　様（米沢市文化財保護審議会委員・よねざわ昆虫館運営委員長）

氏は、公立学校教員在職中から視聴覚教育の重要性を認識され、平成八年よりこれまで一〇本のビデオ教材を制作し、米沢市内小中学校等に自主配布。理科の授業や昆虫館等で活用されている。

この間、山形県や全国の視聴覚教材コンクールで数々の賞を受賞している。

また、市内各コミュニティセンター主催の講師として親

子のトンボ自然観察活動や、教員を対象とした自然観察活動などの自主活動も行っている。
平成二十四年度には、これまでの視聴覚教育の功績を評価され、日本視聴覚教育協会より「視聴覚教育功労者」として表彰されている。
※受賞決定後に、病気療養中でしたが、残念ながら亡くなられましたので奥様と娘さんで代理受賞されました。

○産業功労者

本田　貞夫　様（米沢山岳遭難対策委員会市民協力隊隊長）

氏は、三十年以上に亘り環境省自然公園指導員を務められ、登山客や地元高校生に対する登山指導を行い、登山者のマナーや安全な登山知識の普及啓発向上、自然保護活動に尽力された。
また、山岳遭難等の有事の際は、遭難者の捜索、救助活動にも率先して取り組まれ、アドバイザーとしても適切な指導を行っている。
そして、米沢山の会の理事長及び会長の要職にも就かれ、平成十六年からは名誉会員として本市の山岳観光の発展に多大な功績を残されている。
平成二十六年五月には自然公園功労者環境大臣表彰を受けている。

○特別顕彰

小林　瑞季　様（川西町立川西中学校三年）

小学校時代に川西ホッケー少年団に所属。技能と体力の向上を図り、川西中学校ホッケー部では主将としてチームをまとめ牽引し東北大会等で活躍された。
そのスピードと闘志溢れる粘り強いプレーが認められ、アンダー16全日本ユースチーム十八名のメンバーに選抜され、オーストラリアで開催されたＦＨＥカップに出場。ゴールを決めるなど果敢なプレーで全日本チームの優勝に貢献された。
現在は高校に進学し、世界大会やオリンピックを目指してトレーニングに励んでいる将来性豊かなプレイヤーである。

※所属、学年は平成二十六年度現在のものです。

三、文化講演会

今年の文化講演会は、山形市在住の作家高橋義夫氏を

講師にお招きしました。氏は一九四五（昭和二十）年千葉県生まれで早稲田大学文学部を卒業され、月刊誌の編集者を経て執筆活動にはいられ、一九九二年『狼奉行』で第一〇六回直木賞を受賞されました。その後時代小説を多数執筆され、二〇一五年五月二十五日中公新書より最後の米沢藩主上杉茂憲公の沖縄県令奮闘記である『沖縄の殿様』を発行されました。現在山形市在住。

ご講演の概要は二五ページに掲載しましたのでご覧ください。

四、総会懇親会

講演会終了後、上杉伯爵邸において講師を囲み和やかに懇親会を開催しました。

◎本部各部門の主要活動報告

○総務部

公益社団法人への移行により、これまで活動してきた企画部、組織部、婦人部を、総務部に統合しました。各理事が組織担当、施設担当、財務担当、総務担当、事務局の業務を分担しています。

組織担当は、会員拡充の活動強化が必要であることから、担当理事を三名とし、東京、米沢、仙台を中心に分担し、東京担当は、舎生ＯＢ会との連携をも担当することとしています。米沢支部が法人賛助会員獲得に強力に進めていますが、他支部も法人賛助会員の獲得に努力していますので、ご協力をお願いします。

施設担当は東京、仙台両興譲館寮と、我妻榮記念館の建物の維持管理を担当していますが、長い間担当理事を務められた佐藤毅さんのようなキャリアの方がなかなか得られず、担当参事による協力体制を取りながらのスタートになっています。我妻榮記念館の劣化改修工事も終わり、十月から開館できるようになりましたのでまたので、これからは仙台興譲館の改修を進めていきます。

公益法人移行に際し、内閣府の指導もあり、理事の定員を三十名以内から十五名以内に半減したため、従来理事であった京都支部長、北海道支部長が理事でなくなり、総務部が連絡調整を担当することとなりましたが、本部支部間の連絡が必ずしも十分でないと思われることから、今後拡大理事会等開き、両支部長の会議出席の機会を検討しています。

公益移行後は毎年、年度終了後三か月以内に運営組織及び事業活動の状況や貸借対照表、損益計算書等を基に収支相償、公益目的事業比率、遊休財産保有の制限等の公益認定の基準に適合していることを書類として提出しなければなりませんが、この報告書は移行認定申請時とほぼ同程度の書類作成が必要であり、その作成を担当している総務担当と財務担当は、複雑で相当の作業量を抱えることになっています。そのため、引き続き事務局体制を複数配置などで強化する必要があり、また、財政基盤強化のためにも会員の増強を進めていく必要がありますので、よろしくご協力をお願いいたします。

昨年、公益法人に対する寄付金の所得控除に加えて、寄付金額のほぼ四割が還付される税額控除適用の証明を取得しましたが、この証明の有効期間が五年間であり、その後も引き続き税額控除を受けるためには、二年間で

二〇〇件以上の寄付金の実績が必要です。是非この税額控除を活用し、寄付金実績の積み上げにご協力いただきたいと思います。

なお、現在総務部長は、副会長の平山が引き続き兼務していますが、総務部長の適任者を求めておりますのでご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いします。

○育英事業部

本会の公益事業の中核をなす育英事業（主に学生寮運営事業、奨学金貸与事業）について報告します。

育英事業の募集についての地元高校の保護者・生徒への説明会（学生寮説明を中心に）を、伊藤和夫理事のもと継続しております。実施高校は、昨二十六年度は五高校、今年度は米沢中央高校（三月二十六日）、米沢興譲館高校（六月十九日）、南陽高校（七月二十二日）、長井高校（七月二十五日）米沢東高校（十月十一日予定）の五高校です。

昨年より興譲館寮環境改善委員会を発足し、中長期的な修繕計画などの検討をすすめています。

二十七年度の育英資金貸与生・学生寮入寮生選考結果は別表1のとおりです。

平成二十七年度奨学金貸与生選考の報告

大学生五名（一年生三名、二年生一名、三年生編入一名）の応募があり、三月二十八日米沢市置賜総合文化センターでの教育委員による面接、二十九日本部理事会審議を経て、面接者全員が合格となりました。しかしその後一名の辞退があり、四名が選考されました。合格者の応募時の作文「私の志」を後掲しています。

平成二十七年度学生寮入寮生選考の報告

東京興譲館寮は募集十名に対して七名、仙台興譲館寮は募集九名に対して四名を選考しました。残念ながら、両寄宿舎とも募集人員を満たせませんでした。

今年度の募集要項の概要

以上のように、昨年度の育英事業への応募状況は必ずしも活況とは言えません。ホームページに加え、地元高校や市・町役所、報道機関向けに積極的に広報活動を行っていますが、口コミも効果が大きいです。有為会会員の皆さまには、心当たりの学生さんがおられましたら、ぜひ勧誘・推薦して頂ければと存じます。

今年度の募集要項の概要は、別表2のとおりです。詳しくは、次の当会ホームページをご参照下さい。

http://www.yonezawa-yuuikai.org/

当会の奨学生選考には特色があります。全国的な日本学生支援機構（旧・日本育英会）の奨学生選考が画一的な年収や学業条件で書類中心に行われるのに対して、当会の奨学生選考は、年収などの画一的基準は排し、数人の教育経験者などによる面接結果を重視しています。応募時に作文「私の志」を求めるのも面接時の対話を深めるためです。寄宿舎生も含め、将来故郷の活性化に寄与したいといった、多くの意欲ある応募者を歓迎します。

（別表1）平成二十七年度奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1．奨学金貸与生

	氏　名	大学・学部・学科	学年	出身高校	出身地
1	大河原　和馬	東北大学経済学部	1年	米沢興譲館高	米沢市
2	田中　一成	中央大学法学部	1年	山形東高	南陽市
3	伊藤　誠	上越教育大教育学部	1年	米沢東高	米沢市
4	渡邉　志保	静岡大農学部	3年	米沢興譲館高・米沢女子短大	米沢市

2．学生寮入寮生

①　東京興譲館寮

	氏　名	大学・学部・学科	学年	出身高校	出身地
1	三浦　啓希	早稲田・大学院文学研究科	M1年	山形東	山形市
2	チョウ・イサク	桜美林・リベラルアーツ	2年	基督教独立学園	墨田区
3	遠藤　勇太朗	国士舘・文	1年	日大山形	山形市

4	加藤翔	慶応・商	1年	米沢興譲館	米沢市
5	上村勇貴	東京学芸大・教育	1年	米沢興譲館	米沢市
6	鈴木千畝	東京学芸大・教育	1年	山形南	東根市
7	我妻裕哉	城西国際・経営情報	1年	米沢興譲館	米沢市

② 仙台興譲館寮

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校	出身地
1	大河原和馬	東北大・経済	1年	米沢興譲館	米沢市
2	坂元雄哉	東北大・歯	1年	米沢興譲館	南陽市
3	山口憲武	東北大・文・人文社会	1年	米沢興譲館	米沢市
4	松井結大	東北福祉大・教育・教育	1年	米沢興譲館	米沢市

（別表2）二十八年度の育英事業募集要項の概要

詳しくは米沢有為会ホームページ（http://www.yonezawa-yuuikai.org/）をご覧下さい。

1. 米沢有為会奨学生の募集要項

応募資格	置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者 （1）平成28年4月大学入学予定者または在学生 （2）健康かつ学業優秀で将来性ある者 （3）経済的理由により就学が困難である者

募集人員	5名程度
貸費金額	月額 4万円
面接選考日・場所	平成28年3月26日(土) 置賜総合文化センター

2. 興譲館寮生の募集要項

寮名	東京興譲館寮	仙台興譲館寮
所在地	東京都調布市（新宿駅より約40分）	仙台市青葉区（中心市街地まで約3㎞）
応募資格	東京及び東京近郊の大学、短大（二部を除く）及び大学院に進学または入学予定者（男子のみ）	仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院に進学または入学予定者（男子のみ）
	以下の条件のいずれかを満たす者 （1）置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 （2）有為会会員1名以上の推薦を受けた者	
募集人員	7名程度（定員24名）	6名程度（定員15名）
寮費（月額）	全室個室、二食付き光熱費・水道代等を含む 4～6月、10～11月 48,000円 7～9月、12～3月 49,500円	夏季 42,000円程度 冬季 44,000円程度
面接日・場所	1月10日 東京、3月12日 米沢、 3月24日 東京	12月20日 仙台、2月13日 米沢 3月12日 米沢、3月25日 仙台

○地域・教育振興部

当部は、教育及び産業振興に関する事業を担当し、事業を遂行するために各種表彰に関する諸事務を行いました。表彰は大きく二つあり、（1）教育文化功労者表彰と産業功労者表彰、そして、小・中・高校生対象の各種大会・競技会において優秀な成績をおさめた者に対する特別顕彰、（2）高等学校卒業生表彰です。

（1）については、前年度末に、米沢支部事務局より、置賜地区3市5町の教育委員会、小・中・高校長会、産業振興関係部・課、商工会議所、米沢有為会支部理事などの関係機関・団体等に候補者の推薦を依頼しました。推薦いただいた内申書に基づき、教育振興担当と米沢支部教育部、地域振興担当と米沢支部産業部において候補者を選考し、本部表彰者は本部理事会において、また、支部表彰者については支部理事会で決定しました。本部表彰は本部総会において、支部表彰は支部総会において行いました。

今年度は、教育功労者として米沢市文化財保護審議委員・よねざわ昆虫館運営委員長の小形義和氏（小形氏は病気療養中のところ表彰式を待たずにご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申しあげます。）、産業功労者として米沢山岳遭難対策委員会市民協力隊隊長の本田貞夫氏、特別顕彰として川西町立川西中学校三年の小林瑞季さんを本部表彰いたしました。当誌の本部活動報告の中で詳しく紹介しております。

また、（2）については、置賜地区内の十四の高等学校のうち基督教独立学園高等学校を除く十三校から各校一名の推薦を受けて本部理事会で表彰者を決定しました。そして、米沢支部教育部員が各高等学校を訪問し校長に表彰の伝達をお願いして実施しました。

二十六年度高等学校卒業生表彰

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。

今年度の表彰者は次のとおりです。

金澤　凌平	米沢興譲館高等学校	（米沢市）
羽生田恭平	米沢商業高等学校	（米沢市）
尻髙　啓太	米沢工業高等学校	（米沢市）
木村　風香	米沢東高等学校	（米沢市）
鹿俣　陽可	米沢中央高等学校	（米沢市）
菊地　哲也	九里学園高等学校	（長井市）
中瀬　敦尋	南陽高等学校	（長井市）

塩野目多門　長井高等学校　（高畠町）
小形　美咲　長井工業高等学校　（白鷹町）
長谷部　喬　置賜農業高等学校　（飯豊町）
斎藤　美玖　高畠高等学校　（高畠町）
柳生末帆子　荒砥高等学校　（白鷹町）
笠原　芽衣　小国高等学校　（小国町）

○文化広報部

本部は本会の情報などをお知らせする会誌発行を主体としています。また育英事業部の学生募集号外の発行も手掛けております。今年度役員改選の年でありましたので、理事の分担構成が変わりました。改めて部会を構成し編集会議を行いました。育英事業、人材育成を旨とする本会の会誌に、トピックスや歴史短信を取り入れ紹介しています。置賜全体の情報が必要ですので会員の皆さんのご協力をお願い致します。

なおこの度興譲館舎生ＯＢ会で興譲館だよりの部分をデジタル化することとなり、復刻会誌首号から米沢図書館に保管されてあるものからコピーをしたり、我妻記念館で保管している会誌から全号を提供しました。米沢工業高校徳進化の皆さんに入力作業を委託し完成しました。

平成27年3月20日　米沢有為会だより号外　第6号

米沢有為会育英事業の　学生募集

☆ 寮生募集（平成27年度）

これだけ便利・これだけ安い・これだけ快適

○寮は2食付（朝・夕）で約4.8万円（東京）、約4.2万円（仙台）
●アパートで生活する場合
東京（郊外）で5.5万～6.5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り額約10万円程。
仙台で4万～5万円。他に食費、光熱費など含め仕送り約8.9万円程。
○東京興譲館は新宿駅から約40分。仙台興譲館は市街地まで約3km。
○居室（東京）個室。（仙台）個室。
○企業の採用担当者は寮生活経験者を評価しており、好印象を抱いている。
（協調性、コミュニケーション能力が身に付いている。）

	「東京興譲館」寮	「仙台興譲館」寮
資格	東京及び東京近郊の大学（2部を除く）、短大及び大学院に進学または入学予定者（男子のみ）	仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院に進学または入学予定者（男子のみ）
寮費（月額）	（2食付 光熱費含）4～11月　47,000円　12～3月　48,500円	（2食付 光熱費含）夏季：42,000円程度　冬季：44,000円程度
募集人員	10名程度（定員24名）	9名程度（定員15名）
面接選考日	1月中旬、3月中旬、3月下旬	12月下旬、3月上旬、3月下旬
面接場所	米沢市内、東京興譲館	米沢市内、仙台興譲館

☆「米沢有為会奨学金」貸費生募集
▶対象／4月に大学・大学院へ入学予定者、または大学生・大学院生
▶貸費額／月額40,000円▶募集人員／5名程度
▶面接選考日／3月下旬▶場所／伝国の杜
※詳細はホームページをご覧になるか、所属高校進学指導担当の先生にご相談ください。
【社米沢有為会ホームページ】
http://www.yonezawa-yuuikai.org/

第6号　米沢有為会だより号外　平成27年3月20日

学生寮紹介

公益社団法人　米沢有為会だより号外　米沢支部　第6号

有為会寄宿舎のご紹介

東京興譲館

仙台興譲館

興譲館寄宿舎アーカイブスのこと

興譲館寄宿舎OB会

興譲館寄宿舎は、今年で開設一〇六年となり、この間、寄宿舎を巣立った学生は延べ二千名を超えます。

平成元年に結成された興譲館寄宿舎OB会が二十五周年を迎えた時に、舎生OBの中から、自らが過ごしたその時々の寄宿舎の様子を記述して、それらをパッチワークのように繋ぎ合せれば、多面的でユニークな寄宿舎記録ができるのではないかという提案がありました。

面白い企画とは思いつつも、舎生OBからの原稿を集めることの困難を解消できないでいた時、米沢有為会会誌に毎号登場する「興譲館だより」を暦年順に一気通貫に編集することで、たくまずして興譲館寄宿舎実録ができるはずとの直感が生れました。

幸いなことに、米沢市図書館には、昭和二十四年に復刊した首号及び昭和二十七年の一号から平成二十六年の六十四号まで計六十五冊の米沢有為会会誌が全て所蔵されていることが分かりました。一冊につき数頁に亘り記載されている「興譲館だより」のその部分のみをデジタルデータとして抜き取る根気の要る作業を、米沢工業高校専攻科に依頼したところ、精力的に取り組んでいただき、思いのほか早々に完成することができました。

この興譲館だよりの集大成に加え、有為会会誌の記念号などに記載の寄宿舎関連の寄稿文や写真なども取り込み、これら全体の資料集を「興譲館寄宿舎アーカイブス」と命名し、先ずは、米沢有為会のホームページにリンクする形で今年七月にインターネット上にアップしました。

そうしたところ、これを書籍として発行して欲しいとの要望があり、「興譲館寄宿舎全体編」（左上の写真）「東京興譲館編」「仙台興譲館編」「札幌・山形興譲館編」の四種を作成し舎生OB希望者に頒布すると共に、東京と仙台の興譲館寄宿舎にも備えることとしました。

その時々の寄宿舎の雰囲気、舎生のあり様、寄宿舎の環境などが、舎生自身の手によって、その時代の学生気質を彷彿とさせる筆致で活き活きと描かれております。当時の記憶を呼び醒ますきっかけにして頂ければ幸甚です。

『私の志』――二十七年度奨学生の作文

地元故郷の活性化をめざす

大河原　和　馬

私は大学での学習過程を修了した後、地元である米沢へ戻り、県職員または、市職員として就職し、米沢のさらなる発展に寄与していきたいと考えています。

前述のような考えを持ったのは、自分が生まれ育った故郷である米沢をさらに活気のある都市にしていきたいと思ったからです。昨今、地方都市では、就職のために首都圏へ流出する若者の増加による総人口の減少、総人口における老年者人口の割合の増加に悩まされているのが現状です。そのため、地方の経済力の底上げがなされず、日本の景気の回復が遅れているのだと考えます。その観点からしてみても、地方都市が今後活気を帯びることは、日本全体に良い影響を与えていくと考えております。

しかし、現時点では私が米沢の発展に貢献していくための具体的方策については明確な考えがないため、大学生活での経験を通して模索していきたいと考えています。

いじめ体験を活かし教師・臨床心理士をめざす

伊　藤　　誠

私には、教師または臨床心理士になるという目標があります。

私は高校生活の中で、いじめに遭いました。その時に、担任の先生をはじめ様々な人達に心配していただき支えてもらいました。この経験を通して、心の病の恐ろしさと支える事の大切さを同時に学ぶことが出来ました。そこから目標を持ち始めました。

最近は社会の大きな変化に伴って、子供たちの様子も変化しているなと思う機会が増えてきました。「生きる力」を育む事がより重要視されているようになってきた中で、今以上に子供たちへの負担が大きくなっていま

す。その中で、自分がしていただいたように、今度は私自身が悩み苦しんでいる子供たちの手助けをしてあげたいと強く思っています。そのためにもこれから先は自分から色々な事を学び、吸収して、それらを将来へ活かしたいです。

弱者の楯になる弁護士をめざす

田中一成

私の将来の夢は弁護士になることです。きっかけは中学一年のときに宇都宮健児弁護士の本を読んだことでした。宇都宮弁護士の弱者のために社会悪と闘う姿に強い衝撃を受けました。特に多重債務問題ではどんな状況に陥っている人でも決して見捨てずに悪徳金融会社に最後まで立ち向かう姿が印象的でした。私も宇都宮弁護士のようにどんな人にも救いの手を差し伸べ、最後まで弱者の楯になる弁護士になりたいと思っています。

現在、法曹界では就職難が深刻化しており厳しい状況にあります。しかし、私は中学、高校を通して様々な法律家の方のお話を伺い、なんとしてでも弁護士として働きたいという気持ちが確固たるものになりました。

中央大学進学後は同じ志を持つ仲間と切磋琢磨しながら、一秒でも早く弁護士として働けるように勉学に励んでいきたいと思います。

微生物等の有用性の研究をめざす

渡邉志保

私は、短大で食や健康について学ぶうちに、もっと深く学び、研究したいと思い編入学の道を選んだ。私は、栄養士養成課程の学科から農学部という全く繋がりがない訳ではないが、学ぶ内容が異なる環境へ編入学する。授業が分からない、ついて行くのに必死という厳しい環境で学ばなくてはならないが、自分の夢を達成するためにしがみついていく。

短大で学んだ知識を生かし編入学先では、我々の身近にある食品、作物、微生物等の有用性を解き明かし、応用することで、人々の生活をより豊にする研究をした

い。しかし、生物を対象とする研究は、様々な要因によりいつも同じ結果が出るとは限らない。それでも志を保ちコツコツ実験及び塾考を繰り返し研究していきたいと考える。将来的には研究者となり、今までにないものを生み出し、人々がより幸せな生活を送れるよう貢献するため、現状に満足せず常に好奇心や探求心を持ち、勉学に励んでいきたいと考える。

管内高等学校校章

県立米沢興譲館
高等学校

県立米沢東
高等学校

県立米沢工業
高等学校

県立米沢商業
高等学校

県立置賜農業
高等学校

県立南陽
高等学校

県立高畠
高等学校

県立長井
高等学校

県立長井工業
高等学校

県立荒砥
高等学校

県立小国
高等学校

基督教独立学園
高等学校

学校法人九里
学園高等学校

学校法人米沢
中央高等学校

置賜地区等高等学校卒業生の寄宿舎
奨学制度利用者４年間推移表

平成27年９月現在　（総務部調べ）

	H24年			H25年			H26年			H27年			合計（名）		
	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費	東京興譲館	仙台興譲館	奨学金貸費
米沢興譲館	4	1	3	2	4	2	3		4	3	4	2	12	9	11
米沢東			1	1	1							1	1	1	2
米沢工業					1								0	1	0
米沢商業					1								0	1	0
九里学園													0	0	0
米沢中央			1										0	0	1
長井					1	1							0	1	1
長井工業					1								0	1	0
荒砥													0	0	0
南陽							1		1				1	0	1
高畠													0	0	0
小国													0	0	0
置賜農業							1						1	0	0
山形東										1		1	1	0	1
山形南										1			1	0	0
山形中央							1						1	0	0
日大山形										1			1	0	0
山形工業													0	0	0
基督教独立学園	1			1			2			1			5	0	0
その他		1		2	1		1						3	2	0
計（名）	5	2	5	6	10	3	9	0	5	7	4	4	27	16	17

米沢有為会総会文化講演会

開催日：平成二十七年六月二十七日（土）
会　場：伝国の杜　二階　大会議室
講　師：高橋義夫氏（作家）

「沖縄の殿様」上杉茂憲の県令奮闘記

今日ここで皆さんにお話しをすることになったのは、「沖縄の殿様」という本を書いたことが縁だが、米沢には四十六年前の二十三歳の時に幕末の志士「雲井龍雄」のことを調べに来たのが初めてだ。調べ始めたら何年もかかったが結局小説にはせず、肥後藩の中村六蔵という人が、自叙伝に雲井龍雄との交友を断片的に書いていたことから、それを基に小さな伝記を書いた。

当時、京都の大学におられた奈良本辰也先生に原稿を読んでもらったところ、小さな出版社を紹介いただき本にした。知り合いの編集者からは、無名のもの書きが無名の人を主人公にして書いても売れない、と説教めいたことを言われながら出版したが、その通り全く売れず出版社に迷惑を掛けた。

それから十数年たち、それまで調べた雲井龍雄と中村六蔵を下地とした小説を書いたところ、運よく直木賞候補になったので、これが私にとっての小説の処女作になった。そのおかげで、この齢まで小説を書いて暮らすことができるようになった。

中村六蔵は肥後熊本の人、江戸に出て儒学者の安井息軒の三計塾で雲井龍雄に出会い、お互いに切磋琢磨した。明治三年に雲井龍雄が米沢にお預けになり、座敷牢に閉じ込められたときには、密かに米沢に来て雲井龍雄に脱出を勧めたが、胸の病が重くなり、また、藩の取り決めに逆らって牢を破ることなど武士としてできない、と断られ虚しく米沢から帰っていった。

後に、明治四年の広沢真臣参議暗殺事件の犯人として中村六蔵に嫌疑が掛かり、明治十年に捕まった。この時期は、西南戦争を前にした時期で、政府に不満を持つ不平士族の反乱が全国各地で頻発していたことから、政府

が密偵を彼方此方に放って調べていた。拷問にあった中村六蔵は、その当時、雲井龍雄が浪人たちを集めて警察組織のようなものを創ろうとしていたが、若いころ共に三計塾で学んだ広沢参議が後援するはずだったのに、突然これを裏切り雲井龍雄を謀反人に仕立て上げたことから、この恨みを晴らすために斬った、と白状したという裁判記録が残っており、信憑性があるのではないかと思う。

この頃は、明治政府が欧米列強に追いつくため色々な制度を新たに作っていた時期で、裁判制度にも陪審員制度を取り入れた。新制度による最初の裁判が、中村六蔵の裁判で注目されたが、証拠不十分で無罪になったものの、別の警察の手先を殺した事件について有罪となり、懲役十何年となった。今でも迷宮入りして真犯人は判らない事件になっている。

この事件を背景とした小説を書いた後、雲井龍雄についても書きたかったが、鶴岡出身の藤沢周平さんに先に書かれてしまったこともあって小説にすることを諦めた。

この時代の米沢藩には、優秀であれば下級武士であっても、江戸に出して有名な塾に入れ、教授の代わりになるほどの実力を持つものが輩出するなど、一流の教育を受けさせる素地があった。そして現在も米沢有為会の活動を見ると、その流れが連綿と続いていることがわかる。

一方、若いころの自分にとって、米沢がものを書くために大事なところであったのと同じように、沖縄も大事なところになっていた。私は、一九七〇年頃小さな出版社に勤めており、沖縄の人頭税について研究していた民俗学者の谷川健一先生の本を作る手伝いをしていた。近代沖縄の大変苦しい生活や歴史の話を聞くと、沖縄に是非行ってみたいと思うようになったが、当時はパスポートがないと沖縄に渡れない時代で、会社から簡単に行かせてもらえなかった。

沖縄には、有史以来、百姓一揆がなかったと伝えられており、武装しないことから身を守るための空手が普及したと云われている。上杉県令が沖縄に赴任する明治十四年当時、明治政府が一番畏れたのは、不平士族の反乱だった。明治十年前後、明治維新を実質的に支えてきた下級の士族達が、廃藩置県以降に不満を抱き各地で反乱を起こしていた。沖縄が二の舞いにならないようにすることが最重要課題であった。

一方、明治政府の琉球処分により、明治五年に琉球王

国が琉球藩、明治八年には沖縄県になると清国との帰属問題が発生し外交問題になっていた。沖縄は琉球王国として独立国であったが、慶長九年の琉球侵攻により薩摩藩に租税を払うようになったが、清国にも貢物を続けていた。薩摩藩の役人は、那覇に駐在していたが清国の役人が沖縄に来るときには身を隠し、お互いに気が付かない振りをしていた。沖縄は、中国と日本に両属主義で生き抜いてきた。明治四年に台湾に漂着した琉球島民五十四人が現地住民に殺害される事件が起こった。明治七年に明治政府が海軍を派遣し台湾を攻めた征台の役を契機に、沖縄が日本に属することを対外的に示すことになり、日清戦争に至る大きな軋轢を生むことになった。

　このような中、岩倉具視の推薦で茂憲公が沖縄県令として赴任することになるが、当時上杉家の家扶であった池田成章の回想録を読むと、行ったら何もするな、管理のみで余計なことをするな、と言い含められていたようだ。また、岩倉具視のような明治の元勲は、明治維新を成し遂げたのは下級の武士であり、大名などの殿様階級は邪魔ばかりしていた無能な人たちと嫌っていた。失礼な話だが、池田成章を沖縄に同行させることを県令就任の条件にしていたようだ。

　上杉県令は、沖縄に着くと、情熱をもって全島をくまなく回り、島民らと親しく語り合い、勉学に熱心な子供や長寿の老人には手持金から賞与を与えた。当時の沖縄は、地区毎に間切と呼ばれる組織によって運営がなされているが、それぞれに大きな借金があり返済の目処も立たず極めて貧しい状況だった。このような中、東風平という間切を視察したところ、学校を作ろうとしていたことに喜び、手持ち金を与えると共に人々を集めて、貧困から抜け出すための教育の必要性を説く演説を一時間位したという記録が残っている。「良きに計らえ。」が当たり前の当時の殿様階級が、長い演説をするのは稀ではないか。上杉県令の教育に対する強い思い入れが感じられる。さらに、優秀な人材を上京留学させるなど鷹山公の改革をお手本としたのではないだろうか。

余談のような話になるが、鷹山公が寛政の改革において領内の風紀を正すために赤湯の鍋（遊女）を廃止したが、重臣の抵抗を受けてうやむやになったことがあった。明治政府になった旧米沢藩の置賜県庁でも米沢に遊郭を作ろうとしたが旧藩主が反対をした。沖縄では辻という遊郭が根付いていた。十四～十五歳になると遊郭から学校に通うことが普通に行われていた。明治政府が遊郭に関する規則を作り、人身売買は禁止、遊女を置く場合は厳しく管理することとしたが、沖縄では適用されるのが遅れた。茂憲公はこれを廃止しようとしたが、全島的に反対運動が巻き起こった。上杉県令は、沖縄で苦しむ庶民を救うために、税金を緩めて、住民を豊かにし、教育を遍くする、との改革案を明治政府へ上申したが、旧慣習温存を基本方針とする明治政府と鋭く対立したため、元老院議員にすることを名目に一年十か月で罷免された。

上杉県令は、沖縄を離れる際に手元資金から教育振興のためにと千五百円を寄付している。県令の月給二百円の約七か月分という大きなお金だったが、残念ながら直接に教育関係には使われず、会議費や役人の出張費に消えてしまったようだ。しかしながら、上杉県令の時代から四十～五十年経た大正年代に行われた生活費に占める教育費の割合調査によると、沖縄県が全国第一位になっていた。上杉県令の時代に東京へ留学した若者が沖縄に戻り先生や役人になるなど、一世代を経て教育の成果として花開いた。

以前に沖縄の総合雑誌で近代沖縄の偉人という特集記事が組まれていたが、その中に上杉茂憲公と伊東忠太が紹介されていた。今でも沖縄の人々の心に残る恩人として米沢出身者が二人も入っていることを誇りに思う。元祖改革派知事として、茂憲公が沖縄に残した足跡は大きく、これからも長く語り継がれることだろう。

支部だより

東京支部

平成二十六年度の主な行事の活動状況を報告

▼支部総会・懇親会・歓迎会

平成二十六年六月十五日にスクワール麹町で開催する。第一部の「定期総会」は米野支部長が議長となり平成二十五年度の事業及び決算報告、平成二十六年度の事業計画(案)及び予算(案)が承認されました。さらに理事・監事並びに評議員の改選の件で監事が瀧澤新様から佐藤和彦様に交代された以外は全員来年度の定時総会まで留任となりました。第二部の「懇親会・歓迎会」はご来賓の上杉邦憲名誉会長から「困難な事に出会っても、上杉鷹山公の、為せば成るの精神で乗り切って欲しい。」と新入舎生に対して暖かい励ましの言葉とともにご祝辞を頂きました。その後、新入舎生九名の自己紹介と抱負を述べてもらいました。さらに佐藤毅ＯＢ会会長からも励ましの言葉を頂きました。西村純様のご発声で乾杯し懇親会に入りました。鈴木信之副支部長の一本締めで盛況のうちに終了しました。

加藤支部長

▼郷里の味を満喫

この年の園遊会は、小石川後楽園の涵徳亭で十一月一日に開催されました。天気は雨模様で少し肌寒い気温でしたが、当日の欠席者はなく安心しました。後楽園の紅葉を見る人は少なかった。定刻に林常子諮問員の司会で始まりました。米野宗禎支部長が開会の挨拶をされました。いつも県民歌「最上川」の音頭を取ってくださる鈴木うめよ様が欠席のためスマホでメロディを流して斉唱しました。ご来賓の上杉邦憲名誉会長と須貝英雄会長より祝辞をいただきました。支部長より清野能昭山形育英会理事の紹介がありました。下條泰生名誉会員の音頭で乾杯をして懇談に入りました。この年の新入会員の板垣史朗様・こまつ座社長の井上麻矢様・竹俣祐良様・宮島誠夫様の四人から自己紹介してもらいました。久しぶりに若い会員を三人も迎える事が出来ました。支部活動の活性化のためにも嬉しい事です。山形の地酒やワインを味わいました。米沢から材料を取り寄せた芋煮や玉コン

ニャクの味はいかがだったでしょうか。郷里の物産の販売は、抽選会などでもお世話になっている実行委員の澤田美根子様を中心にやってくださいました。昨年の反省から菓子類を減らし、売れ筋の「鯉の甘煮」や「ワイン」などの品物を増やしました。御蔭で、完売でした。お楽しみの抽選会では、最後の一等賞は樋口正宏様が獲得されました。その後に、全員で唱歌「ふるさと」を斉唱しました。沼澤研一副支部長の閉会の挨拶と一本締めで散会しました。この年の園遊会の特色は、会員の同伴者が十六名もあったことです。学生諸君は学園祭と重なり参加人数が少なかった。新入会員の板垣史朗様より来年の実行委員の快諾を得ました。実行委員の皆様ご協力有難うございました。

▼支部新年会・予餞会

平成二十七年二月七日に「スクワール麹町」で、出席者六十名の会合となりました。伊藤秀太郎理事の司会で米野支部長の挨拶の後、上杉邦憲名誉会長さらに須貝有為会会長よりご祝辞を頂きました。館長より今年の卒業生は、全員進路が決定（一名は大学院進学・三名は民間企業に就職）の報告がありました。その学生に、自己紹介と抱負を力強く述べてもらいました。興譲館寄宿舎OB会長の佐藤毅様から卒業生に対する激励の言葉を頂きました。米野支部長から卒業生に記念品の贈呈があり、卒業舎生を代表して前寮長の本田健太朗君が謝辞を述べました。その後名誉会員下條泰生様ご発声で乾杯し祝宴に入りました。

参加者から卒業生のスピーチは、内容がしっかりしていると褒めていただきました。

鈴木信之副支部長の中締め挨拶で終了した。

（川合勝雄　記）

▼東京支部会員数（平成二十七年九月現在）

正会員数　一二三名
賛助会員数　一八八名
法人賛助会員　二社

▼訃報会員

ご生前のご協力に感謝申し上げ、ご冥福をお祈り致します。

（　）内は命月

清野文男様（平成二十七年七月）
金子利雄様（平成二十七年七月）
鈴木うめよ様（平成二十七年八月）

支部総会

新　年　会

新年予餞会

米沢支部

平成二十七年度米沢支部における上半期の活動状況を報告します

○四月九日　我妻榮記念館保存整備事業に伴う劣化改修工事　第一回整備委員会

○四月二十七日　副支部長会議

○四月二十八日　教育・産業功労者等検討会議　併せて賞状原文作成の分担依頼をした

○五月十一日　米沢支部監査

【第一回理事会】

○五月十四日　午後三時から置賜総合文化センター三〇一研修室において開催した。

内容は、平成二十六年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、平成二十七年度事業計画(案)及び予算(案)を決定、さらに役員の改選(案)について決定した。又、この理事会において教育産業功労賞表彰の検討結果を報告し了承を得た。本部表彰該当者については会長に報告し、決定を受けることになる。

また、会員増強については前年度に引き続き活動することになった。

○五月二十五日　総務部・組織部合同会議を開催し、支部総会、本部総会の運営について打合せをした。

○五月二十八日　我妻栄記念館劣化改修工事に伴い備品等の移動作業（二十九日まで）。

【総　会】

○五月三十一日（日）午後三時　ホテルサンルート米沢

会員三十三名出席の中、安部三十郎支部長挨拶の後、議事に入る　平成二十六年度支部庶務報告及び決算が承認されたのに続き、平成二十七年度事業計画（案）、予算（案）及び役員改選（案）が審議され、原案通り議決された。

また、庶務報告の中で支部会員数の状況が説明された。

続いて支部の表彰式に移り、次の皆さんが受賞した。

〈教育功労賞〉　今年度支部表彰なし

〈産業功労賞〉　今年度支部表彰なし

〈特別顕彰〉　彰顕の対象となった競技等が複数あっても代表のみ掲載している。

○**松本　慧**（米沢市立第二中学校二年）
第五十四回全国中学校水泳競技大会飛込競技　飛板飛込　第八位

○**長沼明音**（米沢市立第四中学校二年）
平成二十六年度東北中学校総合体育大会陸上競技　女子共通八百ｍ　第二位

○**尾形有香**（米沢市立第三中学校三年）
第六十四回社会を明るくする運動作文コンテスト　山形県最優秀賞

○**菅野友紀**（米沢市立第四中学校三年）
第五十八回日本学生科学賞中学生の部　山形県最優秀（全国大会出品）

○**今井日奈子**（米沢市立第四中学校二年）
平成二十六年度ジュニアジャーナリスト　百字コラムコンクール　大賞（全国第一位）

○**猪野陽太**（南陽市立沖郷小学校四年）
第二十六回読書感想画中央コンクール　優秀賞

○**伊藤悠音**（南陽市立赤湯小学校六年）
第三十回山形県小学生陸上競技大会　男子六年　百ｍ

第一位

○**南陽市立赤湯小学校男子リレーチーム**（伊藤悠音、佐藤賢明、竹田健史郎、島貫達也）
第三十回山形県小学生陸上競技大会　男子四×百ｍリレー　第一位

○**吉田百那**（高畠町立糠野目小学校六年）
第二十二回山形県少年少女スポーツ交流大会陸上競技小学女子八百ｍ　第一位

○**黒澤里菜**（川西町立中郡小学校六年）
第三十回山形県小学生陸上競技大会女子　百ｍ　第一位（全国大会出場）

○**佐藤　和**（南陽市立宮内中学校三年）
長崎がんばらんば国体陸上競技大会　少年少女Ｂ　百ｍハードル　準優勝

○**高畠町立第一中学校野球部**
平成二十六年度東北中学校野球大会　第三位

○**神保朱李**（高畠町立第一中学校三年）
平成二十六年度東北中学校柔道大会　女子個人七十㎏級　第三位

○**川西町立川西中学校男子ホッケー部**
第十五回東北中学生ホッケー新人大会　優勝

○**川西町立川西中学校女子ホッケー部**
第十五回東北中学生ホッケー新人大会　準優勝
○**髙橋夢華**（米沢市立南部小学校六年）
第三十回山形県小学生陸上競技大会　女子八十ｍハードル　優勝
○**山形県立米沢興譲館高等学校フェンシング部**
平成二十六年度全国高等学校総合体育大会フェンシング競技大会　女子学校対抗　第五位
○**松本　駿**（山形県立米沢興譲館高等学校二年）
平成二十六年度東北高校選手権大会水泳競技大会　飛込競技　男子高飛込み　第二位、男子飛込総合　第二位
○**山形県立米沢商業高等学校ホッケー部**
平成二十六年度全国高等学校総合体育大会ホッケー競技大会　第五位
○**九里学園高等学校陸上競技部**
平成二十六年度東北高等学校陸上選手権大会　女子学校対抗の部　総合優勝
○**九里学園高等学校女子リレーチーム**（石河遥香、村山詩織、髙橋かおり、菊地　葵、根木真理子）
平成二十六年度全国高等学校陸上競技大会　女子四×百ｍリレー　第七位
○**後藤美加**（山形県立米沢工業高等学校三年）
平成二十六年度第二回東北高等学校女子レスリング選手権大会　フリースタイル四十九㎏　優勝
以上、十四個人・八団体をそれぞれ表彰した後、安部三十郎支部長の挨拶、受賞者の挨拶に続きその後全員で記念撮影をして表彰式を終了した。

【懇親会】
表彰式終了後、懇親会に移り本会の理事、諮問委員、監事、教育委員、一般会員約三十名で和やかな懇親会となった。
○**六月十一日**　本部総会案内状発送作業
○**六月二十七日**　有為会本部総会　伝国の杜・上杉記念館（上杉伯爵邸）
総会、表彰式、講演会は伝国の杜で開催。講演は時代小説家の高橋義夫先生にお願いをして講演会を開催した　懇親会は場所を移して上杉記念館（上杉伯爵邸）にて開催された。
○**八月十日**　支部運営会議　秋の会員研修交流会や支部だよりの編集について協議

○**九月十二日**　支部だより・支部研修会の案内等の発送作業

○**九月二十四日**　総務部・組織部合同会議開催。理事・諮問委員合同会議、講演会・交流研修会の運営について協議した

今後の主な行事予定

○**十月三日**　午後四時　ホテルサンルート米沢
- 米沢支部理事・諮問委員合同会議
  今年度の事業内容や各部の構成などを改めて説明
- 支部交流研修会（講演会）　午後四時三十分
  今年度の講師は山形大学　山本陽史教授
  演　題「〝米沢の海軍〟の系譜
  ～人づくりの伝統を未来に～」
- 会員交流会（大いも煮会）　午後五時四十分開会

○**平成二十七年一月中旬**　会場未定　支部役員・事務局員合同初顔合わせ会予定

◆懸案でありました我妻榮記念館保存整備事業が米沢市のご援助で無事完了し、開館の運びとなりました。関係の皆様に感謝すると共に、今後とも会員の皆様にも何かとご支援ご協力をいただければ幸いです。

《我妻榮記念館保存整備委員会》
（文責　支部常務理事　遠藤善則）

仙台支部

【支部会員数の動き】

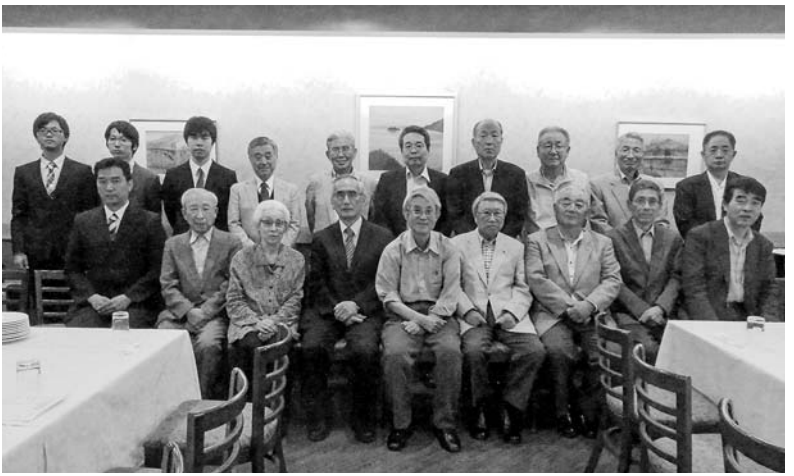
平成二十六年度は入会者四名に対して、退会者は十四名に上りました。その大半は、公益法人へ移行後二年分の会費未納による会員資格喪失です。新年度に入って、五名の入会がありましたが、まだ減少分を埋めるにはいたっていません

【仙台興譲館関連】

・寮生数の動き

仙台支部の最大の仕事である仙台興譲館の運営に、近年問題が起きていることは何度かお伝えして来ました。二十六年度の仙台寮は、新規入寮が無かったのに加えて、中途退寮が続出する事態に見舞われました。新規入寮がなかったことについては、相部屋の可能性を残した募集に原因があったと思われます。実際、相部屋の可能性を無くして募集した二十七年春には、四名の入寮者がありました。

一方、中途退寮の方は、年度当初の十一名の寮生中、実に半数近い五名が中途退寮しました。非常に残念だっ



支部通常総会　平成27年６月６日

たことは、学業を止めて退寮した寮生が三名も出たことです。この他に、海外留学一名、卒業一名の退寮が加わったため、二十六年度末には四名の寮生が残っただけです。これでまた新規の入寮がなかったら非常事態になるところでしたが、幸い四名の新規入寮者があり、その後留学していた寮生も戻って現在九名と、定員十五名までにはまだ届きませんが、小康状態を保っています。二十七年度も、寮生一人当たりの共通費を抑えるために、会から寮生会に対して支援をいただいていますが、来年は支援が不要になるように、募集活動に力を入れています。

・仙台興譲館の改修

平成二十一年に、有為会設立百二十周年記念事業の一環として改修を行ってから今日まで、仙台興譲館の改修は行われていません。建物自体は頑丈な造りで、大震災に立派に耐えましたが、あちこち汚損や修理を要する箇所が目立ってきましたので、昨年暮れから、理事会は改修の検討を始めました。改修は現在居住している寮生が気持ちよく暮らせるようになるだけでなく、寮生募集への応募を増やすことにもつながると期待されます。改修したい箇所は沢山ありますが、予算の制約がありますので、今回は畳敷の寮生室の床のフローリングへの改修、トイレの改修、照明の一部のＬＥＤ化、一部外壁の塗装などを行う予定です。

【支部行事　二十六年十月～二十七年八月】

・秋の交流会（芋煮会）　二十六年十月十一日（土）

会　場　寮近くの広瀬川原

参加者　会員十二名、家族二名、寮生六名

秋晴れの下、米沢直送の材料で作った芋煮を楽しみました。

・支部通常総会　二十七年六月六日（土）

会　場　仙台ビジネスホテル

参加者　十六名　例年通り事業報告、決算、事業計画、予算等の審議・承認を行いました。

・講演会

支部総会後引き続き実施

参加者　会員十六名、寮生四名

講　師　齋藤　彰氏、

題　目　「為せば成る・・・」を実践する喜び－認定ＮＰＯ法人「海の会」の東日本大震災被災者支援活動

大震災から四年余り、被災地の復興は分野により差はありますが着実に進みつつあります。この復興に力を注いで来た米沢人がいることを、仙台支部の会員に知って

欲しく思い、その人、筆者と旧知の齋藤氏に講演を依頼しました。

齋藤氏は米沢市出身、昭和三十七年米沢興譲館高卒、

秋の交流会（芋煮会）　平成26年10月11日

東北大大学院で通信工学を専攻した後、旭硝子を経てスイスの重機メーカー、スルザー日本支社に入社。支社長を経て、英国機械メーカー、ＣＣＩ社に移り、日本法人「シーシーアイ株式会社」を設立。代表取締役としてパワープラントや石油プラント用各種機器の製造、販売、建設関連の業務に携わる一方、ワールドワイドディレクターとしてアジア、中東、北米、ヨーロッパにおける販売活動を統括し、四十カ国余でビジネスを展開。平成二十年に退職した後は、コンサルタント業務の傍ら、念願であったボランティア活動に注力しています。

東日本大震災から四カ月後の二十三年夏、齋藤氏は東北大在学中の研究室仲間と共に、復興支援を目的としたＮＰＯ法人「海の会」を立ち上げました。「海の会」の名称は、海の復興なくして被災地の復興はないとの考えから名付けられたものです。会の事業は（Ａ）奨学金事業と（Ｂ）被災地復興支援の二本柱で、昨年、高い公益性が認められ、寄付者が所得税控除を受けられる認定ＮＰＯ法人に認可されています（現在、会員数三十五名、寄付会員数累計三百十名）。（Ａ）の奨学金事業では、これまでに被災青少年十名に月額五～十万円を返済不要の給付奨学金として支給してきました。また、渡し放しで

はなく、奨学生と年四回の交流会を持ち、アドバイザーを設けて顔の見えるきめ細かな支援を行っています。必要な資金は会員と協力者からの寄付金でまかなわれていて、会は二十四年から二十六年までの三年間に千八百万円を超える寄付を集めています。

事業（B）は、具体的には石巻市桃の浦かき生産者合同会社への支援です。この合同会社は六次産業化を目指す全国初の漁業特区で、革新的なかき養殖事業を目指しています。海の会は、その目標の実現に必要な技術の試験や導入を支援しました。特に力を入れたのは、かき剥き作業の省力化に向けての、かき超高圧処理装置の開発・導入支援です。かき剥きの機械化は進んでおらず、かき養殖効率化のボトルネックとなっています。齋藤氏は合同会社の技術顧問に就任し、キーマンとしてこの問題の解決に邁進しました。その際、氏の持つ工学的知識、海外も含めた幅広い人脈、ネットワーク構築能力、国際ビジネスマンとして培った情報収集能力等が大いに役に立ったことは想像できます。総額一億円を超える開発資金を水産物安定供給推進機構（水産庁）、三菱商事復興支援財団、七十七銀行等から得て、高圧処理装置を、高圧装置メーカーの神戸製鋼と共同で開発しました。開発した装置「多機能・かき高圧処理システム」により、千八百気圧、十分の処理を行うと、貝柱が切れ、手で簡単に身を取り出すことができ、その処理能力はむき子十二～十五名分に相当します。高圧処理は、細菌やウィルスを不活性化することも知られていて、ノロウィルスの不活性の可能性についての調査・試験研究もノロウィルス研究者との連携で始まっているとのことです。このように、海の会の桃の浦支援は、金銭的なものではなく、知恵を出し、情報を集めて提供する形で行われ、かき養殖業界が注目する画期的な成果をあげています。

当初、小さな海の会にこれほどのことができると予想した会員や支援者はいなかったのではないかと思います。「為せば成る…」の演題には、一見不可能に思えることを、知恵を絞り汗をかいて達成した齋藤氏の感慨とともに、鷹山公の「為せば成る」の教えは、実践してこそ真に理解したと言える、との氏のメーッセージが込められています。

・花火鑑賞会　平成二十七年八月五日　仙台興譲館屋上

参加者　会員四名と家族および寮生四名

混雑とは無縁な寮の屋上で、七夕前夜祭の花火を満喫しました。

北海道支部

平成二十六年度の北海道支部総会は昨年十一月二十三日、開催されました。多くの会員が参加しやすいように、毎年、祝日の勤労感謝の日を定例開催日とし、場所も札幌の都心部にある温泉施設「ジャスマック・プラザ」に定め、温泉にゆったりと浸かってリフレッシュした後、会議を開いています。

予定していた三人が、急用などで欠席せざるを得なくなり、出席者は九人とやや寂しい席となりました。しかし、嬉しいことに二人の新入会員があり、うち一人は久しぶりに二十代半ばの若さで、支部活動にフレッシュさをつぎ込んでくれると期待しています。佐藤豊相談役を始め各自が、郷土の最近の動向を伝える資料を配布し、変貌する街並みの様子などを語り合いました。

一方、秋の行事として楽しみにしている芋煮会は、昨年九月の最終日曜日に、農業体験施設などがある「サッポロさとらんど」の炊事広場で開催されました。鶴城工親会北海道支部との共催で、札幌では唯一、屋外で開催する芋煮会とあって毎年、会員が楽しみにしています。

ふるさとの近況を語り合った支部総会

参加者も米沢・置賜出身者やその家族、友人らを加えて五十人を超えました。

朝がたは晴れていたのが、次第に曇り空になったものの、穏やかな絶好の行楽日和に。置賜から取り寄せた里芋を、女性陣が中心になって下ごしらえ。広場にかまどを設営し、大きな寸胴鍋三つにたっぷり煮込みました。

鍋奉行をずっと同じ人が務め、シンプルな味付けが口の中でとろける里芋のうまさを引き立てています。締めのうどんも好評で、故郷の味をたっぷり味わいました。

安部英夫 記

芋煮に米沢の酒も加わり談笑が続く

秋の味を堪能した芋煮会。子供たちにも人気だ

京都支部

米沢有為会京都支部は、創始百二十年を迎えました。支部総会を六月十四日、市のど真ん中「からすま京都ホテル」でやりました。

謙信、鷹山の遺影に拝礼、岩崎氏の誓詞を拝聴しました。

また去年米沢を訪れたアメリカのケネディ大使の写真を会場に掲示しました。

ボナンザでは「日本人で一番尊敬する人は誰、ケネディ曰く上杉鷹山」を織り込んだ一文を作りました。高得点の答えが多数出ました。

自己紹介や名刺の交換、のど自慢で十四時まで楽しく過ごしました。

京都山形県人会の会長も駆け付けてくれました。

また有為会大阪エリアからお二人の新しいメンバーを迎えました。

大阪ではメンバーも少なくなって会としての行事はできなくなっていたようです。

長沢　智記

支部長　高橋雅雄　〒615-0054 京都市右京区西院月双町111-227 ☎075-313-0103
事務局　長沢　智　〒615-8001 京都市西京区下津林北浦町19-8 ☎075-381-8512

我妻榮記念館だより

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生れ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過されました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越しされ、大友家が買い受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建設物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月十九日に開館しました。

初代館長　松野良寅（平成四年六月～十四年五月）
二代館長　今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）
三代館長　伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）
四代館長　上村勘二（平成二十一年六月～）

○平成二十六年度の運営報告

- 年間開館日　毎週月・木・金・日曜日の午後一時～四時開館
- 入館者数　四八〇名（二十五年度は四八四名）

四月六日読売新聞「よみほっと」に名言巡礼「守一無二無三」が掲載され前半は例年より多い来館者であったが、八月の豪雨災害と十二月からの大雪の影響のため昨年度より漸減した。

- 記念館の利用　五一五名（二十五年度は三三八名）

米沢有為会米沢支部及び上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会等が利用

- 「我妻榮記念館」の劣化改修実施設計委託工事

明治期に建てられ老朽化した我妻榮記念館の劣化改修工事を行うため、米沢市の補助事業として実施設計を㈱鈴木建築設計事務所に委託し、①設計図（仕様書、図面）、②設計図書（金入設計書、積算資料）を受取った。

- 記念館の資料整備（著作（㈱ジーエスデザイン）と判

例カード（米沢工業高校専攻科）のアーカイブ化
・補修整備
蔵のなまこ壁補修と基礎部補修、庭木戸と四つ目垣改修、雪囲い、雪降ろし、ウコギ垣根修繕・刈り込み・植栽、樹木の剪定・消毒、劣化改修工事実施設計調査用足場設置
・備品購入・整備
除雪機の定期点検、コピー機修繕
・印刷出版
記念館だより第十九号発行（十月二十七日）
記念館パンフレット
・その他
県立米沢興譲館高校の自頼財団奨学生と保護者の清掃奉仕と館長講話（六月二十二日）
運営会議（十月十七日、三月二十日）

○平成二十七年度の運営計画

・記念館保存整備事業（劣化改修）工事
米沢市補助金事業の記念館劣化改修工事を推進する整備委員会を四月九日に設置しました。委員は上村勘二（委員長）、白田悟、梅津幸保、手塚修、鈴木幸一、事務局員は手塚正（事務局長）、遠藤善則、伊藤範夫です。
・開館日は、月・木・金・日の四日間午後一時～四時
・記念館の補修整備
・看板設置
・記念館の資料整備（著作）
・記念館だよりの発行（十月頃）とポスター制作
・運営委員会（年二回）
・記念館は劣化改修工事で六月～九月休館

○記念館の運営体制

（平成四年の開館以来、館長・事務局長・管理人を置き、管理運営しています）

名誉館長　我妻　堯
顧　　問　小関　薫
館　　長　上村勘二
管 理 人　手塚　正
運営委員　遠藤　拓、安部　敏、五十嵐京子
　　高橋節子、本多和彦、佐藤　繁
　　神保　厚

屋外看板と新装なった記念館

米沢有為会からのお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆さんのご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいませんので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正　会　員　年会費　七、〇〇〇円
賛助会員個人　年会費　三、〇〇〇円
賛助会員法人　年会費　一〇、〇〇〇円　以上です。
よろしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが
A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折ＰＲすることもできますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

興譲館寮だより

東京興譲館

梅沢晃徳

爽やかな秋風が吹く清々しい季節となってまいりました。日頃、寮の運営に尽力頂いております米沢有為会の皆様には感謝の気持ちを申し上げるとともに、今年度の東京興譲館の近況報告をさせて頂きます。

新入寮生

今年度の東京興譲館では四月に七名の新入寮生を迎え、十九名で新生活をスタートさせることができました。その後、数名退寮者が出てしまい若干寂しくもなりましたが、現在元気に有意義な寮生活を送っています。初めは緊張していた様子の新寮生たちでしたが、五月に行われた新入生歓迎会や日々の生活を通し先輩達との交流が増えたことで、徐々に寮生活にも馴染んできたようです。また、今年度はそれぞれが貴重な体験や大きな志を抱いております。一年生の鈴木君と上村君は共に理科の教員になるという目標に向け毎日夜遅くまで勉学に励んでいます。大学院生の三浦君は美術の研究に情熱を傾けています。こうした仲間は、同じ寮生活を送る私たちに強い刺激を与え、日々の寮生活に活力と充足感を与えてくれるものであります。

さて、入寮者の減少に悩む東京興譲館でしたが、川合館長をはじめ米沢有為会の皆様の地道な広報活動が実り昨年に引き続き多くの入寮生を迎え入れられることができました。

寮の在り方

一方で、退寮者も出ています。大学院生の方は、「勉強が忙しく大学の近くに住むために寮を出る」というのが退寮の主な理由です。また外国の大学に留学するために退寮を予定している学生もいます。退寮という選択は必ずしも悪いことではなく自分の決めた目標の実現に向け努力するのに不自由のない環境を選ぶことを大切にしてほしいと思います。現在では、寮生同士で積極的に意思疎通を図り、大学生活や寮における不満や問題点、寮生の普段の生活、ということを確認し合うことにしてい

ます。こうしたことを徹底して、寮生の雰囲気を漸次改善していこうと思っております。

先輩と後輩の関係を学ぶことも寮の利点の一つです。互いが尊敬しあい尊重しあう、時に熱く論を交す。そうした人間関係が個人の成長に大きく結びつきます。寮での共同生活は、第一に先輩や後輩など異なる学年間での交流を通して年上・年下との接し方を学びお互いに協力し切磋琢磨することの必要性を学ぶ事です。第二に、一人一人が寮の運営に関わっているという自覚と責任感を持つことです。例としては、寮長や会計、文化厚生といった役割を個人に分担させ、自治組織の一員としての意識を高めることが挙げられます。

また、寮生同士で酒を酌み交わし将来の夢を語り合うことも、同じ釜の飯を食べ勉強に熱を入れるのも、寮生活ならではの貴重な経験です。昨年の夏は四年生全員が個々の進路を決定し卒業記念として東南アジアを旅行しました。寮生活を通じ互いに信頼し支え合う関係を築かれ卒業されました。上下関係が重要であることは先に述べましたが、同様に横の関係も大切にしなければなりません。こうした関係を太く広く持つことはやはり一人暮らしの学生と比較すれば寮生活が持つ大きな特色と言えるでしょう。東京興譲館は様々な大学の学生が集っていますから、自分とは全く異なる分野を学ぶ学生との交流を通して知見を広める経験ができます。こうした経験を共有した仲間は本当に一生大切なものだと思います。

加えて、寮母の三浦さんには、高齢ながら我々約二十名の寮生の食事や寮の掃除など大変な仕事をしていただいており、寮生とも協力し合って活気ある雰囲気づくりをしていただいております。

最後になりましたが、我々がこのような素晴らしい環境で生活し勉学に励むことができるのも、多くの方々の支援があってのことです。特に、館長の川合さん、寮母の三浦さん、米沢有為会の皆様には、寮生一同深く感謝の気持ちを申し上げます。また、その感謝の気持ちを行動に移し、結果として残していくため、誠心誠意努力してまいります。改めてこれからも東京興譲館をよろしくお願い致します。

最後に寮生の紹介をさせて頂きます。

○大学院生

三浦　啓希〔早稲田大学大学院文学研究科〕
（山形東高校）

○四年生

元木　康長〔法政大学法学部法律学科〕
（長井高校）
小形　悠介〔東洋大学経済学部国際経済学科〕
（米沢興譲館高校）
小沼　尽〔東京農業大学地球環境科学部生産環境工学科〕
（置賜農業高校）（休学中）

○三年生

星　悠一郎〔早稲田大学法学部〕
（米沢興譲館高校）

○二年生

相澤祐一郎〔高千穂大学商学部〕
（南陽高校）
稲葉　光〔青山学院大学教育人間科学部〕
（基督教独立学園高校）
梅沢　晃徳〔中央大学法学部政治学科〕
（米沢興譲館高校）
梅沢　剛英〔法政大学社会学部社会政策科学科〕
（米沢興譲館高校）
木村　威人〔専修大学人間科学部社会学科〕
（山形中央高校）
武田　和樹〔駒澤大学仏教学部仏教学科〕
（米沢興譲館高校）
チョウ・イサク〔桜美林大学リベラルアーツ学部〕
（基督教独立学園）

○一年生

遠藤勇太朗〔国士舘大学文学部史学地理学科〕
（日大山形高校）
加藤　翔〔慶応大学商学部〕
（米沢興譲館高校）
上村　勇貴〔東京学芸大学教育学部教員養成課程〕
（米沢興譲館高校）
鈴木　千畝〔東京学芸大学教育学部教員養成課程〕
（山形南高校）
我妻　裕哉〔城西国際大学経営情報学部〕
（米沢興譲館高校）

○寮　母

三浦　絢子
（三鷹市出身で今年で十二年目になります。）

仙台興譲館

平　駿人

九月九日より降り続いた雨により、仙台は大規模な水害に見舞われ、十日の夜には仙台興譲館寮のある角五郎にも避難勧告が出る非常事態となりました。幸い、広瀬川が溢れるという事態は免れましたが、普段からの防災対策が重要であるということを再確認したところでございます。

さて、昨年の入寮生が0名で寂しい思いをしていた仙台興譲館寮に、今年は四名の新入寮生を迎え入れることができました。熱心に寮生募集の活動を行っていただいた先生方には心より感謝しております。誠にありがとうございました。寮生が増えたことで寮費や掃除分担などの一人当たりの負担が減り、以前より円滑に寮生活を送ることができております。

現在、一年生四名、三年生四名、院生一名の計9名の寮生で生活しております。個室は全部で十五部屋あり、六部屋が空き部屋となっております。昨年と比較すれば空き部屋も減りましたが、依然寮生は十分な人数とは言えません。寮費や仕事の割り当てなどを考慮すると、寮生は十三名以上が望ましく、そのためには来年も四名以上の寮生を迎える必要があります。昔と比べると、一人暮らしを望む学生が増え、入寮を希望する学生が減少しているため、より一層寮生募集活動に力を入れる必要があります。

寮には、一人暮らしにはない大きな魅力があります。学科やサークルの友人以外の交友関係をつくることができ、毎晩友人と夕食を共にすることもできます。興譲館寮は、それに加えて寮母さんにご飯を出してもらえたり、同郷の友人と共に暮らせたりと、ほかの寮と比較してもとても大きな利点があります。この魅力をいかに仙台に進学予定の学生に伝えられるかということが、寮生募集を成功させる鍵であると考えております。そのために、寮生自作のポスターを高校においてもらうなどの活動を行ってまいります。

最後になりましたが、私たちの寮生活は、有為会の先生方や寮母の小野寺さんをはじめとしたたくさんの方々の支えによって成り立っております。そういった方々への感謝の念を忘れることなく、寮生一同有意義な寮生活をおくってまいりますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。

■仙台興譲館寮生名簿　H27・4

松井　結大（東北福祉大学教育学部教育学科1）
〔米沢興譲館H27卒〕米沢市出身
山口　憲武（東北大学文学部人文社会学科1）
〔米沢興譲館H27卒〕米沢市出身
大河原和馬（東北大学経済学部1）
〔米沢興譲館H27卒〕米沢市出身
坂元　雄哉（東北大学歯学部1）
〔米沢興譲館H27卒〕南陽市出身
荒井　洸毅（東北学院大学工学部機械知能工学科3）
〔米沢工H25卒〕米沢市出身
西京　毅（東北大学工学部機械知能学科3）
〔米沢興譲館H25卒〕米沢市出身
平　駿人（東北大学理学部数学科3）
〔長井H25卒〕長井市出身
◎H27年度寮長
島森　拓土（東北大学大学院理学研究科D2）
〔米沢興譲館H18卒〕米沢市出身
菅野　将紀（東北大学経済学部3）
〔米沢興譲館H25卒〕米沢市出身

■寮　母　小野寺眞知子さん

米沢有為会『文化大学』

第十二回文化大学　平成二十七年九月十三日

第十二回文化大学は、先日他界した思想家、吉本隆明は、戦中、米沢高等工業の学生として米沢で青春を送った。彼は「米沢」はどのように見えていたのか、興味深いお話しでした。

▼講師プロフィール

昭和三十四年和歌山市生まれ。現在山形大学基盤教育院教授。専攻は江戸時代を中心とする日本文学・日本文化論。近著に『日本語再入門』『藤沢周平と山形』等

趣味はトランペット演奏。日本アマチュアブラスアンサンブル組織（ＮＡＢＥＯ、ナベオ）代表（一九八七～二〇一三）、日本トランペット協会常任理事

米沢高等工業の戦中戦後
吉本隆明の学生生活と山形大学への参加

山形大学教授　山本陽史

明治二十二（一八八九）年に日本で初めて市制が施行されたとき、米沢も市となった。その時の人口は二万九千五百人あまりで、全国三十二位、秋田市・山形市よりやや多い人口であった。一方仙台市は人口九万人であった。仙台は人口八位で、当時でも大都市といって良いだろうが、現代と比べれば米沢と人口規模にさほど差が無い。

明治三十九年、仙台に日本で六番目の高等工業学校（のちの東北大学工学部）が開校された。仙台の町を拓いた伊達政宗の生誕地であり、その後名門上杉家の城下町であった米沢の人々は仙台に対抗心があったはずで、大きな刺激を受けた。仙台の次は米沢だ、ということで、熱心な誘致運動が繰り広げられたのである。

明治四十三年に開校された米沢高等工業学校は、近代日本の工業界を支える多くの人材を輩出する人材を生み出した有力な学校であった。戦後の新制大学設置で工業系の単科大学となる計画もあった。その実力は十分にあったが、当時の国の一県一大学の方針に従い、昭和二

十四年に新制山形大学に工学部として加わり、今日に至っている。現在でも日本有数の研究水準と規模を誇っている。

戦後最大の思想家と評される吉本隆明（よしもと・たかあき、大正十三・一九二四～平成二十四・二〇一二）が米沢高等工業学校（現山形大学工学部）を卒業したことはあまり知られていない。事典類では最終学歴の東京工業大学のみを記載しているものがほとんどだからである。

昭和十七（一九四二）年四月、応用化学科の新入生としてやってきた吉本は米沢駅に降り立った。その時のことを吉本は「鉛色の空からは、霙の雨がぽつりぽつりとおち、眼の前にはだだっぴろくみえる街のメイン・ストリートの一つが、まっすぐに延び、両側には異常におしひしがれてみえる低い家並がつづいていた。この暗いさびれた街で、三年暮すのかとかんがえて、おもわずそのまま帰ろうかとおもったというのがそのときの本音である」（「過去についての自註」）と回想している。

東京の月島で生まれ育った吉本にとって、四方を山で囲まれた雪深い盆地にある米沢の風景はまったく予想外のものであったのだ。しかし、吉本の人生にとって米沢での生活は非常に大きな意味があったのである。

その一つは、宮沢賢治を知ったことである。賢治ファンの友人に賢治の作品を紹介されたことがきっかけで賢治の作品、とくに詩に傾倒するようになる。賢治は土壌や肥料などを研究する農芸化学者であった。化学を専攻する吉本にはその点も共感できる部分があった。理系人間で詩人でもある賢治にならって吉本も盛んに詩を作るようになる。初期の詩には賢治の影響が見られる。たとえば板谷峠を「プランタニイ峠」と国籍不明の地名としている。賢治の「イーハトーブ」などの地名の付け方にならったのであろう。

花巻まで出かけていって賢治の作品の舞台を歩いたり、応化寮の自室の天井に「雨ニモ負ケズ」を墨書した紙を貼って日夜飽かず眺めていたという傾倒ぶりであった。

二つ目に言語や社会の本質を考えるきっかけを得たこ

とである。昭和十八年秋、二年生の吉本は近郊の農家に米を買い出しに行った。ところが先方の言っている言葉の意味が皆目わからない。米沢弁を知っているつもりでいた吉本にとって大変なショックであった。

この体験から、吉本は方言の違いと異種族語は「地続き」だという認識を持つことになった。東北弁は「東北語」、鹿児島弁は「西南語」と言うべきで、言葉の壁の存在を認めることから、それぞれの地域の人々はそれぞれ独自の「共同観念」を持っているという後年の「共同幻想論」につながっていったと見られる。

最後に東北の自然に接したことである。そのことは吉本の精神の危機を何度か救った。賢治が生きた自然を米沢の自然にも見いだし、「東北の自然」に親しんだ。「色々な苦しいときに、日に幾度も色どりを変える吾妻連峰の山肌を鮮やかに思いうかべた。人間と人間の入りくんだ心の関係、人間と社会との矛盾の奥深くのめり込んでどうにもならないとき、その風景の印象は、わたしの思考を正常さにもどしてくれた」（「昭和十七年から十九年のこと」）と述懐している。

このように、吉本隆明の思想と人生を語るとき、米沢での日々の意味をきちんと押さえておくべきなのである。

第十三回文化大学　平成二十七年十一月九日

第十三回文化大学は、同誌の俳人としての歩み、俳句に対する思い、歴史における芭蕉の存在などユーモアを交えての迫力ある講話でした。

会の後半は、小山泰氏（「漆の実」同人）の指導で句会となり、出席した全員が事前に提示されていた題で投句し最後は、講師の選句が詠みあげられ歓声が飛び交うなか活気溢れる会は終了しました。（今井記）

▼講師プロフィール

昭和三年米沢市生れ。同二十年米沢興譲館、同昭和二十三年米沢工専卒。同二十三年電信電話公社（現㈱ＮＴＴ）入社。砧・淀橋・世田谷・蒲田電報電話局長を歴任、昭和六十年定年退職。昭和二十九年俳句入門。中川糸遊に師事。同五十六年、楠本憲吉主宰「野の会」に入会。師事。無監査同人。現在：俳誌「漆の実」主宰・米沢工業会誌（山形大学工学部校友会誌）「吾妻俳壇」選者

「俳句」の楽しみ方 ――今を生きる――

米沢有為会俳句同好会
「漆の実」主宰　鈴木淳一

十月十三日、東京興譲館で『俳句の楽しみ方』をテーマに一時間半ほど話をしたが、原点である寮生諸君への「俳句の願望」が、一般の人もおられボヤけてしまったので改めて稿を継ぐ。

最近の俳壇は、一見豪華絢爛のごとくに見える。俳句結社も千社ほどあるといわれている。だが実際はどうか。市販されている俳句総合雑誌数誌をめくっただけでも何十年前の内容と同じ企画で、巻頭句には七十代八十代の作家が旧態依然として三十句、五十句の作品が並んでいるのである。

過日、朝日新聞文化欄に、大きく「若手俳人掘り起こせ」のキャッチフレーズに、現俳壇でのマンネリズムが高齢化とともに俳句界は滅びること、記事にしていて、私も全く同感でもあった。俳句の未来のためには若手を掘り起こして育成することが急務だと思う。

俳句は「自然も人間の感情もすべて受入れ、プラス思考で作る詩型。俳句の未来のために今できること」をモットーに今回のテーマを決めた。

寮生は現在二十名ほどとか。当日は八名が参加予定者にあった。後述するが後半は一般の人をも含む三十数名で句会が行われ、私の特選に寮生三人が入っていて非常に嬉しかった。俳句をすすめるといっても掛け声だけでは何もならないので「俳句をやって得をすること十点」をかかげる。今回はその中から五点ほど。

一、青春時代は悩める日々である。

将来の事、生活の日々の事、家族の事、肉体の事異性との事。いろいろきりだせば尽きないけれど、俳句はそれを解消できると思う。その一好例として、平成二十年二月二十五日付の朝日新聞に掲載された「ランドセル俳人　卒業と夢と」を紹介する。

小学生俳人　小林　凛(12)は超低出生体重児で生まれた。小学校に入っていじめを受け始め、自主休校もした。いつも傍にあったのは幼児から絵本で親しんだ俳句だった。その心のイラ

小林　凛君
長谷川櫂から贈られた句を背に

イラモヤモヤを俳句にして朝日俳壇に投稿した。その作品は

〈ゆっくりと花びらになる蝶々かな〉（9歳）
〈抜け殻や声なき蟬の贈りもの〉（9歳）
〈春嵐賢治のコートなびかせて〉（10歳）
〈生れしを幸かと聞かれ春の宵〉（11歳）
〈いじめられ行きたし行けぬ春の雨〉（11歳）

環境を変えようと一念発起して中学受験に挑戦した。「俳句と同じくらい集中した」結果の合格。四月からの新生活を楽しみにしている。自宅の居間には朝日俳壇選者の長谷川櫂が凛に贈った「小さく生まれて大きく育て雲の峰」が飾られ、句作りする凛の背中を見守る。がその記事の内容だが、やはりこの世に生を享けたのだからプラス思考で進むべきだろう。俳句はたった五・七・五の世界、超短詩型。いまの自分の気持ちを俳句に託したらどうだろうか。若いときは悩みなんかはいくらでもある、だから人生は面白いくらいの気持ちで心のどっかに余裕を持って欲しい。その なやみ を破棄するところが俳句だと思う。挑戦してみて欲しい。

二、俳句はお金がかからない。

一般に芸事はお金がかかりやすいが、俳句は、鉛筆一本とノート（メモ用紙）があればよい。あとは自分の人生観へのフィーリングだ。

三、句会はなるべく顔を出すこと。

一般にはその俳句結社が主催する句会が月に一回はある。自分で予定を入れ必ず出席すること。自分の職域以外の他の分野の人と顔を合わせなお俳句を通して人間交流に接する事が、自分の成長過程で必ずプラスになる。貴重な人生経験のプロセスだ。人間の巾が間違いなく広がる。

俳句という大きな文芸のジャンルの中で知り得た人間関係はお金では買えない。

四、俳号について

自分のもう一人の人物を作ることができる。それが俳号。私は若いころ文彦と号した。初めての句会で私の句が被講されたとき、文彦と名乗ったときの感激いまも覚えている。も一人に自分がそこに居ったからだ。是非もう一人の自分の姿

の俳号をもって欲しい。ユニークな人生を送ろう。

五、歳時記について

ＮＨＫの俳句用語辞典によれば、歳時記とは、俳句の季語、季題を集め、新年および四季に分類したものに、夫々の季語解説と例句を加えた書籍をいう。俳句実作の手引きであると共に、日本の風土・自然・生活に関する百科事典的な役割も果たしている。と記されている。アメリカのジャーナリストが、あなたが無人島に行くときは何の本を持って行くかアンケートをとったところ、西洋人は「聖書」と答え、日本人は「歳時記」と言ったとされる有名な話がある。ともかく歳時記は俳句を作る手引書だけでなく一生座右の書として傍に置いておくべきだろう。

第十四回文化大学　二十七年四月十九日

出版界の草分け『博文館』と大橋音羽の物語（米沢、音羽屋旅館生まれ）

博文館新社四代社長
大橋一弘
（音羽の孫さん）

米沢が生んだ文豪、大橋乙羽は明治二年六月四日、米沢の立町にあった旅館音羽屋、渡部治兵衛の六男として生まれる。

大橋音羽・時子ご夫妻

本名を又太郎、雅号は音羽屋に因んだ「乙羽」。興譲小学校卒業後、父の知人、呉服商富士屋に見習いとして勤めながら、お寺に通い漢学・漢詩を学び文才を養う。

明治二十一年七月十五日、磐梯山の大噴火が起こった。その日偶々小野

川に宿泊していた乙羽は直ちに吾妻を越え、会津の現地に赴き生々しい惨状を記事にして出羽新聞に発表。これが米沢出身の出版社東陽堂社長の吾妻健三郎の目に止まり同社に入社。

明治二十一年九月上京。同月処女作「美人の俤（おもかげ）」を刊行、明治二十五年、博文館の少年文学に上杉鷹山公の伝記を掲載したところ同社主人の大橋佐平にその才能を買われ、同社に移籍、長女時子と結婚。

博文館入社後、専務理事として数々の出版を企画、当時の大衆雑誌「太陽」「文芸倶楽部」等の企画や編集に関わり、樋口一葉、巌谷小波、高山樗牛等の作品を紹介した。

ヨーロッパ取材旅行の後、体調を崩し明治三十四年六月一日三十二歳の生涯を閉じた。

郷土を愛した乙羽の遺言により興譲小学校に五百円、東京養老院、東京盲唖学校にそれぞれ百円という大金を寄付した。

人格高潔にして、文才あり己の作品のみならず、樋口一葉らの文人を発掘し、また企業経営にも敏腕を奮い、義父の期待に応え初期博文館の発展に貢献した。短い生涯ではあったが、文学界に大きな足跡を残した。

第十五回文化大学　二十七年七月五日

農との出会い
有機農業の里、高畠で
神奈川の高校生が学んだこと

北里大学教授　川　井　陽　一

ご紹介いただきました川井です。高畠町に生まれ育ち、大学入学後二年間東京興譲館でお世話になりました。大学卒業後は神奈川の県立高校で教職に従事しました。本日は、その間、神奈川県立神奈川総合高校（以下、「神奈総」と略します）に勤務していた時に、私自身が企画、実施し、今年で二十年目を迎える同校の高畠町における農業体験研修旅行を柱に、農と教育について私の考えていることをお話させていただきたいと思います。

私たちの生命を支える食べ物、その食べ物の多くは農業に依拠しています。農業は、いわば、人間の「いのち」そのものを支える大切な役目を果たしています。しかしながら、昨今多くの人々は、農業への関心が薄く、また

生産者の苦労に思いを馳せることが少ないのが現実ではないでしょうか。「農への無関心は、いのちへの無関心と同義」という山下惣一の言葉を私は重く受け止めています。

私が高畠での農業体験研修旅行を企画したのは、都会に住み日頃農業とは縁遠い生活を送っている高校生が、農という営みをとおして「食」や「環境」、さらには「いのち」や「豊かさ」について考えてほしいということが主な狙いでした。実際、高畠での研修旅行は、所期の目的を達成しておりますし、さらには、「共生」について考えたり、「生き方」そのものを問い直す生徒さえいます。毎年発行している記録集に寄せられた生徒の感想は、この研修旅行のもつ高い意義を示しています。

多くの成果を得ている理由は、舞台としての高畠町、そして「神奈総」にあると考えています。

最初に高畠町について触れます。高畠町では、一楽照雄氏らが中心になりわが国の有機農業が開始された二年後の一九七三（昭和四十八）年に有機農業への取り組みが始まりました。「神奈総」の研修旅行でも毎回講演をお願いしている高畠町の有機農業のリーダーで牽引者でもある星寛治氏が中心となり、四十年以上にわたり有機農業への取組が行われています。有吉佐和子が高畠での取材をもとに星寛治氏らの取組を『複合汚染』で詳しく紹介し、あるいは、高畑勲監督の映画「おもひでぽろぽろ」では、有機農業に取り組む主人公トシオが高畠の青年をモデルに構想され、また近年では、原剛編の『高畠学』（藤原書店）が出版されていることからも窺えるように、高畠町はわが国の有機農業の先進地であり、中心地です。農業体験研修旅行には誠に相応しい地、それが高畠町なのです。

一方、「神奈総」すなわち神奈川県立神奈川総合高校は、一九九五（平成七）年創立の全日制・普通科の単位制高校です。学年の区分を設けず、生徒が自らの進路や関心に応じて時間割をつくる、ちょうど大学の学びのようなスタイルの学校です。生徒の自主性を尊重し、個性の伸長を重視している点にも特徴があります。私は県教委の準備室で「神奈総」の設立準備に当たり、開校と同時に教諭として着任し、同校の立ち上げに深く関わりました。他校での修学旅行にあたる「神奈総」の研修旅行は、いくつかのコースから生徒が選択し参加します。研修旅行と称しているのは、事前学習を積み重ね、実施後は事後学習を行い、まとめの冊子を発行する、そうした一連の

内容からきています。たとえば、高畠の研修旅行では、星寛治氏の『有機農業の力』は全員必読ですし、「おもひでぽろぽろ」も事前に鑑賞し、終了後は毎年充実した記録集を発行しています。研修旅行の内容ですが、農家に三泊し、農業体験や農家の方との交流により農業への理解を深めています。研修旅行参加後に再び援農に訪れたり、お世話になった農家の方と引き続き交流をもつ生徒も少なくありません。

高畠町という舞台、町を挙げてのご支援、そして意欲的、積極的に農業体験に参加する「神奈総」の生徒たち、その幸福な出会いが、二十年にわたり多くの成果と共に続いている理由かと思います。ちなみに「神奈総」では、沖縄や関西等への研修旅行よりも農業体験の研修旅行に人気があり、高畠だけでは収容できず、現在、高畠、長野県、北海道の三ヵ所で実施しています。

本日は、「おもひでぽろぽろ」の映画の一部をご覧いただいたりしながら、私の体験を踏まえ、農と教育について話をさせていただきました。「農は自然を耕し、教育は人を耕す」という言葉を聞いたことがあります。農と教育に共通するキーワードは「耕す」かもしれません。有機農業は、土づくりが基本です。人間も土台が大切なことは言うまでもありません。今後の時代にあって、最先端の「人工知能」について、教育の分野でも真剣に考える必要があると考えております。一方で、人間の生の根源であり、教育とも深く関わる農業について、教育に携わる者は、大いに考える必要があると思っております。本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。

現高校教諭のお嬢さんも講演助手としてお手伝い

置賜市町だより

米沢市

米沢市の新機軸！
キーワードは「起業」と「移住」

【起業する米沢の若者パネルディスカッション】

他の地方と同様、本市も少子高齢化を伴う人口減少や経済の停滞が課題となっています。「米沢はいい所だけど、希望する仕事がなくて…」と都会を目指す若者たちに、市は一つの提案をしています。希望する仕事がないのなら「自分で始める」という方法もあるのでは。米沢市は「若者起業」を応援しています。

六月二十日（土）、市内に住む三名の若手起業家に、自分がこれまで歩んできた道のりや体験してきたことを話していただきました。三名に共通する点は、一度は市外に飛び出して多くの刺激を受けてきたこと。そして、自分の力で少しでも世の中を変えたいと思っていること。会場となった伝国の杜には、夢を抱く多くの若者が集まって三名の話に聞き入りました。

国内には約四百万の企業等があり、その多くはたった一人の起業家から始まっています。起業というと「いくつもの壁を越えなければならない困難なこと」という印象を持つ人も少なくありませんが、人を動かす原動力は「何かしたい」という素朴な思いです。そんな小さな種がやがて芽を吹き、大樹となっていくものです。

上杉鷹山の時代から「なせばなる」のチャレンジ精神を持つ米沢。これまでも、国内初の人造絹糸や世界初のノートパソコンを製造してきた歴史と風土があります。そして現在、有機ＥＬ関連の新産業の種が今にも芽吹こうとしています。

若手企業家の３名。広報よねざわ８月１日号で詳しく紹介しています。

【置賜移住交流シンポジウム2015】

従来の人の流れは地方から都心部でしたが、今、その流れを変える取り組みが始まっています。内閣府の世論調査によると、東京在住の約四割の人が「地方移住を検討している・今後検討したい」という結果が出ています。特に三十代以下と五十代男性が移住に対する意識が高いようです。

八月十二日（水）、伝国の杜で置賜移住交流シンポジウムを開催しました。第一部は、本市南原地区に移り住んで十六年になる黒田三佳さんの基調講演。黒田さんは東京生まれの東京育ち。根っからの都会っ子なのに、観光で米沢を訪れたとき人の温かさに触れ「子育てするなら米沢で」と移住を決意したそうです。現在は「里山ソムリエ」として、米沢の魅力を市内外に発信する活動を展開中です。

続いて、本市出身のシンガーソングライター・中川知美さんによるスペシャルライブ。自ら作詞作曲した「置賜百花繚乱夢回廊『ＨＡＮＡ』」を披露していただきました。この歌には、置賜三市五町の魅力がたっぷり織り込まれています。

第二部のパネルディスカッションでは、米沢市長、川西町長、飯豊町長の三名が、それぞれ取り組んでいる移住推進の施策について話し合いました。コーディネーターを務めた黒田さんからは「様々な施策はもちろん大切だが、移住を考えている人は『そこに住む人がいかに幸せそうか』が判断材料になる」とのこと。米沢に住んでいる私たち一人ひとりが幸せを噛みしめることが、移住推進の第一歩なのかもしれません。

左から川西町長、飯豊町長、米沢市長

戦後七十年記念
米沢市平和都市宣言事業

昭和二十年の終戦から今年で七十年。命の尊さについて見つめ直すとともに、平和への思いを市民と共有するため、市では様々な平和事業を展開してきました。その中で主だった二つの事業を紹介します。

【奇跡の歌姫「渡辺はま子」公演】

戦犯として収監されていた一〇八人の日本兵士。死を待つばかりの彼らを救った国民的歌手・渡辺はま子の実話を舞台化。本市の呼びかけにより、五都市（新潟、上越、南魚沼、山形、米沢）で上演されました。

米沢では六月二十七日（土）、伝国の杜置賜文化ホールで行われましたが、昼・夜の公演二回とも五百席を埋め尽くす満席状態。観客の中には、自分の過去の記憶と重ね合わせて涙する人もいました。

「渡辺はま子」を熱演したのは、おしょうしな観光大使でもある五大路子さんです。ちなみに五大さんは、東京興譲館寮の最寄駅である京王線仙川駅近くの桐朋学園大学出身。懐かしい仙川商店街を通っていましたので、東京興譲館寮に住んでいた同年代の方々は、きっとどこかでお会いしていたことでしょう。

【米沢市平和のつどい】

平和事業の取り組みとして、平成二十二年度から市内の中学生数人を広島市・長崎市・沖縄市へと毎年順番に派遣して、次代を担う子どもたちに平和の大切さを肌で感じ取ってもらっています。今年度は沖縄市に八名派遣しました。

八月二十二日（土）置賜総合文化センターにおいて、

沖縄市へ派遣した中学生による学習報告と被爆者の平田忠道さんによる講話をいただきました。十代の若者も多く聴講し、「先人の辛い経験を無駄にしないよう、私たち若い世代が頑張りたい」などの感想が寄せられました。

ご自身の辛い体験を語る平田忠道さん

米沢の地から「支倉常長」を発信！

伊達政宗の家臣・支倉常長が慶長遣欧使節として日本を出帆してから四百年。これを節目として、常長の生誕地である本市関地区を中心に活気づいています。一昨年は関地区の人たちが主となって「支倉常長生誕之地」の看板を関小学校敷地に設置、昨年八月にはその傍にミニ資料館をオープンさせました。また、田んぼアートも伊達政宗と支倉常長を描きました。

支倉常長生誕之地歴史資料館オープン

昨年七月三日（木）、伝国の杜に全国三十の自治体から田んぼアート関連団体が集まり「田んぼアートサミット」を開催。あわせて市民ミュージカル伝国座によってミニミュージカル「常長の祈り」が披露されました。プロデュースは、仙台を中心に創作ミュージカルの公演・制作を行っている広瀬純さん。広瀬さんは東北学院大学に通うため、昭和五十六年から四年間、仙台興譲館寮で生活しています。ここにも有為会との縁が感じられます。

そして今年九月十七日（木）、スペイン大使や伊達家当主、支倉家当主を招いて「支倉常長生誕祭」が盛大に開催されました。この事業は、市民有志の実行委員会によって行われたものです。今後も市と市民が協働して「支倉常長生誕の地・米沢」をＰＲしていきたいと思います。

長井市

『長井創生』のために。今、やるべきこと

●地方消滅？「増田レポート」の衝撃

昨年度、全国の自治体関係者を最も騒がせた話題といえば、元総務相の増田寛也氏が座長を務める「日本創成会議」において公表された、日本の人口の将来予測、いわゆる「増田レポート」ではないでしょうか。このまま東京など都市圏へ若者流出と若年女性の減少が進めば、二〇四〇年までに全国の市区町村の約半数にあたる八九六の市区町村が消滅するという非常にショッキングな内容でした。

これを受け、国は十一月に「まち・ひと・しごと創生法」を施行し、人口減少対策五カ年計画「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を打ち出し、「地方創生」を推進する体制を作りました。

そして今年四月、私たちの暮らしや、これからの地域の未来を決定付ける、重要な統一地方選挙がありました。「増田レポート」が現実のものとならないよう、都市部と地方の状況をいかにして是正していくか。選挙の最大の争点は、安倍政権が掲げる「地方創生」でした。

●人口減少対策のキーは「若者」と「子ども」

国勢調査のデータを振り返ると、本市の人口のピークは、戦後間もない一九四七年における三八、〇二五人でした。一方、今年度の本市の人口は七月末時点で二八、〇五七人であり、ピーク時と比較して約七十年間で九、九六八人も減少（約二十六％減）してしまいました。

先述の「増田レポート」において、本市は消滅可能性都市に含まれていなかったものの、現在から二十五年後にあたる二〇四〇年の本市の人口推計値は一八、三〇五人（現在より約三十五％減）とされています。人口の減少率は加速度的に増しており、このままの状況が続けば、本市もいずれは消滅してしまう危険性があります。

本市の人口減少の原因を分析してみると、十五歳～二十四歳年齢の若者が、進学や就職を理由に転出し、戻ってこないことが最大の要因です。これに加えて、合計特殊出生率が一九八〇年の二・〇七と比べて二〇一三年は一・六九へと低下しているため、子どもを産む若者世代と子どもが減少する、人口減少の負の連鎖が続いています。

この負の連鎖を断ち切るには、本市から一旦転出した若者が戻りたいと思うようなまちにすること、併せて、結婚して家庭を持ち、安心して子どもを産み、育ててもらえるような環境を整える必要があります。

●「教育・子育て」を柱とした総合戦略

今年度、本市は国の掲げる「地方創生」に呼応し、スピード感を持った「長井創生」のため、山形県内で最も早い九月に、人口減少対策五カ年計画となる「長井市人口ビジョン」と「長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

この総合戦略は「長井市の魅力を高め、ひとの循環・交流を強くすること」を基本方針とし、次の四つの基本目標を設定しました。

一、「若い世代の結婚、出産・子育ての希望をかなえる」
二、「長井市への新しいひとの流れをつくる」
三、「長井市における安定した雇用を創出する」
四、「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る」

また、本市の総合戦略の柱として、「教育・子育て」を掲げました。

本市には、名誉市民で彫刻家の故・長沼孝三氏が提唱された「長井の心」という詩があります。この詩には「私は日頃　人間形成の最も重要な条件は　故郷の自然環境そして風俗習慣であるとかんがえて居ります」という一節があります。

本市で育った子ども達が、本市を故郷と認識し、その故郷で受けた教育が正しいものであると確信しているならば、進学や就職で市外へ転出しても、自分が子どもを産み育てる年齢となった時、その若者は帰巣本能のように、故郷へ帰りたいと思うはずです。

そのために、本市の総合戦略は、子どもや子育て世代にとって魅力あるまちとするため、「教育・子育て」の魅力づくりをトップに掲げ、これを支えるための、親世代の「雇用・働く場」づくり、時代に合った「まちづくり・地域づくり」、「移住・定住」のための施策を展開することとしました。

若者が長井に戻りたくても戻れない理由として最も多いのが、「長井には仕事がないから戻れない」というものです。しかし、嘆いてばかりでは前に進みません。ニューヨーク市立大学教授であるキャシー・デビッドソ

ン氏によると「米国で二〇一一年度に入学した小学生の六十五％は、大学卒業時、今は存在していない職に就くだろう。」とのことです。グローバリゼーションの現代において、日本もおそらく同様の状況になるといわれています。この未来予想は、見方を変えれば、自分の力で仕事をつくることが必要な時代になっているといえます。

予想される未来に対し、本市で育った子ども達が自分で地域の課題を見つけ、仕事をつくる力を身につけられるよう、小中高生の時期から地域教育と将来の仕事について考える機会等を設けることが必要です。同時に、教育の魅力づくりと並行して、若者の起業・創業支援体制を整備する必要があります。

唱歌「故郷」には、歌詞の三番に「志を果たして　いつの日にか帰らん」という一節があります。これに対し、「長井の心」の教育を受けた子どもたちが、一旦市外に転出したとしても、「志を果たしに　いつの日にか帰らん」という意思を持ってもらえるよう、次世代の育成に尽力してまいります。

未来を担う子どもたちは長井の宝

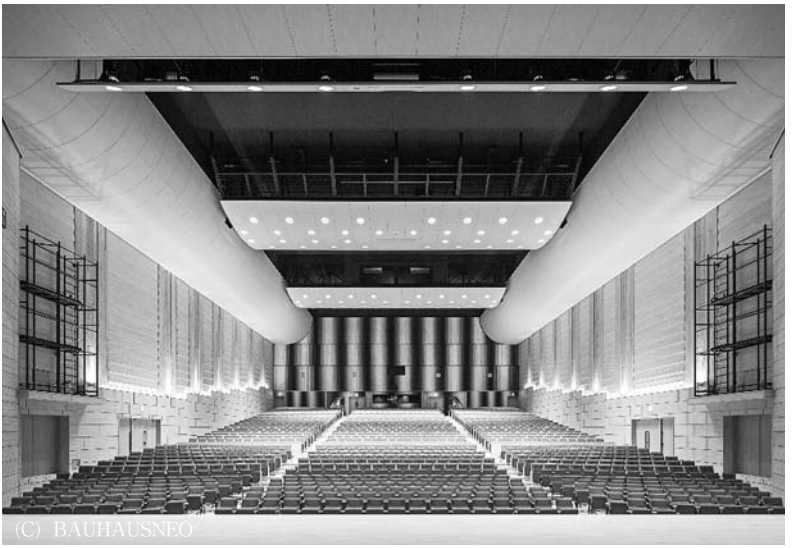
南陽市

南陽市文化会館開館

南陽市では、本年十月四日(日)に全国初の大型木造耐火ホール「南陽市文化会館」が開館を迎えました。

この施設は、平成二十四年度の林野庁「森林整備加速化・林業再生事業」の先駆的モデルとして事業採択を受け、事業期間を二箇年とし整備を進めました。森林資源を地域産業に結び付け、木材利用の新たな可能性を拡げる契機となり、川上から川下まで関係者が一体となった持続可能な循環型社会形成を目指した先導的な事業でございます。

延床面積五,九〇〇㎡、大ホール(一,四〇三人収容)の幅二八m、奥行き三四m、高さ二五mという大空間を木構造で支えるため、国内最先端の耐火木造技術を取り入れたスギ集成材を構造体に採用し、ダイナミックかつ温もり溢れる木の空間を創り出しました。六〇〇㎜角の柱五本を一本の組柱(ユニット化)にするとともに、梁(はり)も立体トラス構造にすることにより、地震に強く安全性の高い耐震構造となっています。災害時には市



「静けさと響きがよい音響空間」をコンセプトに、音楽から舞台芸術まで多様な催しが開催されるプロセニアム形式で最大1,403席の多機能ホール

役所と連携する防災拠点、避難場所としての役割を担います。

また、川上となる木材調達工事を進めるにあたり、南陽市内の森林資源を有効活用することにより、延べ一、一六三人の雇用創出が図られ、約一億一千五百万円の直

式典から講演会、セミナー、展示会等、幅広くご利用できる500人収容の平土間型ホールです。飲食可能なコンベンション会場としても利用できます。

積的な経済波及効果がございました。さらには、製材・乾燥・加工・運搬などの川中となる構造材製作工事に十二億六千六百万円、建築・機械・電気・舞台・外構などの川下となる建設工事に四十五億四千六百万円の工事を発注したことから、間接的な効果も含め、地域内の経済

南陽の森からとれたスギ材を積極的に活用した国内最先端の耐火木造技術を取り入れた集成材を採用し、日本初となる大型木造耐火の施設として全国から注目を集めています。

波及効果は計り知れないものとなっています。お蔭様で、これまでの取り組みが全国的に認められ、平成二十六年度には一般社団法人全日本建設技術協会の全建賞 建築部門受賞、平成二十七年度には木材利用優良施設 林野庁長官賞を受賞いたしました。

今後においても、林業・木材産業の振興、県産材の利用促進を図るとともに、強い林業を再生し、東北ブランドの確立、豊富な資源である森林資源の有効活用、全国への発信による新たな市場開拓と地域経済の活性化につながることが期待されます。

輝きに満ちた地域へ

どのような時代においても、人間が生み出す表現活動は、人々に感動や希望、心の安らぎをもたらしてきました。文化芸術は、人と人との心をつなぎ、心豊かな社会をつくるためには必要不可欠なものではないでしょうか。

南陽市文化会館のこれからの役割としては、地域の方々に観る、聴く、感じていただく鑑賞型事業、習う、演じる、演奏する等の創造型事業、地域内の交流はもとより、国際的な交流事業をも進めてまいります。それにより、鑑賞、創造、交流による地域活性化の好循環を生み出し、交流人口増、経済の活性化等の起爆剤として文化会館を運営してまいります。そして、文化会館を核とした、まちづくり、ひとづくりを戦略的に展開し、「人が集い賑わいのある南陽」を築いてまいりたいと考えております。

正面玄関から館内に足を踏み入れると、大きな8本の柱が見えます。天井の窓から太陽の光が入り込み、明るい空間が広がっています。

高畠町

高畠町は今年、町村合併六十周年を迎えました

一九五四年（昭和二十九年）十月、当時の高畠町と二井宿村、屋代村、亀岡村、和田村が合併して社郷町が発足し、翌年の昭和三十年四月に社郷町と糠野目村が合併して現在の「高畠町」が誕生しました。町村合併六十周年・町制施行百二十周年の節目となる今年、さまざまな記念事業を企画、実施しましたのでご紹介します。

【「たかはた美術館」展】

高畠町内にある四つの文化施設（郷土資料館、県立うきたむ風土記の丘考古資料館、浜田広介記念館、文化ホール）合同企画として、町に所蔵または関わる美術品を紹介する「たかはた美術館」展が開催されました。

郷土資料館では、高畠を代表する景観「安久津八幡三重塔」をテーマに描かれた絵画、デザイン作品、歴史資料が展示されました。（開催期間／七月十六日～八月二十三日）

浜田広介記念館では、〝日本のアンデルセン〟浜田広介先生の童話作品に挿絵を寄せた画家たちの作品が展示され、それぞれが描くひろすけ童話の世界が紹介されました。（開催期間／七月二十三日～八月三十日）

郷土資料館

浜田広介記念館

県立考古資料館

県立うきたむ風土記の丘考古資料館では、「たかはたに見つけた近代日本画」と題し、日本近代南画の祖菅原白龍の未公開作品をはじめ、日本美術院院友の村田閑、洋画家堀内規次、書家桑原翠邦らの作品や、町内の平成生まれの画家たちの作品が展示されました。（開催期間／八月八日～九月二十日）

文化ホールでは、「鈴木実とたかはたの立体造形」と題し、高畠が生んだ現代彫刻家鈴木実先生の初期から晩年の作品を幅広く公開します。初公開の作品、半世紀ぶりの公開となる作品など注目作品が並びます。（開催期間／十月二十七日～十一月八日）

【第五十回たかはた夏まつり】

高畠の夏の夜を彩る「第五十回青竹ちょうちんまつり」が八月十五、十六日の二日間開催されました。初日はみこしパレード、二日目の民踊パレードには約二千四百人余が参加し、賑やかに、艶やかに、記念大会に相応しく大盛況のうちに幕を閉じました。

みこしパレード

民踊パレード

【ご当地ナンバープレート作成】

五十c.c.以下の原動機付き自転車を対象に、町の公式マスコットキャラクター「たかっき」「はたっき」も描かれたオリジナルデザインナンバープレートが、一二〇枚限定で作成されました。

オリジナル
ナンバープレート

平成17年に開催された高畠町第九演奏会の様子

この他にも、「まほろば町民号～北陸新幹線で行く金沢 名勝兼六園と世界遺産白川郷の旅～」が十月に、十一月三日には記念式典と併せて「タイムカプセル開封式」が行われます。そして町村合併五十周年の際にも開催した「第九演奏会」が、十一月二十二日に山形交響楽団をお招きして文化ホールで開催されます。

【結びに代えて】

わたくしたちは、奥羽の山なみにいだかれた天恵の自然風土と、縄文のいにしえからの歴史と文化遺産をもつ、まほろばの里の住民です。先人のきずいたすぐれた基盤の上に新しい創造を重ね、うるおいと活力にみちた人間の町づくりをめざします。

わたくしたちは、高畠町民としての誇りと責任をもってここに五つの誓いをたて、ゆたかな土の香りとみがかれた技と、深いまごころが織りなす自治の里をつくるために、力を合わせます。

（「高畠町町民憲章」前文より）

川西町

川西町誕生六十周年

昭和三十年に、小松町、大塚村、犬川村、中郡村、玉庭村、吉島村の一町五か村が大同合併し川西町が誕生し、今年で六十周年を迎えました。

九月六日には、町制六十周年記念式典を挙行し、山形県及び近隣市町村、友好都市並びに、日頃多大なご尽力を賜っている各関係機関の方々約五百四十名にご臨席いただきました。

式典では、町の発展に多大なご貢献をいただいた二個人二団体に対して、六十周年記念表彰を授与したほか、町内の小中学生が書いた「未来の川西町」をテーマとした作文の表彰を行い、最優秀賞に輝いた二名の児童、生徒に表彰状を贈呈したほか、その作文を発表していただきました。

町制誕生六十年の歩みを振り返ると、合併当初の厳しい財政状況、新潟大震災や羽越水害の大災害、米どころの名声を轟かせた栄えある反収日本一、ダリヤ園の整備、教育施設

▲60周年記念表彰を授与いたしました。
（１名は都合により欠席）

▲アトラクションにて演奏を披露した「サファリパークDuo」

▲「未来の川西町」作文最優秀賞２名の発表

の拡充、美女木団地の造成、公立置賜総合病院の開院など医療福祉の充実、フレンドリープラザ、浴浴センターまどかなどの文化交流施設建設、東京川西会設立、町田市との災害援助協定締結や全国川西会議・ネットかわにしの結成など時代の変化に適応しながら歴史を刻んでまいりました。

また、本町では、平成十六年に施行した「川西町まちづくり基本条例」に基づき、行政と町民とのパートナーシップのもと、情報の共有化を図りながら、互いに連携を深め、まちづくりを進める協働のまちづくりに取り組んでまいりました。翌十七年には「協働のまちづくり」を基本理念とする川西町第四次総合計画を策定し、「地域づくり活性化」、「六次産業化推進」、「交流基盤確立」の三つのプロジェクトを展開しております。

これらプロジェクトでは、小学校区を単位とする各地区交流センターを中心に地域づくりが展開され、町民を主役とし、町民自らが課題解決を行う仕組みを喧喧諤諤の議論を尽くしながら構築してまいりました。今では、地区交流センターが実施する地域づくり事業に対し、県内外から高い評価をいただいております。また、基幹産業の農業を軸とした商工業や観光との連携による町民所得の向上に取り組んでおり、六次産業化拠点施設「かわにし森のマルシェ」を来春オープンする予定でおります。

本町にはイザベラバードが「東洋のアルカディア」と絶賛した田園風景、美味しい米や米沢牛等の豊かな食文化、日本一のダリヤ園、世界に一つしかない井上ひさし先生の蔵書、置賜農業高等学校の地域活動、そして人情味豊かな人々などなど、数多くの町の宝があり、これからのまちづくりの資源であります。

これら町の宝を磨き、変化を恐れず人類が経験したことのないこの世界の中で、この式典を契機として、時代を切り拓くパイオニアとして活力に満ちたまちづくりに挑戦してまいります。

かわにし森のマルシェ

川西町では二〇一六年のオープンを目指し、現在地元農産物や加工品などを直売する六次産業化拠点施設の建設を進めています。

川西町の基幹産業は、水稲を基幹とした農業ですが、米価の低迷による農業産出額の減少が大きく、後継者不足による農業者の高齢化も深刻な課題となっています。

商工業については、中小規模の企業が多い現状や町外購買の増加などの課題があり、市町村民所得統計では、置賜地域の他市町と比較しても低位に位置しています。こうした現状から、各産業の活性化と、町民所得の向上につながる取り組みの一つとして「六次産業化」を推進し、その重点事業の一つとして、拠点となる施設の整備に着手しました。

施設は、中小松地区の国道二八七号と県道交差点付近の約六五〇〇平方メートルの敷地に約五〇〇平方メートルの鉄骨平屋で、敷地の樹木を出来るだけ残しながら緑地も整備し、「森の中にある可愛らしい直売所」をテーマに計画しました。

道の駅のような大きな施設ではなく、地元に密着した施設としながら、これまでの直売所のイメージを一新するような、明るく、楽しく買い物や食事ができる施設を目指し「可愛らしい」をコンセプトに、外装は赤い屋根に白い壁、れんがを配した南欧風のデザインとなっています。

施設の名称は、その「可愛らしい」外観に合わせ、多くの方に親しまれるよう「可愛らしい」愛称を公募し、「かわにし森のマルシェ」と命名されました。

施設内の直売スペースでは、**「新鮮・安全・おいしい・かわいい」**を基本に、町内のコメや野菜、果物などの農産物や加工品のほか、地酒、菓子、工芸品など川西町の特産品を取り揃え、スーパーと競合しない色や形の可愛い野菜や可愛らしいパッケージなどの品揃を目指します。地元の食材を使ったファストフード系のレストランや総菜を製造するキッチンも整備し、川西町の食材を生かした四季折々の料理を提供しながら、川西町の魅力を町内外に発信していきます。

また、施設の特徴として、置賜農業高等学校の販売コーナーを設置し、学校と連携しながらニーズに合った商品開発や販売実践、イベントの開催などにより人材育成を進めていきたいと考えています。

拠点施設整備の三つの目的

町内には、地区単位の直売所があり農産物等の販売を行っていますが、「町内の産品が一堂に揃い買える場所がない」、「加工品や特産品を作っても売る場所が無い」などの声がありました。こうした要望に応え、次の視点で拠点施設の整備を行っています。

《町民所得の向上》

本町の基幹産業である農業の振興とともに、農商工観が連携した六次産業化を進め、直売やインターネット販売等による流通システムを整備し、町民所得の向上を図ります。

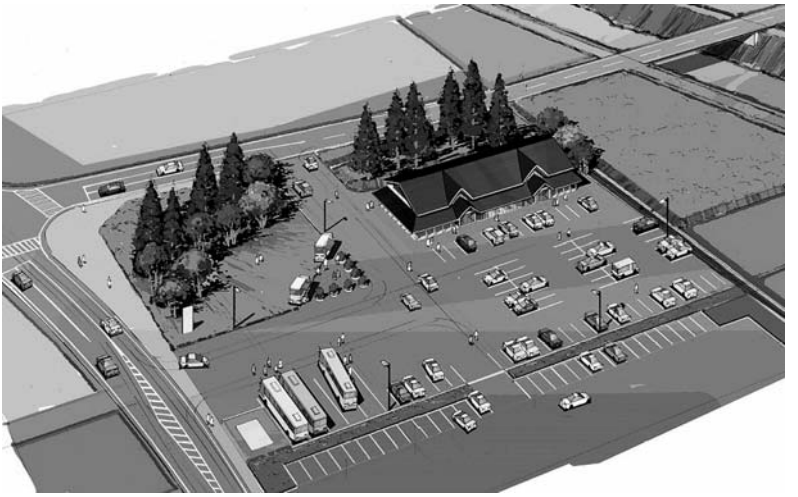
《雇用の創出》

拠点施設で働く人に留まらず、六次産業に関連する新規開業や新たな事業展開を推進することにより、雇用の創出を目指します。

《にぎわいづくり》

町内外から多くの方に来ていただけるよう、町のにぎわいをつくり、町内の農産物のおいしい食べ方や調理法、町内物産の特徴などを紹介し、歴史なども含めた観光宣伝など、多方面にわたる情報を発信していきます。

出荷者の集約や運営に関する詳細な調整等、まだまだ課題は残されていますが、笑顔が生まれる憩いの場としても、多くの皆様に愛される施設となるよう準備を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。



小国町

住民と地域主体の新たな地域づくり

「小さな拠点」づくりの推進

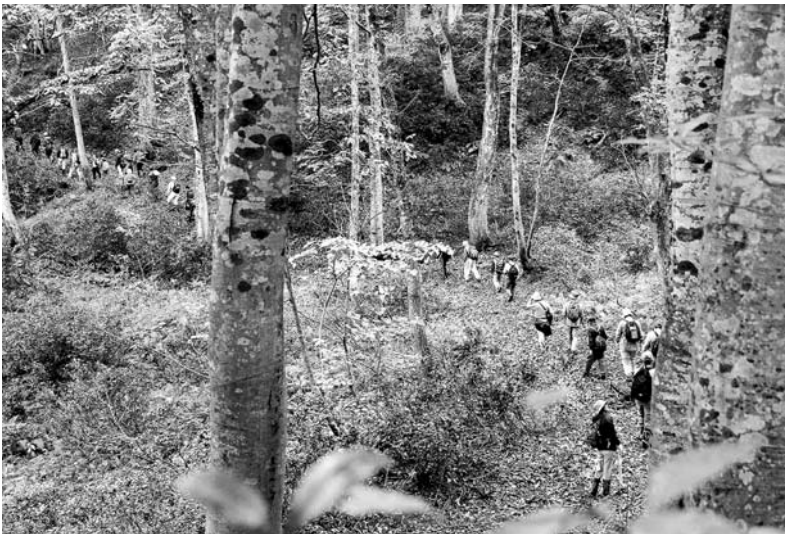
少子高齢化と過疎化が進む中、地域医療の確保や交通、買い物などの住民サービスの縮小が懸念されています。

こうした背景から、本町では、国土交通省が推進する「小さな拠点」づくりを実施しています。これは、小学校区など複数の集落が集まる地域で、商店や診療所といった生活サービス提供施設を歩いて動ける範囲でつなぎ、拠点となる施設等と各集落のネットワークの構築により地域の生活サービスを維持していこうという取り組みです。平成二十五年に小玉川地区、平成二十六年に北部地区が、国土交通省によるモニター調査地に選定されました。両地区では、児童生徒数の減少により平成二十年に小玉川小中学校、平成二十五年に北部小中学校が閉校するなど、地域内・地域間の交流活動が減少しつつあることに加え、地域固有の文化の継承と地域の新たな担い手づくりなどが課題となっています。このことから、モニター調査において課題の整理や目標の設定、活動計画の検討を行い、地区全体が一体となって持続可能な地域づくりに取り組んでいくこととしています。

① 小玉川地区

町の最南、飯豊連峰の入口にある小玉川地区では、小さな拠点づくり検討委員会を設置し、地域の若者等を委員としたワーキンググループとともに平成二十五年八月から平成二十六年二月までの期間、「小さな拠点」づくりのモニター調査に取り組みました。その間、地域住民へのアンケート調査や地域づくりセミナーを開催し、地域の現状と課題の把握や地域の拠点づくり等に向けた検討を行いました。その結果、協働による地域経営や地域資源活用と健康をキーワードにした活動方針を定め、具体的な活動に取り組むこととしました。

健康をキーワードにした地域づくりとして、地区内に延長約二・一キロメートルの健康ウォーキングルート「ブナの森七曲がりコース」を整備しました。あたり一面にブナの木々が生い茂るコースで、平成二十六年十一月に実施されたモニターツアーには地元関係者を中心に町内外から約七十人が参加し、好評を得ました。平成二十七年十月には、一般者を対象としたトレッキングツアー



新しく整備した「ブナの森七曲がりコース」

を開催する予定です。

また、運営体制の構築として、地域の女性で組織する「姫さゆり」を結成し、地域の食の掘り起こし活動を始めました。加えて、平成二十四年に旧小玉川学校区在住の若者で結成した「小玉川青年団イチコロ」は、毎年三月に雪を活用したイベント「雪の中の大冒険」を開催しています。旧小玉川小中学校グラウンドを会場に雪の迷路やスノーフラッグなどが行われ、町内外から多くの来場者が訪れています。

今後同地区では、旧小玉川小中学校校舎を拠点とした活動の推進やウォーキングルート案内人の養成、町外との交流を図るふるさとネットワークづくりを進めていくこととしています。

② 北部地区

町の北部、朝日連峰の麓に位置する北部地区では、地域住民による小さな拠点づくり検討委員を設置するとともに、「観光交流」と「暮らし・伝統文化をテーマにした二つのワーキンググループを立ち上げ、平成二十六年八月から平成二十七年二月までの期間、モニター調査に取り組みました。同地区においても、地域内の現状や課

題の把握を行うため、地域住民へのアンケート調査を行いながら検討を進めてきました。北部地区では、白い森交流センターりふれを中心とした拠点づくりの在りかたや地域資源の活用方法のほか、地域交流をいかに進めていくかが議論されました。

平成二十七年一月に開催された地域づくりセミナーでは、国土交通省の「小さな拠点」検討委員を務める日本大学教授の沼尾波子氏による講演や、同地区ワーキンググループのコーディネーターを務める宮原博通氏から、これまでの活動報告と講評が行われたほか、参加した地域住民との意見交換が行われ、地域づくりの必要性や今後の活動について理解を深めました。

さらに実践の第一弾として、平成二十七年八月に、各集落合同の盆踊り大会を開催しました。多くの住民の参加により大きな盛り上がりを見せ、地域住民の新たな交流の場を作る第一歩となりました。今後は、参加した住民の感想などを踏まえ、これからの活動を検討していくこととしています。

それぞれの地域づくりを通して活力あるまちづくりへ

平成二十六年三月に本町が策定した「第四次小国町総

北部地区盆踊り大会の様子

合計画・後期基本計画」では、住民が主体の地域づくりによる町の活性化策として、六つの地区別の地域づくりテーマと取り組みを設定しています。住民一人ひとりが、それぞれの地域活動に関わることで活力ある地域づくりの実現につながることが期待されます。

また、それぞれの地域をより良いものにしていくため、課題解決に向けて誰がどのように行動していくかといった計画の必要性が高まってきています。今後は、本町で行われた「小さな拠点」づくりモニター調査活動を踏まえた取り組みを推進するほか、町と各地域による活動を通じてそれぞれの地域が将来像とそれに向けた活動計画等を整理する「地域づくり計画」の策定支援に向けた取り組みを進めていくこととしています。

今後も住民が安心できる暮らしを継続させていくためには、住民と地域が主体となった地域づくりを進めることが重要です。そのためには、地域の特性や魅力を住民が理解し、それを取り組みへつなげていくことが大切です。また、地域のイベントに町外の大学生等が参画し交流拡大へとつなげている地区もあることから、外部人材との交流も有効な地域づくりの方策になると考えられます。本町では、住民と地域の主体的な活動を支援するとともに、外部を含めた多様な人々との協働・交流・連携を推進し、活力あるまちづくりを進めていきます。

白鷹町

日本の紅（あか）をつくる町

平成二十七年三月に策定した「白鷹町観光交流推進計画」で、今後五年間の観光推進計画が示されました。その中で本町の特徴である「紅花生産日本一」にスポットを当て、「紅花」を観光素材としたプロモーションを行い、白鷹の個性、イメージづくりを展開することが観光交流施策の重点事業であると位置づけました。ここでは、今まで白鷹町で行ってきた「紅花」生産と「紅花」観光について紹介いたします。

最上紅花について

〈紅花の歴史〉

白鷹での紅花生産の歴史は古く上杉家の文書「邑鏡（むらかがみ）」には、置賜領内最大の生産地であると記されています。しかし、第二次世界大戦時代には、食糧増産のため、町でも県内でもその栽培が途絶え「幻の花」となってしまいました。戦後まもなく山形市で紅花栽培が復活し、昭和二十九年にＮＨＫが全国的に「郷土の花」を選定した際、山形県では「べにばな」が選ばれており、また県を象徴する花として親しまれていたことから、昭和五十七年三月三十一日山形県花として制定されました。

〈生産状況〉

平成二十七年度に白鷹町で県紅花生産組合連合会へ出荷した生産者は二十四名（団体含む）で約四ヘクタールの栽培面積があります。また、生産量は一四一㎏で、県内の六二・八％のシェアとなっています。（山形県紅花生産組合連合会調べ）

白鷹町では、昨年、一昨年と七月の収穫時に豪雨に見舞われ被害を受けました。しかし、生産者が懸命に花を摘み、加工し紅餅をつくりました。それは、全国に紅花を必要としている

人がいるからだとのことです。

本町で本格的な紅花栽培がおこなわれたのは平成に入ってからであり、平成三年から紅花を栽培し、当町の紅花生産者で組織する「白鷹紅の花を咲かせる会」の事務局長であり、県紅花生産組合連合会副会長の今野正明氏は、紅花栽培のリーダーとして、紅餅等の紅花栽培加工技術の伝承活動を行っており、山形県内の紅花づくりの牽引役として手腕を奮っています。

紅花畑は、紅餅や乱花の生産だけではなく、観光としての一面も担っており、「紅花摘み猫の手隊」と銘打って、紅花摘みの体験ができる畑を提供するグループもあります。これは観光協会と提携し、より多くの方に紅花摘みを体験してもらおうというもので、初夏の早朝五時前後からツアー客や近隣住民の方などが紅花畑で花摘みを行います。摘み取り体験をした方には収穫量に応じて謝礼をお渡ししています。摘み取り体験を通して、さわやかな夏の朝を感じ、機械化が難しいとされる花摘み作業から、古の先人たちへの思いを馳せることができる体験となっています。

町のとりくみ

〈観光としての紅花〉

【紅花まつり】

白鷹町での紅花まつりは、「もう一度紅花の咲いている風景が見たい。見せたい。」という町民グループ（白

鷹紅の花を咲かせる会）の取組みから始まりました。

今年で二十一回目を迎え、紅花に親しむ機会としての「紅花まつり」の開催は、確実に生産者の増加につながってきたと考えられます。今では、町をあげての「しらたかの初夏のまつり」として定着しています。

【紅花 colors】

山形デスティネーションキャンペーンの誘客事業として平成二十五年度から取り組まれているのがべにばなアート展「紅花 colors」です。これは、東北芸術工科大学芸術学部美術科テキスタイルコースによる紅花をテーマとした多彩なアート作品の展示や、紅花染め体験、観光イベントフォメーションなど、町文化交流センターを会場に約一か月間開催するものです。毎年恒例となった「やまがた舞子」の演舞や「紅花 colors パンまつり」では大勢のお客様で賑わいを見せています。今年は、劇団「M（アイム）による詩劇「花はくれない」の公演が行われ、山形の紅花を題材とした芸術に触れることができました。

【紅ランチ】

紅花 colors に合わせて行われているのが、紅ランチの提供です。これは町産の紅花をふんだんに使った特別メニューを町内の鷹野湯温泉パレス松風と道の駅白鷹ヤナ公園あゆ茶屋が期間限定で販売するランチです。紅ランチ発表会ではやまがた舞子の演舞も披露され、ツアー客を楽しませています。

【山形銀行本店への紅花展示】

観光としての紅花イベントは、山形銀行本店を会場として開催している「白鷹紅花まつり展」から始まります。銀行の入り口やロビーは白鷹の紅花一色となり、紅花染めの打掛や、パネルなどを展示し、山形県内外へ白鷹の紅花シーズンが始まったことを知らせる絶好の機会となっています。

〈生産者への支援〉

平成二十三年度に町内産業の振興を図るため、町、農協、商工会、観光協会、酪農協、一般財団法人アルカディア財団で組織する「白鷹町産業振興戦略会議」が結成されました。白鷹町の農業・工業・商業・観光の連携により、白鷹の特色を活かした産物を県内外へ発信していこうというものです。その中で、白鷹は紅花生産日本一であることから「紅花」、さらには搾乳量が県内一であること、また米沢牛の生産地であることから「牛」を主力品目としての取り組みを行っています。

紅花の生産者に対する支援は、平成二十四年度から実施されており、当初は観光紅花という視点が強く、作付面積に応じて助成金を交付していましたが、近年は紅花生産量を重視する内容としての制度への見直しを行いました。これは、紅花生産日本一を維持することで、観光面においても、キャッチフレーズや話題性の点でも期待できることが大きいと考えたからです。観光にとって「日本一」というキャッチフレーズは、集客の最大の武器になると考えたからです。

紅花の出荷は山形県内の各生産者が一堂に会し、山形

県紅花生産組合連合会で行われています。会場では品質の高い紅餅や乱花に注目が集まり、その技法などについて常に関心事となっているようです。

産業振興戦略会議では、紅花栽培や、品質の高い紅餅、乱花の生産に向けて、生産者会議を実施しています。県の西置賜農業技術普及課や前説の今野氏の協力を得て、連作障害への対応や、畑作りについての勉強会を実施しています。また、生産者同士も、種の下準備、播種の時期などについて熱心な情報交換が行われています。

課　題

〈連作障害の件〉

紅花の栽培・生産にとって課題となるのが、連作障害です。紅花の場合、三～五年位で連作障害の影響が出てしまいます。有機物の投入による土壌改良や土づくりを図り、毎年同じ場所での栽培に成功している生産者もいますが、ほとんどが、輪作により対応しています。前述の生産者会議でも土壌づくりが関心事の一つとなっています。

〈生産者の高齢化〉

「白鷹紅の花を咲かせる会」が発足して二十一年が経過し、生産者も次第に高齢化が進んできました。今後も紅花生産を継続していくうえで、後継者不足が心配されます。それには、さまざまな要因が考えられますが、紅花の販売価格は十アールあたり十五～三十万円位で、摘み取りや紅餅への加工を考えた場合、他の生産物よりも利益を上げにくいことも要因のひとつと考えられます。

今後の取り組み

国では地方創生の施策の中で、安定した雇用創出、地方への新しい人の流れ、少子化対策、地域間の連携を掲げており、本町においても様々な視点から計画を策定して取り組んでくこととなります。その中で、生産量日本一の紅花に着目することは必然のことであり、生産量の増大や観光振興への有効活用など、更なる磨き上げを図っていかなければならないと考えております。

飯豊町

山形大学蓄電デバイス開発研究センター（飯豊拠点）間もなく竣工

有機エレクトロニクス分野で先端技術の実証研究拠点の整備を進めている山形大学は、国内屈指の先端研究者を招へいし、蓄電デバイス開発研究センター（飯豊拠点）を平成二十八年四月に稼働すべく、町とともに建設を進めています。

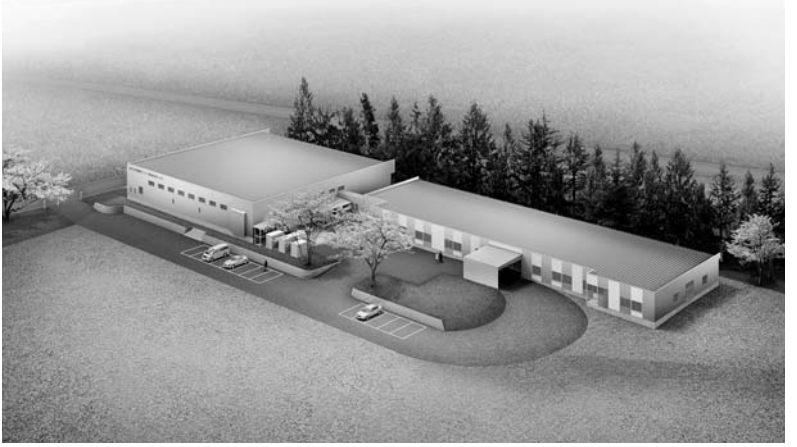
携帯電話などのモバイル機器に搭載されるリチウムイオン電池は、世界市場一兆七千億円を超え、蓄電池市場の中心的存在であり、電気自動車をはじめとした大型分野への拡大も見込まれ、その規模は二千二十年には、二兆七千億円に達する見通しとされています。

平成二十六年十月に着工された開発研究センターは、すでに海外からの受注者や購買者がリチウムイオン電池製造のすべての工程が見られる実証棟が完成し、平成二十七年四月から一部稼働しており、現在は、国内外の企業や研究者が山形大学とともに開発研究ができるユニット十室を含む研究棟の建設が急ピッチで進められています。

【開発研究センター設立のねらい】

この度の開発研究センター設立については、山形大学、飯豊町、※産総研、山形銀行、企業の「産学官金」が連携し、次のビジョンを描いています。①「ヒト・モノ・カネ・情報」が集まる仕組みをつくり、②資金が潤沢な海外の

企業などをターゲットに、山形大学と装置メーカーなどの国内企業がプロジェクトチームを形成し、ユーザーが求める商品開発を行う新たなビジネスモデルを創造することにより、③蓄電関連企業の一大集積地（飯豊町電池バレー）形成を目指すというものです。



※産総研は、独立行政法人産業技術総合研究所の略称。日本の産業を支える環境・エネルギー、ライフサイエンス、情報通信など多様な研究を行う我が国最大級の公的研究機関。

【規模と運営】

開発研究センターの総事業費は、十五億円で、飯豊町が施設整備費七億円を負担、山形大学が開発研究機材など八億円を負担します。

また、開発研究センターの運営に係る経費は、山形大学が全額負担するとともに、十年間で一億円を施設利用料として飯豊町に支払うことが決定されています。

施設整備の概要は、実証棟及び研究棟合わせて二千五百平方メートル、鉄筋コンクリート造り。実証棟には、ベンチャー企業立ち上げに係る新規装置、ドライルーム、混合・塗工機、積層機、充放電装置、安全性試験装置などが整備され、材料から商品化までの一気通貫型のパイロット工場となります。

農村が先端科学を支援し、頭脳流出を防いで、科学が農村を支えるという地方版の社会実験が始まります。

東京都杉並区高円寺に飯豊の拠点づくり

平成二十六年十一月、高円寺純情商店街の一角に四階建ての建物を借受け飯豊の拠点を整備しました。

【経　過】

山形おきたま農業協同組合飯豊地区青年部が平成十六年度から、東京都内の小学校において稲作体験出前授業を行っており、参加校の一つである杉並区立杉並第六小学校のＰＴＡ会長から都市と農村との交流事業に積極的な高円寺純情商店街を紹介いただいたのがきっかけとなりました。こうした「ご縁」が拠点づくり事業へと発展しました。

【交流・販売・食育・情報発信】

今後の飯豊拠点の具体的な取組みをご紹介します。①都内在住者との交流を生かした移住定住フェアの開催、②飯豊の特産物販売、③農作業体験を通して収穫した野菜などの料理教室・食育発信、④そして美しい村連合に加盟している飯豊町の魅力をＰＲします。多勢の消費者が行きかう高円寺純情商店街に新たな拠点を置くことで、オール飯豊の顔が見える情報発信拠点となるよう努めてまいります。

町営学習教室「いいで希望塾」開講

町の将来を担う人材育成を目指し、中学生を対象とした町営の学習塾を開講いたしました。

保護者の負担は、学習教材の実費のみです。英語と数学を重点的に、学習の補充的・発展的な学習機会の提供を行い、①学習の習慣、②学ぶ意思、③やればできるという自信、の三つを育む教育の実践を行ってまいります。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」と家臣に説いた米沢藩主上杉鷹山と同様に、「自分の可能性を見いだせ、君たちはやればできるんだ」と町民みんながエールを送っています。

トピックス 1

なせばなる秋まつり
キャロライン・ケネディ駐日米国大使来訪記念碑除幕式

米沢市伝国の杜周辺で、九月二十六・二十七日第四回なせばなる秋まつりが開催された。

『時代行列』では米沢の偉人に扮した三十一人と偉人の卵とする児童らが大門交番から伝国の杜まで約四〇〇メートルを行進した。

行列の登場人物を紹介すると、小野小町、佐藤継信、佐藤忠信、那須与一、西條倫房、伊達政宗、支倉常長、上杉景勝、直江兼続、上泉泰綱、前田慶次、お船の方、武田信清、菊姫、甘粕右エ門、吉良義周、新貝弥七郎、山吉新八、上杉鷹山、お豊の方、細井平洲、近藤勇、堀粂之助、堀内素堂、伊藤昇廸、色部久長、雲井龍雄、上杉茂憲、C・Hダラス、宇加地新八、ルイザ・イムホフの三十一人です。何人御存知でしょうか。

昨年同まつりを見物したキャロライン・ケネディ大使の来訪を記念した碑の除幕式が挙行された。記念碑は大使来訪を後世に伝えようと、招聘活動に取り組んだ歓迎委員会が建立したもので、吉村美栄子山形県知事、上杉邦憲上杉家十七代当主、安部三十郎米沢市長、吉野徹歓迎委員長らにより除幕された。

記念碑には、大使の顔写真とスピーチの要約文『父が上杉鷹山を敬愛していた』ことなどが刻まれている。建立場所は松が岬第二公園の上杉鷹山公坐像のそばである。

除幕式に参加の方々

秋まつりは、米沢どん丼まつり、棒杭市、昔遊び体験、伝統市、草木塔祭、飯豊山登拝出発式、南奥羽城下町サミットなど盛り沢山のイベントで賑わった。

トピックス 2

結城豊太郎記念館開館二十周年
臨雲文庫開庫八十周年記念事業

今に活きる　結城豊太郎先生

南陽市立結城豊太郎記念館
館長　加藤正人

一、はじめに

南陽市の名誉市民で、元大蔵大臣、日本銀行総裁の結城豊太郎先生の遺品や関係資料等を展示し遺徳を伝える南陽市立結城豊太郎記念館が開館二十周年、結城先生が創設した臨雲文庫が開庫二十周年を迎えた。この節目の年を記念して、結城豊太郎先生の生誕の日である五月二十四日に、記念館及びえくぼプラザにおいて記念講演や記念式典・祝賀会が開催された。

この記念事業には、記念講演の講師で前日本銀行総裁白川方明氏をはじめ、日本銀行仙台支店竹澤秀樹支店長、山形県銀行協会長谷川吉茂会長など金融関係者をはじめ、市の関係者や市民など数多くの方々の参加のもとに盛大にとり行われた。

二、臨雲文庫

昭和十年、半年に及ぶ欧米の金融事情を視察した結城豊太郎先生がイギリス訪問した時に、野良着姿で本を読んでいる農民を目にし、図書館から借りた本を読んでいることに感銘を受け、帰国後横浜の新子安の週末の別荘を移築し、自らの蔵書を当時の赤湯町に寄贈し、自宅のすぐそばに図書館を造り臨雲文庫と命名した。戦後、赤湯公民館そして結城記念館と変遷はあったが、八十年の長きにわたり町の人々の学びの館として人々の生涯学習を支えてきた。

三、南陽市立結城豊太郎記念館

平成七年、結城豊太郎先生遺徳顕彰会が中心となり、県内はもとより全国各地の金融機関、結城先生を敬愛する市内外の多くの人々の浄財、そして南陽市当局によって、結城先生の遺品を保管する収蔵庫を備えた記念館が完成した。以来二十年、この記念館には南陽市民はもと

より全国各地から多くの人々が見学に訪れ、結城先生の遺徳に学び、当時の時代に触れ、思いを馳せ自らの生き方やふるさとについて考える場となってきた。

四、記念講演・記念式典

記念講演は前日本銀行総裁の白川方明青山学院大学特任教授が「結城豊太郎総裁と日本銀行」と題して、結城豊太郎先生が日本銀行総裁だった戦時中の日本経済・金融情勢などについて詳しく解説し、日本銀行の果たしてきた役割について、詳細なデータに基づき講演した。講演の中で結城先生の人柄にも触れ、厳しさの中に家族や後輩、部下を思い、自分を育んでくれた郷里をこよなく愛する折々のエピソードも交え結城先生を讃えた。歴代総裁では初めて当地を訪問した方であり、講演後は記念館に足を運び、展示の数々を目にし、収蔵庫の資料に目を通しこれほどまでに郷里の人々に愛されてきた理由の一端を知ることができたと、南陽市を訪問できたことを喜び、感謝の言葉を残している。

記念式典では主催者を代表し、南陽市白岩孝夫市長が結城先生の功績を紹介し、記念館の今後の運営に期待を寄せた。また、参加者を代表し日本銀行仙台支店竹澤秀樹支店長、山形県銀行協会長谷川吉茂会長、さらに親族代表の二木泰彦氏より結城先生の業績や人柄等に触れ、節目の記念へのお祝いの言葉をいただいた。

五、おわりに

結城豊太郎先生は第六代米沢有為会の会長として、会の充実発展に貢献している。先生の思いは「ふるさとは国の本なり」と讃えられているように、地方の発展なしには国は発展しないと、自らの生まれ育った郷里赤湯に多大な貢献をしている。また人づくりこそ重要であると、臨雲文庫や青年の学びの館「風也塾」を創り、様々な形で母校を支援している。結城先生の思いはまさに米沢有為会の願いと相通じるものがある。

長い年月を経てもなお、多くの人々に敬愛されており、その教えは今も脈々と受け継がれている。激しく変化する時代だからこそ、不易の教えをしっかりと次代に伝えていくことが重要であることを、記念事業を通して再確認できた一日となった。

置賜歴史短信 1

米沢出身の偉大なる植物学者
小泉源一博士

われらが故郷米沢市から多くの人材が輩出し、わが国の発展に貢献した。所謂全国区的な有名人の職業を分類すると、政治家、軍人、経済人、芸術家、学者など多彩である。学問を大きく分類すれば人文科学系と自然科学系に分けられるが、前者よりも、後者はきわめて少ないのが実態である。その理由は別として、わが国の植物分類学上画期的な貢献を果たした自然科学者の業績について解説する。昭和のはじめ、日本植物学会において東の牧野、西の小泉とたたえられた時代があった。東の牧野とは当時東京帝国大学に籍をおく、有名な故牧野富太郎博士のことである。西の小泉とは当時京都帝国大学に籍をおく、小泉源一博士のことである。両博士籍をおく大学を含めてライバルのごとく思われるがさにあらず。両博士恩師と弟子の関係にあったのである。小泉先生と郷土の先人なれば親しみを込め呼ばせていただく。先生は明治十六年（一八八三年）十一月一日小泉清次氏の長男として、米沢市林泉寺に生まれた。米沢中学を卒業後、札幌農学校林学実科に入学された。米沢中学時代から植物に興味関心を抱き、斜平山や吾妻山に登り植物採集をした。当時生物学担当の中村正夫先生には大変薫陶を受けたことが山形県植物誌に書かれている。札幌農学校は明治九年（一八七二年）北海道開拓使学校として開校した。翌年アメリカのマサチューセッツ州アーマスト農科大学長クラーク氏を教頭として迎え、翌年札幌農学校と改名した。僅か二年の滞在期間であったが、若き日本の学生に与えた影響は極めて大きかった。退任挨拶の時に右手をかざし叫んだボーイズビーアンビシャスは名言として今も残る。

卒業生には内村鑑三、水戸部稲吉など多くの人材を生んだ。小泉先生も大きな憧れを抱いて北の大地に挑戦し

たのである。小泉先生は札幌農学校に在学し、上京するまで五年の月日が流れるが、この間大変な業績が知られている。先生には三才年下の小泉秀雄氏という弟がおられた。盛岡高等農林学校に学ばれ、旭川の中学校で教鞭をとっていた。この方は希に見る植物採集家であった。そこで兄弟で、北海道樺太の植物調査を行った。とくに北方植物の宝庫である、大雪山山系の調査は前人未到の快挙で、大きく報道され、一躍兄弟の名は天下に知られることとなる。この頃より標本の鑑定指導などを通じて、牧野富太郎博士との交流が始まったと推察される。牧野先生の略歴には今昔の感が歴然である。先生の生家は高知市にあり、土佐藩士の家柄で大きな造り酒屋であった。先生は藩校に入学したが、一年足らずで退学し、独力で動植物の採集研究を始めたという。周囲の人は神童とも奇人とも呼んだという。明治十四年（一八九一年）十八才の頃から上京し、理科大学（東京帝国大学の前身）植物学研究室に出入りするようになった。そして矢田部良吉博士について本格的な植物分類学の研究が始まった。学歴はなくとも、植物についての知識たるや大学教授が一目おく存在であった。植物を見分ける炯眼は正に大学の宝であり、日本どころか世界の牧野といわれた。また絵図の巧みなこと抜群で、牧野植物図鑑は他の文庫本を圧倒しベストセラーになったほどである。植物分類学を志す、小泉先生にとって牧野先生は正に憧憬の的であり、いつか牧野先生の門を叩くことを願っていた。明治三十八年（一九〇五年）小泉先生は東京市小石川区戸崎町の牧野邸に突然訪れたとのこと。そして弟子になりたいと懇願する小泉先生の願いを受け入れて下さったのである。その年の四月に東京帝国大学理科大学生物学科に入学し、牧野先生のお宅から通学することになった。娘の鶴代さんは当時五才で小泉先生によく懐き時に困らすこともあったという。大学では、当時植物分類学の大家松村任三博士に師事することになる。植物鑑定は、牧野先生に当時の日本の最高ともいえる学者に薫陶を受けられた小泉先生は実に幸せな方である。果報は求めてこそ得られることを実証している。明治四十一年に東京帝国大学を卒業した。その後植物学研究室に在籍し、松村教授のもとで研究に従事していたが、大正五年（一九一六年）に、日本バラ科植物考の論文が高い評価を受け、理学博士の学位が授与された。これからが小泉先生の真骨頂である。大正八年京都帝国大学に植物分類学教室が開設されることとなった。初代の教室担当者として小泉先生に白羽の

矢がたったのである。そして助教授として招聘された。大正十四年（一九二五年）より二年間欧米留学を命ぜられた。その時欧米の植物学者より日本の植物学者の研究が検証是正された。その結果をありのままにまとめ、後日発表した。これは勇気ある行動とともに当時の学会におおきな衝撃をあたえた。論文の名はフロラシンホリィオリエンタリィアジアティカである。昭和七年（一九三二年）植物地理学会を設立し、植物分類地理という研究誌を発刊した。このようにあたかも無から有を生ずるがごとく古都の帝国大学に新風を巻き起こしたのである。在任中多くの人材が輩出し、研究室や標本室、植物園など充実し、今や日本の双璧といっても過言でない。昭和十一年（一九三六年）教授に就任された。教え子の中には母校に残り先生の後継者として学会で名をなし教授陣に名を連ねる教え子も出てきた。昭和十八年（一九四三年）に定年退職された。その後数年大学に通い、植物標本の整理や後進の指導に当たられた。小泉先生は学問に対し厳正、常に整頓に心掛け、指導にあたっては、懇切丁寧であった。在職中も山形県内の植物について調査研究をされ大きな足跡を残されている。

当時山形県内にも実力のある植物研究家がおられ、互

デワノハゴロモナナカマドを
バックに記念撮影

デワノハゴロモナナカマド標本

いに連絡を取りつつ、不明な事があれば、小泉先生に連絡をとり解決していた。一例を上げると、昭和のはじめの頃当時小松農学校長加藤元助校長が、中郡の黒川で珍しいイネに似た草本を発見したが名が不明、直ちに小泉先生のもとに送られ、これが九州の方にしかない植物と判り、大きなニュースとなった。隔離分布という現象で、以前謎である。その他小泉先生の名（ｋｏｉｚ）を記した学名は県内の植物に多い。加藤元助氏が上山の虚空蔵山で変わったナナカマドを採集し、標本を京都帝国大学に送った。その結果雑種でデワノハゴロモナナカマドと名づけられた。また林泉寺の農家の庭先に珍しいトネリコの変種が小泉先生によって発見され、デワノトネリコと命名された。米沢に帰られたのは昭和二十二年八月でした。その報を耳にし図々しくも、植物標本など持参してお伺いしたことがある。これをきっかけに斜平山、吾妻山の植物観察会で親しくご指導をいただいたことを光栄に思っている。小泉先生の印象は正に慈父のごとし。小泉先生はかっての旧友や一部の植物愛好家と故郷の山に登り、余生を静かに送られ、昭和二十八年十二月この世を去られた。

２０１４・10・25　温故会例会稿より

文責　石栗　正人

【小泉源一博士略歴】

一八八三（明治十六）年十一月
　米沢市林泉寺で生まれる
一九〇五（明治三十八）年九月
　札幌農学校林学科卒業
一九〇八（明治四十一）年七月
　東京帝国大学理科大学卒業
一九一六（大正五）年四月
　理学博士
一九一九（大正八）年九月
　京都帝国大学助教授
一九三七（昭和十一）年三月
　京都帝国大学教授
一九四三（昭和十八）年十一月
　同　退職
一九五三（昭和二十八）年十二月
　米沢市で逝去

会員の広場

「漆の実」俳句会近況

主宰　鈴木　淳一

「漆の実」俳句会も創刊以来、来年は節目の十周年を迎える。その節目を祝うべく、スタッフと次のような計画をもっている。

一、全員米沢一泊の吟行会。

二、米沢地元の俳句会があれば合同句会。川崎展宏先生一門の俳句会があるのかどうか。あればと思っている。

三、「漆の実」会員全員のアンソロジーの発行。等々。

私も高齢となり、下條会長にはその後の「漆の実」のあり方をお願いしているところ。それと句誌「漆の実」の発行は創刊以来一度も欠刊した事がない。それは小山八州史さん（岡田日郎主宰誌「山火」同人）の献身的な作業の賜で、私の拙稿をワープロで綴っていただき、それを自分で製本されているのみでなく、句会日時の変更、雑用等ひとりで背負っていただいている。もうひとりの人のやれる限界まできていると思い、その事をふくみに新たに「漆の実・幹事会」を設定した。それと今までは句会費は無料であったが、今年より月一、〇〇〇円の会費徴収とした。やはり経営基盤をしっかりとして、吟行の補助金や著名俳人の招聘や、「漆の実誌発行費」等々考えねばなるまい。その幹事会のメンバーを紹介する。

「漆の実」幹事会

主宰　鈴木　淳一　　幹事　中川はじめ（編集担当）

会長　下條　怡生　　幹事　濱田　扇風（企画担当）

幹事長　小山八州史（発行責任者）　　幹事　太田　甘美（会計担当）

何れにしても、米沢有為会俳句同好会「漆の実」を守りつづけて欲しいものだ。スムーズにバトンタッチを心から願っている。なお末記ながら「漆の実」会長というより、文化大学学長の下條泰生さんには、何時も後から大きな力で「漆の実」を押し上げてくれている事に感謝

したい。
　ここでこの一年の私の自選句「黄落」二十句と、会員諸兄姉の作品から私の推した五句をとりあげ掲載した。ご鑑賞のほどを。

黄落

漆の実主宰　鈴木　淳一

黄落の天使となり来一輪車
白線の「止まれ」と書かる秋思かな
裸婦像の眸のにごりをる秋思かな
バス停の時刻替わりし冬支度
憂魂や高倉健の冬帽子
冬帽を深く被りて駅弁喰ぶ
初冬のトースト焦がす油断かな
朝着けば雪国の雪香りをり
猫柳地より婆(ばば)さま声発し
泣き虫がつばめ見しとき指させり
つばくろと火の見櫓と城下町
春寒の駅の階段高すぎる
春寒の光り身につけ耳飾り
蚕豆のはじけて未来信じをり
莢引けば蚕豆蒼く光りだす
蟻地獄密かに眠る月光に
ムソングスキー聴き鼻毛切る冬の夜
かなかなや啼いて迫るな老人に
かなかなの数多死ぬ日も啼きつづく
海昏れてはまなすの香の海となる

「漆の実作品抄」

平成二十六年九月より一年間の淳一入選句を掲げる。

下條　怡生

入梅に傾(かし)ぎたる傘慶次の忌　※前田慶次の忌は六月四日
人老いて言葉の熟し初句会
雨月野の車窓遠きに山家の灯
グラウンドゼロネバダ砂漠の蟻地獄
輪の中の招く女あり盆踊り

小山　八州史

秋思せりロダンほどには深からず
母の日や菜箸少し焦げてあり
囀り声に居合いの間あり冬初め
出羽人は眠りが深し屋根の雪
ふわと持つ紫蘇の袋の透きてをり

池田弁之助

海胆動き浅瀬の磯が戻り来る
茶の花の床は一輪日和なり
下萌や古き工具屋寄ってみる
冬帽子色とりどりの老人会
もう秋だ野菜支柱片付ける

片山丹波

初参り諸膝くずす弁財天　吉原神社
羽子の音や遠く小さく昭和ゆく
雪降り積む道しるべ埋め門を埋め
鴛餅一座の空気明るうす
春灯の等間隔や九十九折

登坂かりん

汐留の駅の昭和史微雨に入る
萩若葉壇ヨソ子さんそっと逝き
空豆はまだ流し場の笊の中
仲見世の美し過ぎる切山椒
白菜の束また届く勝手口

濱田扇風

年惜しむ深爪少し疼きをり
跡形もなきアパートや蟻地獄
カンナ佇つ松本楼はこちらです
紫蘇青くパスタの皿を彩れる
縄文の環のごとき翳ありじごく

太田　甘美

冬の夜からす一声夢やぶれ
葉桜や上野の森の音楽隊
墓洗ふ見知らぬ先祖の名も洗ふ
サンプルの香水一流母の日に
黒帯がピカリと光る年の暮　合気道免許賜る

松坂　六義

富士遠望病室よぎるつばくらめ
蟻地獄殺生禁止の盆休み
蟻地獄生贄持って並びし子
昼日中プールサイドで一寝入り
井戸水のタオルを首に熱帯夜

短歌同好会「古今小杉短歌会」の近況

世話人　吉田数馬

川柳同好会「柳為会」を六年余り続けましたが、ご指導して下さった薄木博夫先生が亡くなられました。

並行して開催して来た「短歌会」も三年になり、会員も九名（米沢有為会会員は四名・次回より一名増員）で、隔月楽しく詠んでおります。是非ご参加ください！

▼連絡先　吉田数馬　〇九〇－三二二四－二〇一五
近藤郁子　〇八〇－五〇二一－九六六〇

師　香川三枝（歌人）

・生い立ちも趣味もちがへばおのづから貌に出でくる
老人会とは

・高名な歌集の中にその名ありジュリアンソレル
なつかしき赤

・肌寒き秋の終りに咲いている
秋桜ひとつなぜかゆかしく
（吉田数馬）

・一輪のコスモス残りはるかなる
時の向うの友想い居る
（同）

・山梨の瑞牆山（みずがきやま）は岩なるも
肩から下は錦秋の衣
（嶋貫昭雄）

・軒下で姿哀れに干し柿は
ヒヨドリたちの餌食になりぬ
（同）

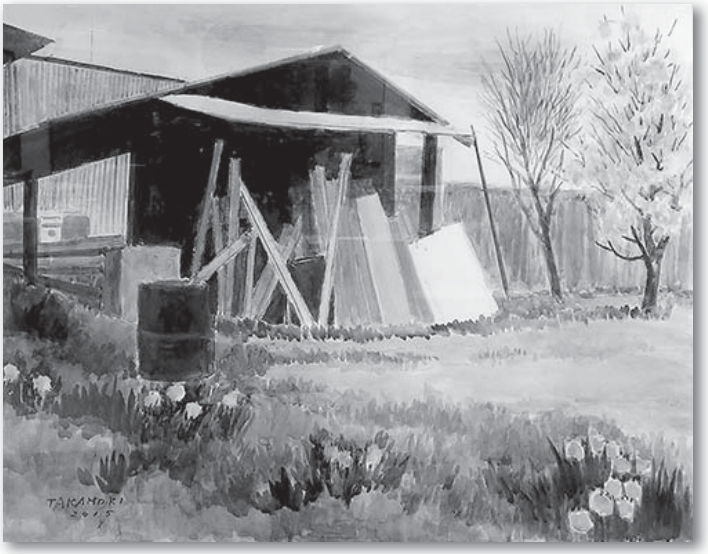
・Uターンの声に揺れいるわが心
「帰っておいで」ささやく山河
（近藤郁子）

・いづこより金木犀の香りたつ
亡兄の棺に入れし遠き日
（同）

・仲の良き姉妹と言はれ七十年
当たり前でも少し誇らし
（樋渡三保子）

・もぐ人も食べたき人もおらぬのか
すずなりの柿ふるさとの秋
（同）

平成27年度県民芸術祭・米沢巡回展より



『材木小屋の春』

委嘱　高森　務

『祈念70』　委嘱　亀岡　博

『ヤズド（イラン）の風採り塔』　髙橋丈夫

郷土の本紹介（H26・9～H27・9）

資料提供 ―― 市立米沢図書館

No	書名	著者名	出版社	出版年	分類記号	ページ数	内容等
1	米沢の神社・堂宮 ―西部地区―	市立米沢図書館		2015.3	175	163	平成26年度郷土資料調査報告書
2	舘山城跡	米沢市教育委員会		2015.3	202	31	舘山城跡の縄張と遺構、発掘調査で見えてきた舘山城跡と周辺の遺跡、関連する史料や遺跡、年表、用語解説
3	知って得する日本史話	野呂 肖生・高橋 ひろ子	山川出版社	2015.4	210	296	米沢のがむちゃれ、雲井龍雄：227～229p
4	戦国武将の明暗	本郷 和人	新潮社	2015.3	210	227	直江状に家康は怒ったか：41～54p
5	近世大名墓の成立	大名墓研究会編	雄山閣	2014.1	210	181	地域における近世大名墓の成立　米沢藩：175～176p
6	日本古代都城と中世都市平泉	吉田 歓	汲古書院	2014.10	212	12, 275, 22	著者は米沢女子短期大学日本史学科教授
7	沖縄の殿様	高橋 義夫	中央公論社	2015.5	219	251	沖縄県令として赴いた米沢藩上杉家最後の藩主上杉茂憲の2年にわたる奮闘の記録
8	政宗が殺せなかった男	古内 泰生	現代書館	2014.10	289	267	伊達政宗の叔父・伊達盛重の数奇な生涯を追い、奥羽の戦いと変遷を綿密な考証で捉え、宮城・山形・福島・茨城・秋田・岩手の戦国模様を再現する。
9	上杉顕定	森田 真一	戎光祥出版	2014.12	289	231	関東管領　山内上杉氏の権力の実態を明らかにする。
10	わが山行記	三澤 将良	麦ひとつぶ出版部	2014.12	290	310	朝日連峰、月山、飯豊山
11	慶次と歩く戦国の旅	今福 匡	洋泉社	2014.12	291	239	「前田慶次道中日記」の行程を辿りながら中世東山道の旅を追体験する。
12	全国都市の特色のある施策集	全国市議会議長会編	ぎょうせい	2015.3	318	26, 449	田んぼアート米づくり体験事業、有機ＥＬ関連事業費補助事業を紹介
13	結果を出すリーダーが知っている歴史人物の知恵	NHK「先人たちの底力　知恵泉」番組制作班編	朝日新聞社	2015.2	336	377	一人一人が主役にならなければ危機は突破できないに直江兼続の掲載がある。

No	書名	著者名	出版社	出版年	分類記号	ページ数	内容等
14	歴代日本銀行総裁論	吉野　俊彦	講談社	2014.12	338	509	池田成彬論、結城豊太郎論、宇佐美洵論の掲載がある
15	ここだけは見ておきたい東京の近代建築1・2	小林　一郎	吉川公文館	2014.9	523	150	一橋大学兼松講堂、築地本願寺、東京大学正門、明治屋京橋ビル
16	新・雪国の酒蔵		梧桐書院	2014.11	588	259	雪の恵みに抱かれて、雪国に生まれる旨し酒。雅山流の掲載がある。
17	セゾンファクトリー社員と熱狂する経営	齋藤　峰彰	日経BP社	2014.12	588	220	超体育主義で社員を育成する高級食品メーカーであるセゾンファクトリーの社長が「社員と熱狂する経営」を大公開する。
18	日本のごちそう　すき焼き	向笠　千恵子	平凡社	2014.11	596	223	第四章　ブランド好きの日本人が愛する銘牛で米沢牛を紹介
19	お宝さがし探検隊　現在の置賜をのぞき見る	米沢市芸術文化協会		2014	706	11	米沢市芸術文化協会50周年を記念したイベントと写真集
20	やまなし　ひかりの素足	ますむらひろし	三起商行	2015.7	726	191	本市出身のますむらひろしが宮沢賢治の名作をコミック化
21	オツベルと象　虔十公園林	ますむらひろし	三起商行	2015.7	726	191	本市出身のますむらひろしが宮沢賢治の名作をコミック化
22	ヨネザアド幻想	ますむらひろし	ヨネザアド・カタツムリ社	2015.6	726	375	故郷・米沢に想いを寄せた作品40年の集大成
23	武者道沿いの雪景色2012～2015年	古川　純		2015.4	748	35	武者道の雪景色の写真集
24	甘粕正彦と李香蘭	小林　英夫	勉誠出版	2015.7	778	239	満映という国策映画会社の活動と理事長甘粕正彦、女優李香蘭の動きを二重、三重に写しにし、満州国の時間的空間的の固定化と純化の動き、その困難さと克服の過程と破綻、戦後への影響について論じる。
25	ちいさなみっつのクリスマス	亀岡　亜希子	いのちのことば社	2014.12	913	頁付けなし	本市在住の亀岡亜希子が描くちいさな主人公たちのちょっぴりおかしくて、いとおしい、あったかなみっつのクリスマスのお話。
26	戦国の軍神	津野田　幸作	学研パブリッシング	2014.9	913	188	余命を知った秀吉が豊臣の世を存続させるために、真田昌幸、幸村の壮絶な戦いが始まる。上杉景勝と直江兼続の掲載がある。
27	猫に知られるなかれ	深町　秋生	角川春樹事務所	2015.8	913	304	著者は南陽市出身。敗戦後の占領下、日本の再独立と復興のため、極秘裏に設立された組織があった。

賛助会員名簿

（平成二十六年度）

公益社団法人米沢有為会の主旨に賛同いただき賛助会員としてご支援ご協力をいただいている方々です。

東京支部

㈱アルックス
㈱向洋アドシステム
日綜産業㈱
舟寿司
マコー技研㈱
㈱ユニオン エンタープライズ
㈱ウッズ

米沢支部

相田建設㈱
浜田㈱
㈱小嶋総本店
置賜建設㈱
㈱大清
㈱丸定
米沢中央高等学校同窓会 椎の実会
さの医院
遠藤 廣
中條医院
若松工業㈱
舟山 清
㈶宮坂考古館
鉄砲屋町町内会
精英堂印刷㈱
㈱タカハタ電子
㈱羽陽印刷
㈱山形新聞社 置賜総支社
中條歯科医院
東北警備保障㈱
㈱カワサキ印刷
米沢ヤクルト販売㈱
田中クリニック
米澤信用金庫
㈱きらやか銀行 米沢支店
廣居建設㈱
㈱山形銀行 米沢支店
㈲今泉商店

（敬称略）

宮坂孝夫
金子晃司
小野辰雄
深沢和子
東海達夫
佐藤藤助
林 直司

（敬称略）

相田晃輔
濵田 淳
小嶋彌左衛門
川野敬典
中村恵一
佐藤良喜
佐野隆一
中條明夫
片倉 尚
宮坂直樹
磯 清一
井上吉昭
安房 毅
石田一郎
大井祐一
中條良文
武田誠一郎
川崎信一
寺島 仁
田中雄二
加藤秀明
川村 淳
廣居 誠
武田昌裕
今泉 宏

石橋医院　石橋正道
髙橋胃腸科外科医院　髙橋秀昭
山岸草木工芸㈱　山岸幸一
新保㈱　新保晃一
㈱米澤紀伊國屋　佐藤知由
㈱米澤新聞社　保刈正男
㈱本多建設　本多作之助
佐々木隆一司法書士事務所　佐々木隆一
㈱荘内銀行　米沢中央支店　小松久弘
㈱平山孫兵衛商店　平山孫兵衛
㈱オカテックス　岡崎芳久
㈱米沢牛　黄木　黄木修太郎
我妻建材工業㈱　我妻光明
㈱新田　新田英行
村正運輸㈱　村山正博
㈱ナウエル　宮嶋敏郎
㈱川島印刷　川島良範
㈱タスクフーズ　宮坂宏
㈱上杉コーポレーション　松田理
㈱データシステム米沢　髙橋孝二
㈱小泉創芸　小泉雅行

金子建設工業㈱　金子尚人
米木建設㈱　前山郁朗
㈱青葉堂印刷　中村隆志
太田建設㈱　太田政往
小児科　入間田医院　入間田潔
㈲平田自動車工業　平田憲二
㈱エービーエム　赤間俊明
㈱後藤組　後藤茂之
㈱セゾンファクトリー　齋藤峰彰
ハイメカ㈱　亀森俊博
㈱村山商工　村山順彌
㈱堤商店　堤孝雄
㈱天元台　斎藤友久
ジーエスデザイン㈱　福崎真智子
東亜熱研工業㈱　増村力

（敬称略）

仙台支部

仙台環境科学㈱　加藤啓二
㈱東北オフィスマシン　林崎まつ子

・東京支部　七社
・仙台支部　二社
・米沢支部　六十四社

合計　七十三社

公益社団法人

米沢有為会役員名簿

平成二十七年九月現在

名誉会長

上杉邦憲

名誉会員

本間敏雄

下條泰生

会長

（理事）須貝英雄

副会長

（理事）平山英三

理事

伊藤和夫

梅津幸保

太田ひろみ

加藤国雄

甲國信

川合勝雄

川井陽一

倉田和子

鈴木吉助

鈴木幸一

鈴木信之

種村信次

宮坂孝夫

監事

伊藤秀太郎（同）

佐藤和彦

諮問員

（東京）赤井淳一

（仙台）安部金之丞

（東京）飯沼俊男

（同）今井浩之介

（米沢）遠藤善則

（米沢）遠藤善之

（仙台）加川巖

（東京）片平善造

（同）金子晃司

（同）紺野耕

（同）佐藤陞三

（同）佐藤好明

（米沢）庄司芳彦

（同）髙橋節子

（東京）瀧澤新

（仙台）田林晄一

（北海道）田村邦夫

（同）丹野久

（米沢）塚田昌伸

（仙台）塚原保夫

（米沢）手塚宮雄

（京都）長澤智

（米沢）仁科義英

（東京）西村純

（同）羽隅弘宣

（同）樋口正宏

（同）深沢和子

（京都）星利三

（東京）本郷友信

（仙台）本田健夫

（米沢）宮坂宏

（東京）村石房男

（同）村山浩和

（米沢）山木勇一郎

相談役

大関修敬
大友久太郎
小関　薫
小関昌幸
小森力雄
鈴木脩二
曽根伸良
中條　仁

理事役務分担

○総務部

部　長　平山英三
副部長兼組織担当（米沢）　種村信次
組織担当（東京・舎生ＯＢ会）　宮坂孝夫
組織担当（仙台・舎生ＯＢ会）　甲　國信
施設担当　鈴木吉助
財務担当　鈴木信之
総務担当　川合勝雄
同　倉田和子
参　事　渡邉忠義（施設担当）

○育英事業部

部　長　加藤国雄
副部長兼奨学金担当　川井陽一
募集担当　伊藤和夫
学生寮担当（東京興譲館長）　川合勝雄
学生寮担当参事（仙台興譲館長）　滝口政彦

○地域・教育振興部

部　長　伊藤和夫
副部長　鈴木信之
部　員　鈴木幸一
同　梅津幸保
参　事　金子周治
同　山木勇一郎
同　後藤　穂

○文化広報部

部　長　梅津幸保
副部長兼ＨＰ担当　加藤国雄
部　員　宮坂孝夫
同　倉田和子
同　太田ひろみ
参　事　山宮光雄
同　佐藤孝市
同　石田和弘
同　宮坂　宏

○文化大学

名誉学長　下條泰生
学　長　米野宗禎

○東京支部長

加藤国雄

○米沢支部長

安部三十郎

我妻榮記念館担当

上村勘二

○仙台支部長

甲　國信

○京都支部長

高橋雅雄

○北海道支部長

田村邦夫

○教育委員

伊藤和夫

佐藤嘉一
佐藤広明
島津真一
高橋節子

○産業振興委員

斎藤友久
柴田正孝
山口昇一

○寄宿舎 興譲館

東京館長 川合勝雄
東京寮母 三浦絢子
仙台館長 滝口政彦
仙台副館長 長澤健一
仙台寮母 小野寺眞知子

○我妻榮記念館

名誉館長 我妻堯
館長 上村勘二
管理人 手塚正

東京支部役員

運営委員 遠藤拓
同 安部敏
同 五十嵐京子
同 高橋節子
同 本多和彦
同 佐藤繁
同 神保厚

支部長 加藤国雄

副支部長 川合勝雄
鈴木信之

理事 板垣史朗
伊藤貞治
太田ひろみ
加藤国雄
川合勝雄
川井陽一
倉田和子
五雲寺卓
佐藤憲一
佐藤好明
鈴木吉助
鈴木信之
瀧澤昭義
中川紘一
羽隅弘宣
林常子
平山英三
平山和博
宮坂孝夫
吉澤雄一

監事 渡邉忠義
赤井淳一
佐藤和彦

相談役 本間敏雄
小森力雄
鈴木脩二
石原俊一
米野宗禎

参事 井上麻矢
近藤郁子
澤田美根子

諮問委員 青木恵子
安部壮一郎
安部忠彦

安部洋司
伊藤隆明
今井浩之介
岩瀬和子
遠藤弘隆
大滝則忠
神野民夫
金藤泰伸
近藤郁子
佐藤孝夫
佐藤毅
橋本亨子
深沢和子
舟山国夫
村石房男
村山浩和
山田雅宏
山田幸生

米沢支部役員

吉田仁志

支部長

（理事）安部三十郎

副支部長

（理事）種村信次
（理事）梅津幸保
（理事）本多和彦

理事

安部敏
井熊征一
伊藤和夫
遠藤善之
（常務）遠藤善則
大貫英一
小野庄士

監事

金子周治
上村勘二
岸順一
後藤穂
佐藤広明
山宮光雄
白田悟
鈴木幸一
高橋節子
高橋丈夫
塚田昌伸
手塚修
手塚宮雄
宮坂宏
山木勇一郎
中條良文
柴田正孝

諮問委員

赤木義信
井上栄子
石田和弘
磯部道昭
稲村修
漆山裕
奥村政秋
川野裕章
近野洋一
小林圭一
佐藤孝市
佐藤富士雄
佐藤知由
島津真一
須崎登志
庄司芳彦
武田誠一郎

玉上利恭
土屋宏
戸田直博
福崎真知子
本間精
松田修
山口昇一

顧問

渡部秀丈
遠藤武彦
木村忠三
後藤源
中川勝
野村研三

相談役

上杉季雄
上杉虎雄
遠藤英明

大久保利之
大友久太郎
小関薫
鈴木徳松
曽根伸良
町田富保

参事

伊藤秀一
高橋章
本間浩
宮本秀行
米浩二
（事務局長）森谷幸彦
（事務局）伊藤範夫

仙台支部役員

支部長

甲國信

副支部長

安部金之丞
塚原保夫

理事

大武清夫
遠藤光広
加川巖
鈴木修治
鈴木良平
滝口政彦
田林晄一
長澤健一
平吹隆一
本田健夫

監事

遠藤三郎
加藤啓二

相談役

中條仁

仙台興譲館長

滝口政彦

仙台興譲副館長

長澤健一

京都支部役員

支部長

高橋雅雄

副支部長

岩崎淳
斉藤昭一

庶務監事

長沢智誠
市浦剛

理事

岩崎淳
菅野榮三
斉藤昭一
保科喜重
三瓶良浩
島津明仁

諮問委員

北郷勝
佐藤恒雄

北海道支部役員

支部長

田村邦夫

副支部長

佐藤俊一
上野和子

理事

芳賀秀樹
須藤進
（事務局）丹野久

諮問委員

鈴木吉行
関二郎
孫田敏
田中健治
加藤三雄

相談役

佐藤豊
大峡康治
安部英夫

興譲館寄宿舎ＯＢ会

（平成26年～27年）

名誉会長

大関修敬

会長

佐藤毅

副会長

大滝則忠（東京ＯＢ）
甲國信（仙台ＯＢ）
上野和子（札幌ＯＢ）

幹事長

樋口正宏

副幹事長

川合勝雄
宮坂孝夫

幹事

千喜良誠
斉藤彰
高田和寿
手塚修
平山和博
加藤国雄
伊藤和夫
本多和彦
川井陽一
貝沼孝二

会計幹事

菅野憲幸

監事

佐藤陞三
高瀬勝

顧問

下條泰生

中條　仁
沼澤研一
羽隅弘宣
安部英夫
芳賀秀樹
飯沼俊男
石原俊一
小森力雄
高橋俊龍
小関　薫
板垣義次
今井和夫
安部三十郎

東京支部長
加藤国雄

東京支部副支部長
舟山国夫

東京支部幹事長
安部洋司

東京支部幹事
鈴木正明
佐藤憲一
武田　篤
山田幸生

東京支部会計幹事
赤井淳一

東京支部監事
高山征一

米沢支部長
本多和彦

米沢支部副支部長
高橋丈夫
小林伸一

仙台支部長
甲國信

仙台支部副支部長
塚原保夫

仙台支部理事
滝口政彦
今野多助
鈴木良平

仙台支部監事
船山完一

仙台支部顧問
中條　仁
本田健夫

仙台支部事務局
長澤健一

後記

▼今年の夏は雨が降らず猛暑が続いた。九月に入って台風十八号が栃木、茨城、宮城などに大きな被害をもたらした。日光の鬼怒川が氾濫し堤防が決壊し、住宅街を襲い家屋が流され大被害となった。当地方では大きな被害がなかったが、その後も雨で晴れ間が少なく秋上げが心配された。ようやく刈取りが終了し今年も実りの秋となった。

▼今年は公益社団法人としてスタートしてから初めての役員改選となった。新役員十五名のうち女性が二名となり、運営に新風が入り会務に期待されている。会員名簿が間もなく発行されるが、今までの名簿をスリム化することとなった。あわせて広告欄を割愛し、定款を入れるなど工夫している。広告については会誌の方に乗り換えていただくようお願いした。毎年発行するよう検討するとしている。

▼我妻栄記念館の劣化改修工事が完了した。米沢市の補助事業で六月から九月まで四か月休館し、一部耐震補強なども加え一新された。併せて記念館が通りから見えるように大きな表示看板を設置し、十月一日から開館した。なお記念館の広報活動としてポスターを作成し、全国の法学部のある大学に配布することとした。

▼本会の公益社団法人化で各支部の活動、特に北海道支部、京都支部と離れている支部の活動を支援するため、会長副会長が奔走している。支部活動があっての有為会ですので世代交代、会員増強も含め継続にご協力ください。「なせばなる」です。

（文化広報部長　梅津幸保）

本部・各支部事務所等所在地

本部
〒一八二―〇〇〇四
東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内
電・ＦＡＸ（〇三）（三三三〇）三三〇二

東京支部
〒一八二―〇〇〇四
東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興譲館内
電・ＦＡＸ（〇三）（三三三〇）三三〇二

米沢支部
〒九九二―八五〇一
山形県米沢市金池五丁目二ノ二五
米沢市役所内　秘書広報課内
電（〇二三八）（二二）五一一一　ＦＡＸ（〇二三八）（二二）五五四一

仙台支部
〒九八〇―〇八七四
宮城県仙台市青葉区角五郎二―六―二二
仙台興譲館内
電・ＦＡＸ（〇二二）（二二二）四七九〇

京都支部
〒六一五―八〇〇一
京都府京都市西京区下津林北浦町一九―八
長沢　智　方
電（〇七五）（三八一）八五一一

北海道支部
〒〇六〇―〇〇六一
北海道札幌市中央区南一条西八丁目　ＴＧ札幌ビル７Ｆ
㈱日建社内　田村邦夫
電（〇一一）（二七一）二五八五

米沢有為会設置施設

東京興譲館　〒182-0004　東京都調布市入間町１－36
電・ＦＡＸ（03）（3309）３３０２

仙台興譲館　〒980-0874　宮城県仙台市青葉区角五郎２－６－21
電・ＦＡＸ（022）（222）４７９０

我妻榮記念館　〒992-0045　山形県米沢市中央３－４－38
電・ＦＡＸ（0238）（24）２２１１

発　行　公益社団法人 米沢有為会
会長 須貝英雄
編集担当　文化広報部
部長 梅津幸保
発行日　平成二十七年十月十五日

有限会社 アルックス

☎03-3990-6289

代表取締役　宮坂 孝夫（昭41 興譲館卒）
東京都練馬区貫井2丁目16番13号

全国のコンビニで初めて
ファミリーマート の店頭で印刷が頼めます。

封筒印刷、チラシ、社内資料、名刺、広報誌、DM、ポスター
印刷物のご相談なら、気軽で 親切な「コンビニ印刷屋」へ

あなたと、コンビに、
FamilyMart

- **富士見台駅前店**　練馬区貫井3-10-8
  ※西武池袋線富士見台駅前
- **貫井町店**　練馬区貫井2-16-13
  ※富士見台駅から5分

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に

上杉記念館 上杉伯爵邸

米沢市丸の内1−3−60
電話：0238−21−5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする

総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）

株式会社 エービーエム

ABM

本　　社
〒992-0003　山形県米沢市窪田町窪田584-2
☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

南陽営業所
〒992-0472　山形県南陽市宮内4641
☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

expanda sign
portable instant advertising

エキスパンダ・サイン総代理店

株式会社 向洋アドシステム

代表取締役社長
金子　晃司
（米沢興譲館高校　昭和41年卒）

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-8-1 新宿セブンビル
TEL 03-3350-6777　FAX 03-3350-1587
http://www.koyo-ad.co.jp

全国新酒鑑評会
七年連続金賞受賞

清酒 東光 とうこう

上品な吟醸香、溢れる旨み、
心地良い余韻・・・
技術の粋を結集して醸した
極上の美酒

創業四百有余年
株式会社 小嶋総本店

漬物はやっぱり 雪国の米沢のが一番

一度あがってみてください!!
創業50年の専門店　窪田の後藤商店

お申し込みは最寄りの取り扱い店または当店まで
自然の味をそのまま手づくり

有限会社 後藤商店

〒992-0003　山形県米沢市窪田町窪田413-3
☎0238-37-5378(代)
FAX 0238-37-6345
http://www.marsho.jp
E-mail: info@marsho.jp

後藤喜彦　東京興譲館寮　平成12年卒

◎宅配便でお届けします。(関東方面648円)
(送料は別途申し受けます)
お支払いは代金引替、郵便振替等で

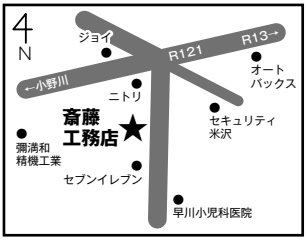
No.	規　格	価　格
A	おみ漬(８袋)	3,240円
B	青菜漬(８袋)	3,240円
C	おみ漬・青菜漬詰合(８袋)	3,240円
D	赤かぶ甘酢漬(８袋)	3,672円
E	おみ漬(３袋)青菜漬(３袋)赤かぶ(２袋)	3,348円

他にミックスにも応じます。
米沢では米沢駅２Ｆアスクでも販売しています。

日本の風土にあった家づくり 21世紀の長寿命健康木造住宅

有限会社 斎藤工務店

☆通気断熱ＷＢ工法（呼吸する家）
☆長期優良住宅（米沢市認定第１号）
☆新築･リフォーム エコポイント対応
☆アパート、貸家、土地建物売買仲介



建設業知事許可23第500129号
(公社)宅地建物取引業会会員
山形県知事許可(9)第1291号

〒992-0057 米沢市成島町1丁目7-17
TEL 0238-23-4905
FAX 0238-21-3159

割烹
志ん柳

個室３名様から100名様まで

〒992-0045 米沢市中央一丁目14-4
電　話 0238－21－1234

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

所属アーティスト　大泉逸郎「爺　の　海」(テイチク)
浜　博也「越佐海峡」(テイチク)
奥山えいじ「はぐれ雪虫」(テイチク)
(全員山形県出身です)

代表取締役
プロデューサー **木村尚武**

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10
デューク桜上水 507
PHONE 03 (5317) 4770
F A X 03 (5317) 4780

環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています

SKK

計量証明事業登録
宮城県知事　第Ｈ７－００１号(濃度)

仙台環境科学株式会社

代表取締役　　加藤　啓二

〒９８０－００１１
宮城県仙台市青葉区上杉三丁目３番１７号
ＴＥＬ（０２２）２６３－１３６１
ＦＡＸ（０２２）２６３－１３６２

自頼卒業生（Ｓ，４７）

鯉料理＆スローフーズ **鯉の宮坂**

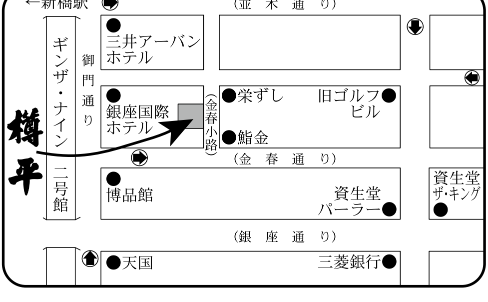
米沢牛惣菜 地産創食 **宮香本舗** みやこうほんぽ

株式会社 タスクフーズ
山形県米沢市相生町7－130

0120－25－7188
URL http://www.koi-miyasaka.com

ご宴会・ご商談予約承ります

銀座店／銀座８丁目7の9
電話　3571－4310
神田店／神田西口駅前
電話　3251－4140



住吉 樽平

蔵元直営
酒場

樽平
（川西町）

TCT研究会代表

Translating／技術翻訳（科学技術翻訳士）
Consulting／経営コンサルティング（日本経営士会）
Teaching／学習指導（塾講師）

株式会社 アイピーシーアイ アドバイザー
アソシエイト シニアテクニカルアドバイザー

〒231-0032　横浜市中区不老町1−2−1 中央第6関内ビル

須　貝　英　雄

（南陽市出身、米沢興譲館高校33年卒）
〒254-0913 神奈川県平塚市万田841-2
TEL/FAX 0463-31-3607　携帯電話 090-3694-7572
E-mail:h-sugai@msi.biglobe.ne.jp
E-mail:h.sugai@ipci-front.com

地元に愛されて30年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。

security
NEXT Alert
東北警備保障

東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話　0238-29-0005
FAX　0238-29-0015
URL http://www.next-alert.co.jp

営業品目
・機械警備　・常駐警備　・交通誘導業務
・イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
・施設管理（米沢市総合公園　指定管理者など）
・清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム（最新式）導入！

医療法人社団リフレッシュにいの

にいの整形外科

理事長
医学博士 **新　野　正　憲**

（米沢市出身　米沢興譲館高校・昭和34年卒）

〒252-0231 相模原市中央区相模原3－12－9
TEL　042-751-5611
FAX　042-751-9386
http://niino-seikeigeka.or.jp

日本ブックサービスはBOOKの倉庫です
3つの分野をベースにお客様のご要望にお応えします

保守管理業務
コンピューターによる商品在庫管理

入出庫発送業務
商品の納品、引き取り、国内外発送
宅急便・メール便でのダイレクト発送

改装・返品業務
文庫から上製本までの改装をスピーディーに対応

株式会社　日本ブックサービス
〔本社〕 〒359-0023　埼玉県所沢市東所沢和田3−7−2
TEL. 04-2944-9951㈹　FAX. 04-2944-9960
URL　http://nihonbook.com

日本橋小舟町

舟寿し

創業半世紀、日本橋小舟町で培われた江戸前の技が活きるお寿司・お刺身と共に四季折々の御料理がご堪能いただけます。お座敷はさまざまな個室、カウンター、テーブル席もご用意いたしております。大小ご宴会から御家族、ご友人との御会食まで幅広くご利用頂けます。

社長　深澤　和子
（米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒）

TEL. 03-3661-4569　FAX. 03-3661-0568
〒103-0024　東京都中央区日本橋小舟町11-2
http://r.gnavi.co.jp/funazushi

【営業時間】　AM11:30～PM 2:30
PM 4:30～PM10:00
（PM9:30オーダーストップ）
（土曜日の夜は要予約）

【定休日】　日曜日、祝日

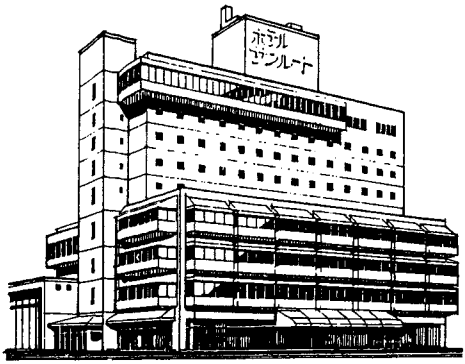
塩引寿し
米沢牛串焼き
玉こんにゃく
米沢ラーメン　全国唯一!!
うこぎソフト
その他いろいろ

上杉城史苑すぐ隣り！

べに花庵

住　　所／〒992-0052 米沢市丸の内1-1-22
電話番号／0238-23-6310
営業時間／9:00から17:00まで　定休日 ／ なし

ご宴会、ご会合は
サンルートにおまかせ下さい



ご予約
お問合せは

ホテルサンルート米沢

〒992-0039 山形県米沢市門東町3-3-1 共立ビル　TEL 0238-22-6655(代)

地元で愛され42年
住まいづくりはお客様の笑顔づくり

住宅の新築　ママ応援住宅、子育て世代応援住宅、建替え、二世帯住宅など

リフォーム　水まわり工事、増改築、小さな修繕から全面リフォームなど

不動産　土地、建物仲介から 新築、リフォームも合わせた相談など

イベント情報など詳しくは WEB で！　ホンダホームズ　検索

株式会社 本多建設

お問合せは今すぐ！ TEL 0238-21-5100

〒992-0047 山形県米沢市徳町 7-52　FAX 0238-21-4458　E-mail info@hondahomes.com

グルメからお土産まですべて揃う
米沢観光のキーステーション

ご/き/げ/ん 食彩倶楽部

米沢牛をはじめ、
物産品が満載!!

●ご希望の方に上杉城史苑商品
カタログをお送りいたします。

http://uesugijoshien.jp

YAMAGATA YONEZAWA UESUGI

上杉城史苑

㈱上杉コーポレーション
〒992-0052　米沢市丸の内一丁目1-22
TEL.0238-23-0700　FAX.0238-21-8252

株式会社
羽陽印刷
米沢市中央3丁目9−22
TEL (0238)23-0467(代)
FAX (0238)23-0480

お客様の商売繁盛を応援しています。

Kawashima Printing co.,ltd

株式会社 川島印刷

〒992-0021 山形県米沢市大字花沢221-2

TEL 0238-21-5511・FAX 0238-21-5514

米沢のこと・印刷のこと
米沢グルメ情報など
ブログはコチラ
『川島夢便り』

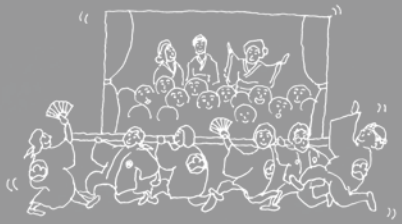
川島印刷 ←検索

ホームページに事例多数掲載中！

http://kawa-prt.com/

こまつ座

私たちは、人を泣かせたり、笑わせたりしている会社です。



こまつ座は、座付作者井上ひさしの戯曲のみを専門に上演する制作集団です。公演全般にわたる管理業務をおこなっております。舞台を上演し続け、舞台が生みだす感動を、皆さまに届け続けたいのです。

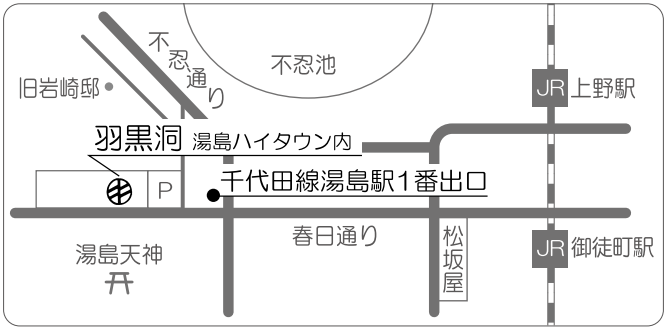
画廊取扱作品

宮島詠士・肉筆浮世絵・泥絵・大津絵
木村荘八・中村正義・現代作家　他

株式会社 羽黒洞 木村東介

社　長
木 村 品 子（米沢市）

〒113-0034 文京区湯島4-6-11 湯島ハイタウン
TEL.03-3815-0431　FAX.03-3816-3569
www.hagurodo.jp　hagurodo@gmail.com



企業を育て、地域を伸ばす

米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992−0045 米沢市中央4丁目1−30
TEL 0238−21−5111　FAX 0238−21−5116
URL:www.ycci .or.jp　E-mail:yone-cci@ycci.or.jp

地元とともに･･･

米沢信用金庫 は
≪地域とお客様のための
ほんものの金融機関≫
を目指しております。

米沢信用金庫

会　長　種村　信次（昭和33年卒）
理事長　加藤　秀明（昭和47年卒）

山形県米沢市大町５丁目４－２７
ＴＥＬ　０２３８－２２－３４３３
URL http://www.shinkin.co.jp/yonezawa

有限会社 アルックス

☎03-3990-6289

代表取締役　宮坂 孝夫（昭41 興譲館卒）
東京都練馬区貫井2丁目16番13号

全国のコンビニで初めて
ファミリーマート の店頭で印刷が頼めます。

封筒印刷、チラシ、社内資料、名刺、広報誌、DM、ポスター
印刷物のご相談なら、気軽で 親切な「コンビニ印刷屋」へ

あなたと、コンビに、
FamilyMart

- **富士見台駅前店**　練馬区貫井3-10-8
  ※西武池袋線富士見台駅前
- **貫井町店**　練馬区貫井2-16-13
  ※富士見台駅から5分

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に

上杉記念館 上杉伯爵邸

米沢市丸の内1−3−60
電話：0238−21−5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする

総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）

株式会社 エービーエム

ABM

本　　社
〒992-0003　山形県米沢市窪田町窪田584-2
☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

南陽営業所
〒992-0472　山形県南陽市宮内4641
☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

expanda sign
portable instant advertising

エキスパンダ・サイン総代理店

株式会社 向洋アドシステム

代表取締役社長
金子　晃司
（米沢興譲館高校　昭和41年卒）

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-8-1 新宿セブンビル
TEL 03-3350-6777　FAX 03-3350-1587
http://www.koyo-ad.co.jp

全国新酒鑑評会
七年連続金賞受賞

清酒 東光 とうこう

上品な吟醸香、溢れる旨み、
心地良い余韻・・・
技術の粋を結集して醸した
極上の美酒

創業四百有余年
株式会社 小嶋総本店

漬物はやっぱり 雪国の米沢のが一番

一度あがってみてください!!
創業50年の専門店　窪田の後藤商店

お申し込みは最寄りの取り扱い店または当店まで
自然の味をそのまま手づくり

有限会社 後藤商店

〒992-0003　山形県米沢市窪田町窪田413-3
☎0238-37-5378(代)
FAX 0238-37-6345
http://www.marsho.jp
E-mail: info@marsho.jp

後藤喜彦　東京興譲館寮　平成12年卒

◎宅配便でお届けします。(関東方面648円)
(送料は別途申し受けます)
お支払いは代金引替、郵便振替等で

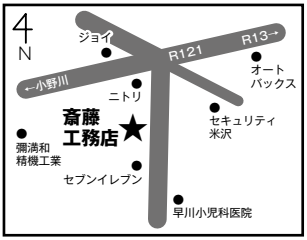
No.	規　格	価　格
A	おみ漬(８袋)	3,240円
B	青菜漬(８袋)	3,240円
C	おみ漬・青菜漬詰合(８袋)	3,240円
D	赤かぶ甘酢漬(８袋)	3,672円
E	おみ漬(３袋)青菜漬(３袋)赤かぶ(２袋)	3,348円

他にミックスにも応じます。
米沢では米沢駅２Ｆアスクでも販売しています。

日本の風土にあった家づくり 21世紀の長寿命健康木造住宅

有限会社 斎藤工務店

☆通気断熱ＷＢ工法（呼吸する家）
☆長期優良住宅（米沢市認定第１号）
☆新築･リフォーム エコポイント対応
☆アパート、貸家、土地建物売買仲介



建設業知事許可23第500129号
(公社)宅地建物取引業会会員
山形県知事許可(9)第1291号

〒992-0057 米沢市成島町1丁目7-17
TEL 0238-23-4905
FAX 0238-21-3159

割烹
志ん柳

個室３名様から100名様まで

〒992-0045 米沢市中央一丁目14-4
電　話 0238－21－1234

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

所属アーティスト　大泉逸郎「爺　の　海」(テイチク)
浜　博也「越佐海峡」(テイチク)
奥山えいじ「はぐれ雪虫」(テイチク)
(全員山形県出身です)

代表取締役
プロデューサー **木村尚武**

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-25-10
デューク桜上水 507
PHONE 03 (5317) 4770
F A X 03 (5317) 4780

環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています

SKK

計量証明事業登録
宮城県知事　第Ｈ７－００１号(濃度)

仙台環境科学株式会社

代表取締役　　加藤　啓二

〒９８０－００１１
宮城県仙台市青葉区上杉三丁目３番１７号
ＴＥＬ（０２２）２６３－１３６１
ＦＡＸ（０２２）２６３－１３６２

自頼卒業生（Ｓ，４７）

鯉料理＆
スローフーズ　**鯉の宮坂**

米沢牛惣菜
地産創食　**宮香本舗** みやこう ほんぽ

株式会社 タスクフーズ
山形県米沢市相生町7－130

0120－25－7188
URL http://www.koi-miyasaka.com

住吉
樽平

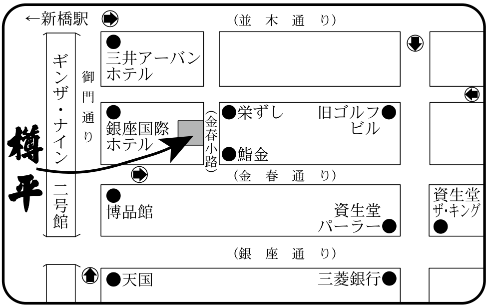
蔵元直営
酒場

樽平

（川西町）

ご宴会・ご商談予約承ります

銀座店／銀座８丁目7の9
電話　3571－4310
神田店／神田西口駅前
電話　3251－4140



TCT研究会代表

Translating／技術翻訳（科学技術翻訳士）
Consulting／経営コンサルティング（日本経営士会）
Teaching／学習指導（塾講師）

株式会社 アイピーシーアイ アドバイザー
アソシエイト シニアテクニカルアドバイザー

〒231-0032　横浜市中区不老町1−2−1 中央第6関内ビル

須　貝　英　雄

（南陽市出身、米沢興譲館高校33年卒）
〒254-0913 神奈川県平塚市万田841-2
TEL/FAX 0463-31-3607　携帯電話 090-3694-7572
E-mail:h-sugai@msi.biglobe.ne.jp
E-mail:h.sugai@ipci-front.com

地元に愛されて30年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。

security
NEXT Alert
東北警備保障

東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話　0238-29-0005
FAX　0238-29-0015
URL http://www.next-alert.co.jp

営業品目
・機械警備　・常駐警備　・交通誘導業務
・イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
・施設管理（米沢市総合公園　指定管理者など）
・清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム（最新式）導入！

医療法人社団リフレッシュにいの

にいの整形外科

理事長
医学博士 **新　野　正　憲**

（米沢市出身　米沢興譲館高校・昭和34年卒）

〒252-0231 相模原市中央区相模原3－12－9
TEL　042-751-5611
FAX　042-751-9386
http://niino-seikeigeka.or.jp

日本ブックサービスはBOOKの倉庫です
3つの分野をベースにお客様のご要望にお応えします

保守管理業務
コンピューターによる商品在庫管理

入出庫発送業務
商品の納品、引き取り、国内外発送
宅急便・メール便でのダイレクト発送

改装・返品業務
文庫から上製本までの改装をスピーディーに対応

株式会社　日本ブックサービス
〔本社〕 〒359-0023　埼玉県所沢市東所沢和田3−7−2
TEL. 04-2944-9951㈹　FAX. 04-2944-9960
URL　http://nihonbook.com

日本橋小舟町

舟寿し

創業半世紀、日本橋小舟町で培われた江戸前の技が活きるお寿司・お刺身と共に四季折々の御料理がご堪能いただけます。お座敷はさまざまな個室、カウンター、テーブル席もご用意いたしております。大小ご宴会から御家族、ご友人との御会食まで幅広くご利用頂けます。

社長　深澤　和子
（米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒）

TEL. 03-3661-4569　FAX. 03-3661-0568
〒103-0024　東京都中央区日本橋小舟町11-2
http://r.gnavi.co.jp/funazushi

【営業時間】　AM11:30～PM 2:30
PM 4:30～PM10:00
（PM9:30オーダーストップ）
（土曜日の夜は要予約）

【定休日】　日曜日、祝日

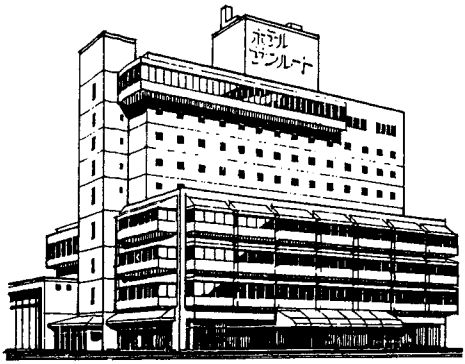
塩引寿し
米沢牛串焼き
玉こんにゃく
米沢ラーメン　全国唯一!!
うこぎソフト
その他いろいろ

上杉城史苑すぐ隣り！

べに花庵

住　　所／〒992-0052 米沢市丸の内1-1-22
電話番号／0238-23-6310
営業時間／9:00から17:00まで　定休日 ／ なし

ご宴会、ご会合は
サンルートにおまかせ下さい



ご予約
お問合せは

ホテルサンルート米沢

〒992-0039 山形県米沢市門東町3-3-1 共立ビル　TEL 0238-22-6655(代)

地元で愛され42年
住まいづくりはお客様の笑顔づくり

住宅の新築　ママ応援住宅、子育て世代応援住宅、建替え、二世帯住宅など

リフォーム　水まわり工事、増改築、小さな修繕から全面リフォームなど

不動産　土地、建物仲介から 新築、リフォームも合わせた相談など

イベント情報など詳しくは WEB で！　ホンダホームズ　検索

株式会社 本多建設

お問合せは今すぐ！ TEL 0238-21-5100

〒992-0047 山形県米沢市徳町 7-52　FAX 0238-21-4458　E-mail info@hondahomes.com

グルメからお土産まですべて揃う
米沢観光のキーステーション

ご/き/げ/ん 食彩倶楽部

米沢牛をはじめ、
物産品が満載!!

●ご希望の方に上杉城史苑商品
カタログをお送りいたします。

http://uesugijoshien.jp

YAMAGATA YONEZAWA UESUGI

上杉城史苑

㈱上杉コーポレーション
〒992-0052　米沢市丸の内一丁目1-22
TEL.0238-23-0700　FAX.0238-21-8252

株式会社
羽陽印刷
米沢市中央3丁目9−22
TEL (0238)23-0467(代)
FAX (0238)23-0480

お客様の商売繁盛を応援しています。

Kawashima Printing co.,ltd

株式会社 川島印刷

〒992-0021 山形県米沢市大字花沢221-2

TEL 0238-21-5511・FAX 0238-21-5514

米沢のこと・印刷のこと
米沢グルメ情報など
ブログはコチラ
『川島夢便り』

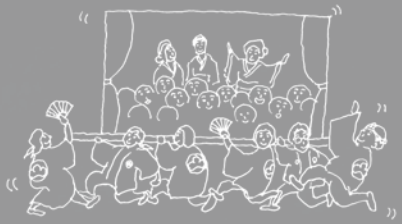
川島印刷 ←検索

ホームページに事例多数掲載中！

http://kawa-prt.com/

こまつ座

私たちは、人を泣かせたり、笑わせたりしている会社です。



こまつ座は、座付作者井上ひさしの戯曲のみを専門に上演する制作集団です。公演全般にわたる管理業務をおこなっております。舞台を上演し続け、舞台が生みだす感動を、皆さまに届け続けたいのです。

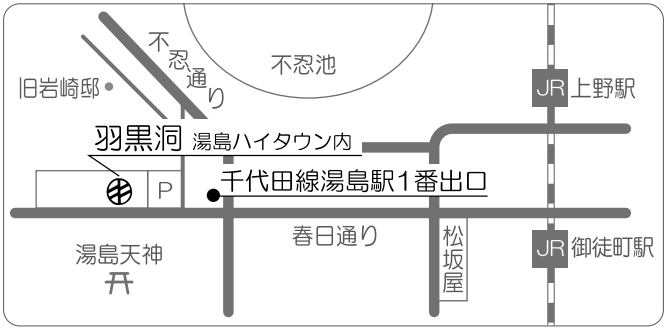
画廊取扱作品

宮島詠士・肉筆浮世絵・泥絵・大津絵
木村荘八・中村正義・現代作家　他

株式会社 羽黒洞 木村東介

社　長
木 村 品 子（米沢市）

〒113-0034 文京区湯島4-6-11 湯島ハイタウン
TEL.03-3815-0431　FAX.03-3816-3569
www.hagurodo.jp　hagurodo@gmail.com



企業を育て、地域を伸ばす

米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992−0045 米沢市中央4丁目1−30
TEL 0238−21−5111　FAX 0238−21−5116
URL:www.ycci .or.jp　E-mail:yone-cci@ycci.or.jp

地元とともに･･･

米沢信用金庫 は
≪地域とお客様のための
ほんものの金融機関≫
を目指しております。

米沢信用金庫

会　長　種村　信次（昭和33年卒）
理事長　加藤　秀明（昭和47年卒）

山形県米沢市大町５丁目４－２７
ＴＥＬ　０２３８－２２－３４３３
URL http://www.shinkin.co.jp/yonezawa

My Style Wedding

☎でのお問い合せは☞ **0238-22-1238**

www.grand-hokuyo.com

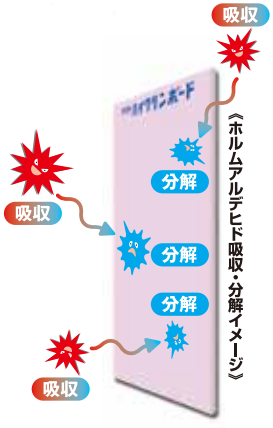
グランドホクヨウ

山形県米沢市金池2丁目3-7/TEL:(0238)22-1238/FAX:(0238)21-1067

日本全国、ホルムアルデヒド退治の「虎の巻」。

タイガーハイクリンボードは
シックハウス症候群の主な原因物質の
ホルムアルデヒドを吸収・分解するので
日本全国、安心家族の「虎の巻」です。

◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
◎不燃性、施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。



タイガー High-Clean Board
ハイクリンボード
ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード
（財）日本建築センターから「室内空気中の揮発性有機化合物汚染低減建材」として認定されました。（認定番号:BCJ-AIBT-7）
特許申請中

YOSHINO 吉野石膏
安全で快適な住空間を創る
［本社］東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 〒100-0005
http://www.yoshino-gypsum.com/
代表取締役社長 須藤永作

明治22年12月14日創刊
昭和27年８月２日復刊
第65号
平成27年10月15日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 須貝英雄
編集 文化広報部長 梅津幸保
東京都調布市入間町1丁目36番地 電話・FAX 03−3309−3302
印刷 ㈱羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9−22 電話 0238−23−0467